

綾瀬市
高齢者保健福祉計画・
第10期介護保険事業計画
に関するアンケート調査結果
報告書

令和 8 年 3 月
綾 瀬 市

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査期間	3
3. 調査方法	3
4. 調査の実施概要	4
5. 調査結果を見る上での注意事項	4
6. 調査結果の概要	5
第2章 調査結果の詳細／一般調査（40～64歳）	13
1. 回答者属性	15
（1）性別・年齢	15
（2）家族構成	16
（3）住居形態	16
（4）居住地区	17
2. 仕事や社会参加活動	18
（1）就労状況	18
（2）65歳以降の就労意向	18
（3）参加している自主的な活動	19
（4）65歳以降になった時に興味・関心があること	20
（5）65歳以降で不安なこと	21
3. 身体と健康の状況	22
（1）健康状態	22
（2）健康だと感じることができる理由	23
（3）健康だと感じることができない理由	24
（4）かかりつけ医師の有無	25
（5）現在治療中、または後遺症のある病気	26
4. 介護予防	27
（1）1年間に受けた健康診査	27
（2）健康診査を受けなかった理由	28
（3）運動や栄養改善	28
（4）介護予防の取り組みで興味があるもの	29
（5）介護予防の取り組みで参加しやすい・参加したいと思う条件	30
5. 地域とのかかわり	31
（1）今後参加し（続け）たいと思う支援活動	31
（2）近所の方とのつきあいの程度	31
（3）友人・知人と会う頻度	32

(4) 心配事や愚痴を聞いてくれる人	32
(5) 心配事や愚痴を聞いてあげる人	33
(6) 地域包括支援センターの認知度	34
6. 今後希望する暮らし	36
(1) 介護が必要となった場合の住まいの希望	36
(2) 介護が必要になっても在宅で安心して暮らし続けるサービスや条件	37
(3) 人生の最期を迎えたい場所	38
7. 認知症	39
(1) 認知症に関する相談窓口の認知	39
(2) 認知症に対する印象	39
(3) 認知症の人と接する際に困ったこと・心配なこと	40
(4) 認知症になった時や認知症予防で受けたい支援や取り組み	40
8. 綾瀬市の保健福祉サービス等	41
(1) サービスの認知度・利用意向	41
9. 自由記述	43

第3章 調査結果の詳細／介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

1. 回答者属性	51
(1) 年齢構成（性別）	51
(2) 認定状況（性別）	51
(3) 年齢構成（認定状況別）	51
(4) 日常生活圏域（性別）	52
(5) 年齢構成（日常生活圏域別）	52
(6) 住宅の所有関係（男女別）	52
(7) 世帯構成（男女別）	52
(8) 年齢構成（世帯構成別）	53
2. 家族や生活状況	54
(1) 家族構成	54
(2) 介護・介助の必要度	55
(3) 介護・介助が必要になった主な原因	56
(4) 主な介護、介助者	57
(5) 暮らし向き	57
(6) 住居形態	59
(7) 日中、家にひとりでいること	60
(8) 普段の生活での行動範囲	60
(9) 交流手段別の頻度	61
3. からだを動かすこと	62
■運動機能低下リスク判定	62
(1) 階段の昇降	64

(2) 椅子からの立ち上がり	64
(3) 15分間の歩行	65
(4) 運動習慣・一緒に運動をする人	65
(5) 運動をする頻度	66
■転倒リスク判定	67
(6) 過去1年間の転倒経験	69
(7) 転倒に対する不安	69
■閉じこもり傾向リスク判定	70
(8) 外出頻度	72
(9) 外出回数の減少	72
(10) 外出控え	73
(11) 外出控えの理由	73
(12) 外出する際の移動手段	74
4. 食べること	75
■低栄養傾向リスク判定	75
(1) BMI	77
(2) 体重減少の有無	77
■口腔機能リスク判定	78
(3) 固いものの食べにくさ	80
(4) むせる経験	80
(5) 口の渇き	80
(6) 毎日の歯磨き	81
(7) 歯の本数・入れ歯の使用状況	81
(8) 毎日入れ歯の手入れ	82
(9) 噛み合わせが良い	82
(10) 共食の頻度	82
5. 毎日の生活	83
■認知機能低下リスク判定	83
(1) 物忘れの有無	85
(2) 電話使用の有無	85
(3) 日付がわからない時の有無	85
(4) 本人または家族に認知症の症状がある	86
(5) 認知症に関する相談窓口の認知度	86
(6) 認知症の人に対する印象	87
(7) 認知症の人と接する際に困ったこと・心配なこと	88
(8) 認知症や認知症予防で受きたい支援や取り組み	88
■IADL機能判定	89
(9) 1人で外出	91
(10) 食品・日用品の買物	91

(11) 食事の用意	92
(12) 請求書の支払い	92
(13) 預貯金の出し入れ	92
■知的能動性判定	93
(14) 書類の記入	95
(15) 新聞を読む	95
(16) 本・雑誌を読む	95
(17) 健康記事や番組への関心	96
■社会的役割判定	97
(18) 友人宅訪問	99
(19) 家族や友人からの相談受け	99
(20) 病人への見舞い	99
(21) 若い人への話しかけ	100
(22) 趣味の有無	100
(23) 生きがいの有無	100
(24) 終末期および死後の手続き等で不安なこと	101
6. 地域での活動	102
(1) 会・グループ等の参加頻度	102
(2) 地域での健康づくり活動や趣味等のグループ活動・参加者としての参加意向	103
(3) 地域での健康づくり活動や趣味等のグループ活動・企画・運営としての参加意向	103
7. たすけあい	104
(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人	104
(2) 心配事や愚痴を聞いてあげる人	104
(3) 看病や世話をしてくれる人	105
(4) 看病や世話をしてあげる人	105
(5) 家族や友人・知人以外で相談する相手	106
(6) 1 か月間で会った友人・知人の数	106
(7) よく会う友人・知人との関係	107
(8) 孤独や孤立への不安	108
8. 健康	109
(1) 健康状態	109
(2) 幸福度	110
■うつ傾向リスク判定	112
(3) 気分の落ち込み	114
(4) 物事への興味	114
(5) 飲酒頻度	114
(6) 喫煙頻度	115
(7) 病気の有無	116
9. 仕事	117

(1) 就労状況	117
(2) 今後の就労意向	117
(3) 今後就労意向ありの理由	118
(4) アクティブ・シニア応援窓口の認知度	118
10. 今後希望する暮らし	119
(1) 心身の健康に関して希望すること	119
11. 自由記述	120

第4章 調査結果の詳細／在宅介護実態調査 129

1. 回答者属性	131
(1) 年齢構成（男女別）	131
(2) 要介護度（男女別）	131
(3) 年齢（要介護度別）	131
2. 本人（介護を受ける側）の状況	132
(1) 世帯類型	132
(2) 家族や親族からの介護	132
(3) 保険外の支援・サービスの利用状況	133
(4) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス	134
(5) 施設等検討の状況	135
(6) 本人が抱えている傷病	136
(7) 訪問診療の利用の有無	137
(8) 介護保険サービスの利用の有無	137
(9) 介護保険サービス未利用の理由	138
(10) 身体の状態と介護サービスについて	139
3. 介護者の状況	140
(1) 主な介護者の本人との関係	140
(2) 主な介護者の性別	140
(3) 主な介護者の年齢	141
(4) 主な介護者が行っている介護	142
(5) 主な介護者の勤務形態	143
(6) 主な介護者の働き方の調整の状況	144
(7) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援	145
(8) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識	146
(9) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護	147
(10) 介護のための離職の有無	148
4. 要介護認定データ	149
(1) 年齢	149
(2) 性別	149
(3) 要介護度	150

（４）サービス利用の組み合わせ	150
（５）訪問系サービスの合計利用回数	151
（６）通所系サービスの合計利用回数	151
（７）短期系サービスの合計利用回数	152
（８）障害高齢者の日常生活自立度	153
（９）認知症高齢者の日常生活自立度	154
5. クロス集計分析	155
（１）在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討年齢	155
（２）仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討	174
（３）保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討	190
（４）将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討	202
（５）医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討	210
（６）サービス未利用の理由など	217
6. 自由記述	233
（１）本人の介護保険事業等への意見・要望	233
（２）主な介護者の介護保険事業等への意見・要望	238

第5章 調査結果の詳細／ 居所変更実態調査 249

1. 回答事業所の属性	251
（１）サービス種別	251
（２）施設等の概要	252
（３）入所・入居者の要支援・要介護度	253
（４）受け入れ可能な医療処置	254
（５）医療処置を受けている入所・入居者数	255
（６）地域内の居所移動の実態	256
（７）過去1年間における退去者の要介護度	260
（８）退去理由	261
（９）退去によくあるケース／自由記述	262

第6章 調査結果の詳細／ 介護人材実態調査 263

1. 回答者の属性	265
（１）事業所数・職員数	265
（２）職員の性別	266
（３）職員の年齢	266
2. 介護職員の勤務状況	267
（１）資格所有状況	267
（２）雇用形態	268
（３）勤務時間	270
（４）訪問介護サービスの提供時間	271

3. 介護職員の流出入	273
(1) 勤務年数	273
(2) 採用者数と離職者数	274
(3) 現在の事業所に勤務する直前の職場	275
(4) 前の職場が介護事業所である職員の前の職場	276
(5) 介護職員の過不足	277
(6) 不足している職種	278
(7) 不足している理由	279
4. 経営状況と有償ボランティアの利用	280
(1) 介護報酬改定による経営状況の変化	280
(2) 有償ボランティアの活用意向	280
(3) 有償ボランティアを利用する場合の妥当額	281
5. 意見・要望／自由記述	282
(1) 採用や人材定着に関する課題	282
(2) 人材確保に関して市に期待するサポート／自由記述	283
(3) 介護保険事業等へのご意見・ご要望／自由記述	284

第7章 調査結果の詳細／在宅生活改善調査 285

1. 事業所票	287
(1) 所属するケアマネジャーの人数、および利用者数	287
(2) 居場所を変更した利用者数の要介護度	288
(3) 居場所を変更した利用者の行き先	289
(4) 利用者が在宅生活の維持が難しくなるケース／自由記述	290
2. 利用者票／自宅での生活維持が難しくなっている人の属性	291
(1) 世帯類型	291
(2) 現在の居所	291
(3) 要支援・要介護度	291
3. 利用者票／利用者の状況	292
(1) 生活の維持が難しくなっている利用者とその居所	292
(2) 家族等介護者の就労継続が難しくなっている利用者とその居所	292
4. 利用者票／利用者の主な家族等介護者の状況等	293
(1) 家族等介護者の負担になっている介護	293
5. 利用者票／本人の生活の維持、もしくは家族等介護者の就労継続が難しくなっている理由等	294
(1) 本人の状態等に属する理由	294
(2) 主に本人の意向に属する理由	295
(3) 主に家族等介護者の意向・負担等に属する理由	296
(4) 充実が必要な生活支援	297
6. 利用者票／サービス利用の変更等	298

（１）本来であればより適切と思われる具体的なサービスと入所・入居の緊急度	298
（２）特養以外に入所・入居できていない理由	300
（３）特養に入所できていない理由	301
（４）今後整備が必要と感じるサービス	302
（５）担当利用者の小規模多機能型居宅介護または看護小規模多機能型居宅介護への変更の有無	303
（６）変更経験がない理由	303
（７）市の介護保険事業等へのご意見・ご要望／自由記述	304

第８章 調査結果の詳細／ 認知症の方の暮らしアンケート 305

1. 回答者属性	307
2. 調査結果	308
（１）周りの人が認知症を正しく理解しているか	308
（２）希望に沿った保健医療福祉サービスを受けているか	308
（３）大切な人に認知症であることを打ち明けられるか	309
（４）自分の思いが尊重されていると思うか	309
（５）認知症の診断後も様々な技術を用いて、希望を持って暮らせているか	310
（６）その他暮らしに関するご意見／自由記述	310
（７）今後充実してほしい認知症施策	311
（８）その他／自由記述	312

第９章 調査票 313

1. 一般調査（40～64歳）	315
2. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	320
3. 在宅介護実態調査	327
4. 居所変更実態調査	332
5. 介護人材実態調査	336
6. 在宅生活改善調査	343
7. 認知症の方の暮らしアンケート	348

第 1 章 調査の概要

1. 調査の目的

高齢者保健福祉計画・第10期介護保険事業計画の策定に向け、その基礎資料となる各種調査を実施し、調査対象者の意向、要望、現状を把握することを目的とする。

2. 調査期間

＜調査種別1～3の期間＞

・令和7年12月9日（火）～令和7年12月26日（金）

＜調査種別4～6の期間＞

・令和7年12月9日（火）～令和8年1月16日（金）

＜調査種別7の期間＞

・令和7年11月10日（月）～令和7年12月12日（金）

3. 調査方法

郵送による調査（介護予防・日常生活圏ニーズ調査、在宅介護実態調査は記名式）

4. 調査の実施概要

	調査種別		調査目的	調査対象	有効回収数／率
1	一般調査 (40～64歳)		これから高齢者となる市民に向けて、現状や今後の意向・要望を把握すること	40歳以上64歳以下の市民 (無作為抽出)930人	321人／34.5%
2	介護予防・ 日常生活圏域ニーズ調査		要介護状態になる前の高齢者のリスクや社会参加状況を把握することで、地域診断に活用し、地域の抱える課題を特定する。	要介護認定1～5を受けていない65歳以上の市民 (無作為抽出)970人	615人／63.4%
3	在宅介護実態調査		「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスの在り方を検討する。	要介護認定を受けている在宅高齢者とその介護者 1,200人	671人／55.9%
4	居所変更実態調査		過去1年間の新規入居・退去の流れや、退去の理由などを把握し、住み慣れた住まい等で暮らし続けるために必要な機能等を検討する。	介護サービス事業所の代表者または管理者 31事業所	19事業所／61.3%
5	介護人材 実態調査	<施設系・通所系> 事業所票	介護人材の実態を把握し、介護人材の確保に向けて必要な取組等を検討する。	施設・居住系サービス事業所の代表者または管理者 64事業所	34事業所／53.1%
		<訪問系> 事業所票		訪問系サービス事業所の代表者または管理者 13事業所	8事業所／61.5%
		<訪問系> 職員票		上記事業所の職員 約170人	95人
6	在宅生活 改善調査	事業所票	「(自宅等にお住まいの方で)現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている利用者」の実態を把握し、地域に不足する介護サービス等を検討する。	居宅介護支援、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護事業所の代表者または管理者 15事業所	9事業所／60.0%
		利用者票		上記事業所の介護支援専門員 約50人	39人
7	認知症の方の暮らしアンケート		認知症の当事者や家族の意見を踏まえて認知症施策の効果を把握するとともに、本市の認知症施策推進計画に反映する。	認知症本人29人 家族や介護者24人	—

5. 調査結果を見る上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数です。
- ・百分率(%)の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示しています。従って、単数回答(1つだけ選ぶ問)においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合があります。
- ・複数回答(2つ以上選んでよい問)においては、%の合計が100%を超える場合があります。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合があります。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合があります。

6. 調査結果の概要

(1) 一般調査 (40～64歳)

●仕事や社会参加活動について

現在、収入を伴う仕事をしているかについてみると、「週4回以上」の割合が71.0%と高く、令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

また、参加している自主的な活動についてみると、「趣味関係のグループや習い事」「自治会」「スポーツ関係のグループやクラブ」が1割以上となっていますが、最も高いのは「特にない」で5割を超えています。

65歳以降での興味・関心についても、3割が「特にない」としています。

●身体と健康の状態について

自分の健康状態についてみると、「とても健康だと思う」と「まあまあ健康だと思う」を合わせると76.0%と高くなっており、令和4年度調査と比較すると大きな変化はみられません。

また、健康だと感じることができる理由としては、「休養、睡眠など規則正しい生活を送るよう心掛けているから」が49.2%、次位の「健康診断や診療を定期的に受けるなど、健康管理をしているから」は44.3%で、こちらは令和4年度調査から6.7ポイント増加しています。

現在治療中、または後遺症のある病気についてみると、「高血圧」が21.5%、「高脂血症（脂質異常）」が10.3%となっており、令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、多岐にわたっている状況には変わりありません。

●介護予防について

この1年間に受けた健康診査についてみると、「社会保険の特定健康診査あるいは人間ドック等を受けた」が61.7%と最も高く、令和4年度調査から6.0ポイント増加しています。健康診査を受けなかった理由のなかでは、令和4年度調査では上位だった「めんどう」が今回10.4ポイント減少しています。

また、介護予防の取り組みで興味があるものとしては「体力を維持・向上するための体操や運動をする」が57.0%と最も高く、参加しやすい・参加したい条件としては「いっしょに取り組む仲間がいる」(32.7%)、「からだの機能の回復が実感できる」(30.2%)が上位となっています。

●地域とのかかわりについて

今後参加し（続け）たいと思う支援活動は、「定期的な声かけや話し相手」が32.7%で最も高く、次位の「買物の代行」(23.1%)とともに、令和4年度調査から大きく増加しています。

また、近所の方とのつきあいの程度は、「あいさつをする程度」が55.5%と最も高く、次位の「立ち話をする程度」は令和4年度調査から6.3ポイント増加し、27.1%となっています。

●今後希望する暮らしについて

介護が必要となった場合の住まいの希望は、「今の住まい（現状のまま）」が32.4%で最も高く、令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

また、介護が必要になっても在宅で安心して暮らし続けるサービスや条件としては、「24時間必要に応じて、ヘルパーや看護師が来てくれる」（61.7%）、「介護や医療費に対する経済的負担が軽減される」（57.9%）、「配食や買い物、ゴミ出し等の生活面を支援してくれる」（50.2%）までが5割以上となっています。

人生の最期を迎えたい場所は、「自宅」が43.3%で最も高くなっています。

（2）介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

●仕事について

現在、収入のある仕事をしている人は24.7%となっており、また、今の仕事を継続もしくは新たに仕事を始めたいと思っている人は27.3%となっています。仕事をしたい理由としては、「収入のため」の割合が49.4%と最も高くなっています。

仕事やボランティア、地域活動、サークルなど活動・交流の場を紹介している「アクティブ・シニア応援窓口」について知っている人の割合は28.3%となっています。

高齢者でも、3～4人に1人は働きたいと考えており、働くことは、健康づくりにも寄与することからも、働きたい高齢者への支援を行っていくことが必要です。

●社会参加の促進について

趣味や生きがいの有無についてみると、幸福度が高い人ほど、「生きがいあり」の割合が高くなっており、生きがいを持つことが、幸福度につながっていることがうかがえます。

また、地域活動の参加状況をみると、全く活動に参加していない人よりも地域活動に参加している人のほうが幸福度は高い傾向にあります。

地域活動などの社会参加をすることが生きがいや介護予防につながるため、様々なかたちでの社会参加を促進することが大切です。

●生活リスク判定について

各生活リスクの判定についてみると、「該当者」の割合は、認知機能の低下が36.2%で最も高く、うつ傾向が35.9%、口腔機能の低下が23.1%、閉じこもりのリスクが17.3%となっています。

これらは、それぞれに影響を及ぼし、要介護状態となるリスクを高めるため、フレイル予防の推進が必要です。

●高齢者の生活機能について

高齢者の生活機能についてみると、「低下者」の割合は、社会的役割が66.4%で最も高く、次いで知的能動性が53.2%、手段的自立度が8.7%となっています。

●性別と生活リスク判定、高齢者の生活機能について

性別ごとに生活リスク判定と高齢者の生活機能をみると、運動機能の低下は女性の割合が高く、手段的自立度と社会的役割の低下者は男性の割合が高くなっています。

生活リスクは男女で異なる傾向があるため、各々の課題を意識した啓発を推進していくことが必要です。

(3) 在宅介護実態調査

●本人（介護を受ける側）の状況について

本人（介護を受ける側）の状況についてみると、世帯類型では「その他」の割合が42.5%と高く、家族や親族から介護を受けている日数は「ほぼ毎日」が46.1%と最も高くなっています。

また、介護者と本人の関係は「子」の割合が39.5%と高く、性別では女性が5割を超えています。

●在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービスについて

在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービスについてみると、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が25.3%となっていますが、最も高いのは「特になし」で38.5%となっています。

●介護者の勤務形態と就労の継続見込みについて

介護者の勤務形態についてみると、「働いていない」の割合が42.4%と最も高くなっています。

「フルタイム勤務」「パートタイム勤務」の就労者で働き方の調整をしている人は、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が28.5%で最も高くなっています。

また、就労の継続に効果的であると思われる勤め先からの支援は、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が20.5%、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が20.2%と高くなっています。

一方、就労継続については「問題なく、続けていける」が11.9%と低く、超高齢化が進むなか、介護は家庭だけでなく社会全体の課題であり、柔軟性に富む働き方を推進し、介護による離職を防ぐ、包括的な職場環境の構築が重要となります。

●介護保険サービスの利用の有無について

介護保険サービスを「利用している」が76.9%を占める一方、保険外の支援・サービスの利用状況では、「利用していない」が65.6%となっています。

現在の在宅介護が介護保険制度を軸として成立している一方で、保険外サービスが十分に浸透していない実態が推測されます。利用者の多くが限定的な公的枠内での生活を余儀なくされており、生活の質（QOL）の維持・向上には課題が残されています。今後は、利用を阻む心理的、就労・経済的ハードルを精査し、保険内外のサービスを自在に組み合わせ可能な支援環境の整備が必要です。

（4）居所変更実態調査

●退去について

過去1年間の退去者数は368人、そのうち死亡者は124人と約1/3を占めています。また、退去理由としては「医療的ケア・医療処置の必要性が高まったから」が68.4%と高く、医療と介護の連携をさらに深化させ、切れ目のない支援体制の構築が重要となります。

●退去者の要介護度について

退去者の要支援・要介護度は、要介護4が83人と最も多く、要介護3～5で約5割を占めていることから、要介護度が重くなることが居所変更の大きな要因と推測されます。

●変更先について

退去者の変更先をみると、病院・診療所が多く、ここでも施設内での看取りを含めた、医療ニーズへの即応体制の整備と、病院とのスムーズな情報共有の重要性が浮き彫りになっています。

（5）介護人材実態調査

●資格保有について

資格保有についてみると、「介護福祉士」の割合は、施設・居住系サービスでは65.9%と最も高く、訪問系サービスでは60.0%、通所系サービスでは58.2%となっています。

また、「介護福祉士」保有は30歳代～50歳代で6割を超え、20歳代は33.8%と低くなっています。これは、基本的に3年以上の実務などが必要なためと推測されますが、若年層の定着率が低い現状では、資格取得に至る前に離職してしまうケースも少なくないことが懸念され、学習支援やモチベーションを維持するための環境整備が求められています。

●介護職員の雇用形態について

介護職員の雇用形態についてみると、「常勤職員」の割合は、施設・居住系サービスが71.4%と最も高く、通所系サービスで40.4%、訪問系サービスが26.3%となっています。

また、性年齢別での雇用形態をみると、いずれのサービスでも「常勤職員」の女性50歳代が高く、施設・居住系で16.6%となっています。

●介護職員の勤務時間について

介護職員の1週間の勤務時間についてみると、「常勤職員」はサービスを問わず40時間弱、「非常勤職員」は施設・居住系26.9時間、訪問系20.6時間、通所系18.9時間となっています。

常勤、非常勤の間で勤務時間の差などから生じる可能性がある、情報共有の分断、スキルの二極化など構造的な課題に留意しつつ、環境を整える必要性があると推察されます。

●介護職員の勤務年数について

介護職員の勤務年数は、「1年以上」が訪問系サービスで87.8%、施設系・通所系サービスで84.5%を占め、全体でも84.0%となっています。

また、前回の調査結果では、施設系・通所系事業所において「1年以上」は7割台で、近年進められてきた介護職員の処遇改善策や、各事業所における職場環境の整備が、離職率の低下と定着率の向上に一定の成果を上げていることが推察されます。

●介護職員の採用者数と離職者数について

常勤職員数、非常勤職員数ともに、すべてのサービスで職員数が昨年比100%を超え、なかでも通所系は非常勤職員で115.5%、全体でも111.5%となっています。

ここでも前項にあげた一定の成果とともに、人材確保の施策が、僅かではありますが結果として表れていると考えられます。

(6) 在宅生活改善調査

●居場所を変更した利用者数の要介護度について

自宅等（サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームを除く）から、居場所を変更した利用者数を介護度別にみると、要介護1が16.4%と最も高く、要介護2で15.5%、要介護4で13.6%となっています。

また、利用者の行き先別にみると、「病院・診療所」が37人、「特定施設」「特別養護老人ホーム」がともに22人となっています。一方、「自宅等での死亡（搬送先での死亡を含む）」は78人となっています。

●自宅等での生活の維持が難しくなっている利用者数について

生活の維持が難しくなっている利用者についてみると、自宅等に居住が13.8%となっています。

●自宅等での生活の維持が難しくなっている理由について

本人の状態等では「認知症の症状の悪化」の割合が55.0%と高く、「必要な身体介護の増大」で46.5%となっています。また、本人の意向では「本人が、一部の居宅サービスの利用を望まないから」が40.3%、家族等介護者の意向では「介護者の介護に係る不安・負担量の増大」が55.0%と、高くなっています。

在宅生活の限界点は単なる身体能力の低下だけでなく、認知症への対応力や家族の精神面にも深く依存していることが推測できます。本人の意向を尊重しつつも、介護者の不安を解消するための具体策を講じることも重要になってきます。

●充実が必要な生活支援について

充実が必要な生活支援についてみると、「見守り、声かけ」の割合が要介護1・2で46.0%と最も高く、要介護3以上では36.8%と高くなっており、要介護度の認定に係らずに「見守り、声かけ」の生活支援が必要となっています。

●家族等介護者の負担になっている介護について

家族等介護者の負担になっている介護についてみると、要介護1・2では「認知症状への対応」が42.9%と最も高くなっています。要介護3以上では「夜間の排泄」が42.1%となっています。

(7) 認知症の方の暮らしアンケート

周りのすべての人が、認知症を正しく理解していると思うかと聞いたところ、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた『そう思わない』が37.7%となっています。

希望に沿った保健医療福祉サービスを受けているかを聞いたところ、「とてもそう思う」「少しそう思う」を合わせた『そう思う』が“本人”では75.9%と、“家族・介護者”より13.4ポイント高くなっています。

自分の思いが尊重されていると思うかと聞いたところ、「とてもそう思う」「少しそう思う」を合わせた『そう思う』が“家族・介護者”は66.6%と、“本人”より11.5ポイント高くなっています。

本人と家族・介護者で回答結果に差異がある項目が多くあり、もっと本人の意思や感じていることをくみ取り、家族・介護者と思いを共有することが必要です。

“家族・介護者”から、認知症施策を進めるうえで、今後充実してほしいことを聞いたところ、「認知症の方が利用できる介護サービス（入所・通所など）の充実」が75.0%、「認知症の方が受診・入院できる医療機関に関する情報提供」が70.8%、「認知症の正しい知識や介護方法などの情報提供・講座」「認知症を理解してくれる人や見守ってくれる地域づくり」がともに62.5%となっています。

第2章 調査結果の詳細／ 一般調査（40～64歳）

1. 回答者属性

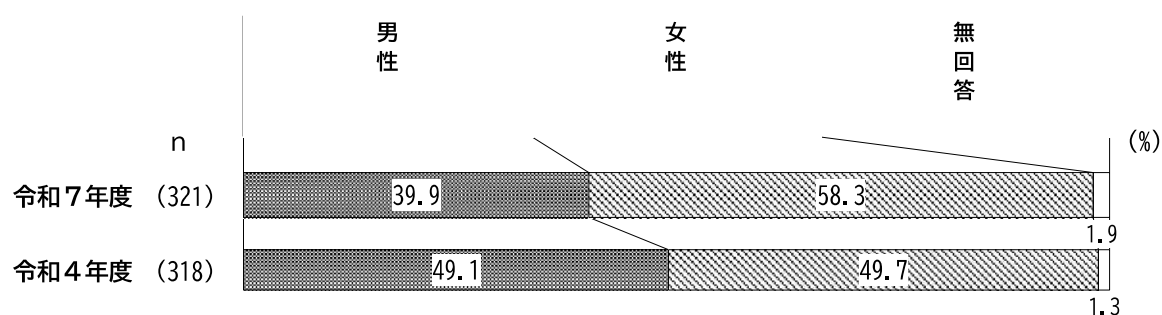
（1）性別・年齢

問1 あなたの性別と令和7年12月1日現在の満年齢をお答えください。

①性別

「男性」が39.9%、「女性」が58.3%となっています。

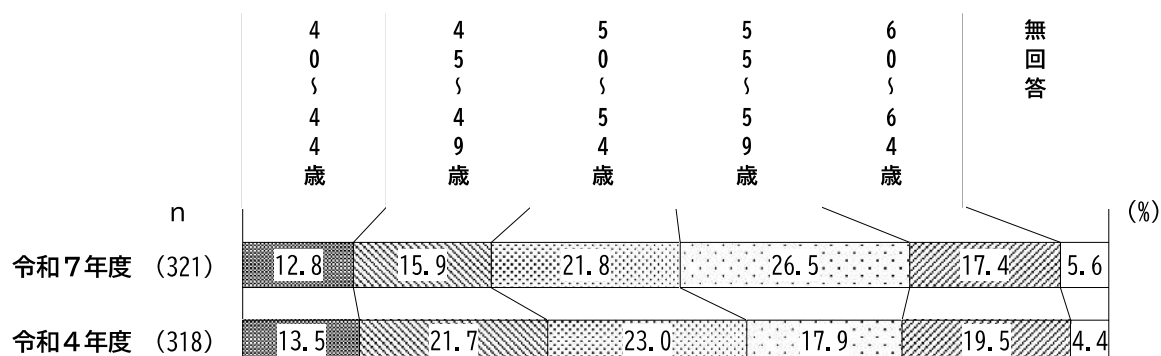
前回調査と比較すると、男性で9.2ポイント減少、女性で8.6ポイント増加しています。



②年齢

「55～59歳」が26.5%で最も高く、次いで「50～54歳」が21.8%となっています。

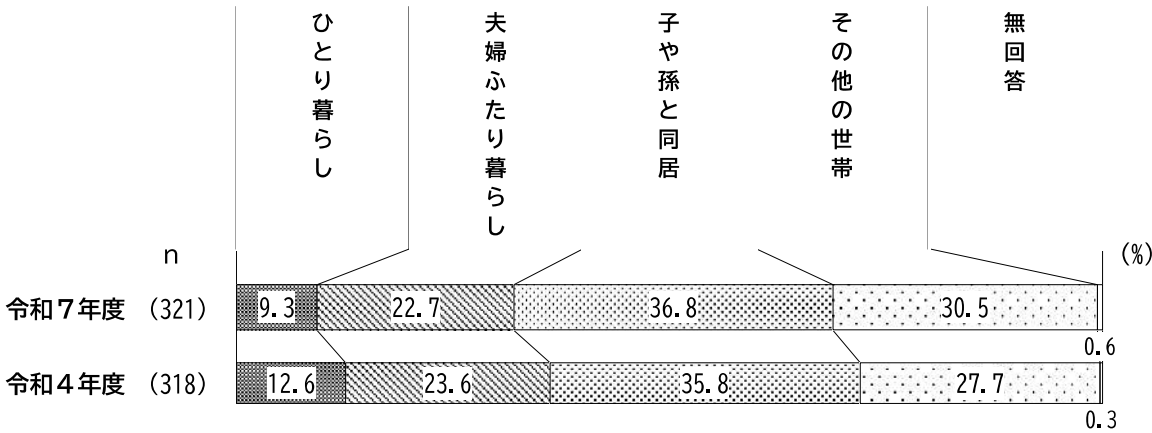
前回調査と比較すると、「55～59歳」で8.6ポイント増加、「45～49歳」で5.8ポイント減少しています。



(2) 家族構成

問2 ご家族の構成について、あてはまるものをお選びください。（1つに○）

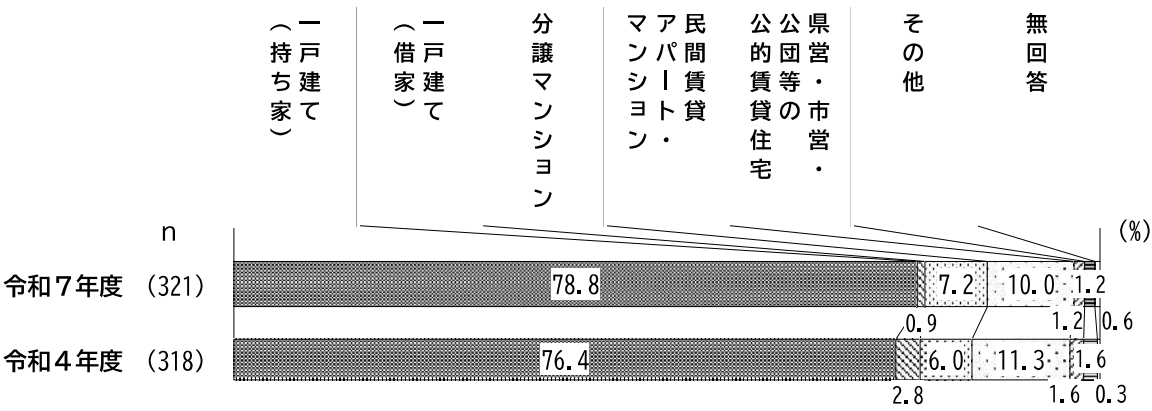
「子や孫と同居」が36.8%で最も高く、次いで「その他の世帯」が30.5%、「夫婦ふたり暮らし」が22.7%となっています。
前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(3) 住居形態

問3 あなたのお住まいは、次のうちどれにあてはまりますか。（1つに○）

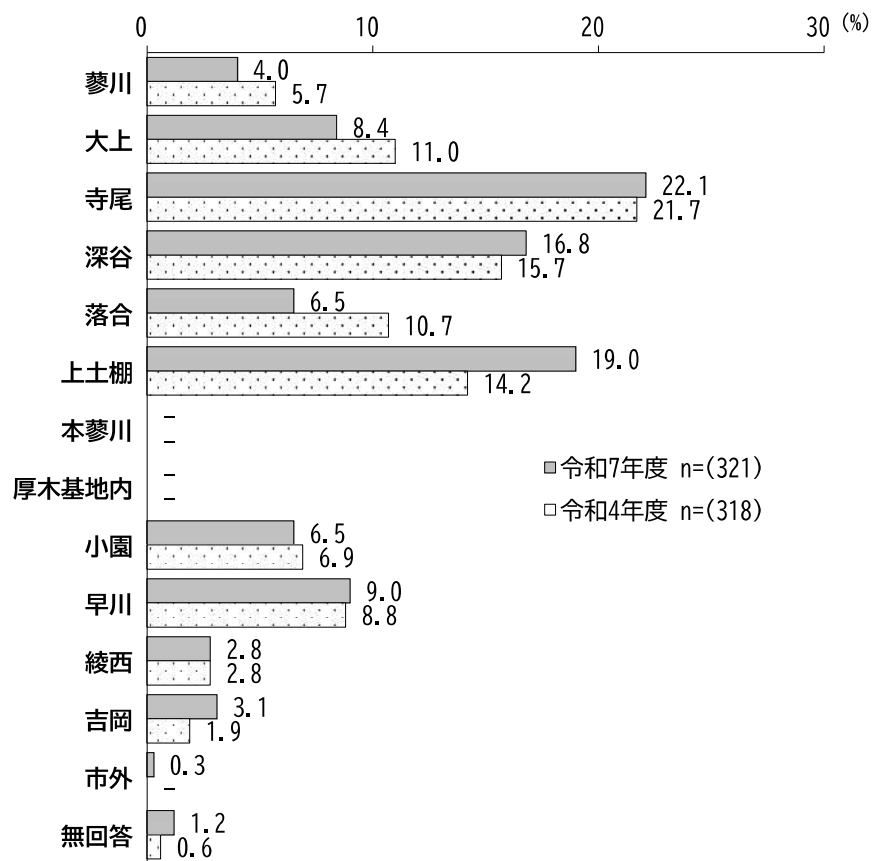
「一戸建て（持ち家）」が78.8%で最も高く、次いで「民間賃貸アパート・マンション」が10.0%となっています。
前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



（4）居住地区

問4 あなたのお住まいの地区はどちらですか。（1つに○）

「寺尾」が22.1%で最も高く、次いで「上土棚」が19.0%、「深谷」が16.8%となっています。
前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。

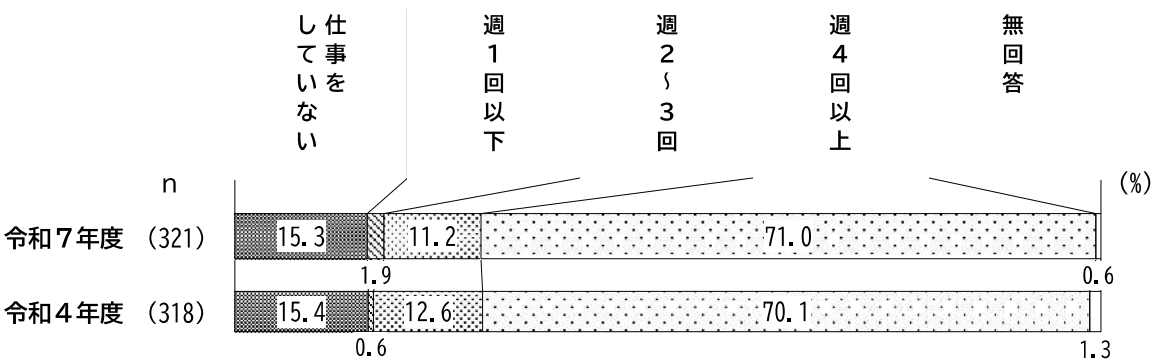


2. 仕事や社会参加活動

(1) 就労状況

問5 あなたは、現在、収入を伴う仕事をしていますか。（1つに○）

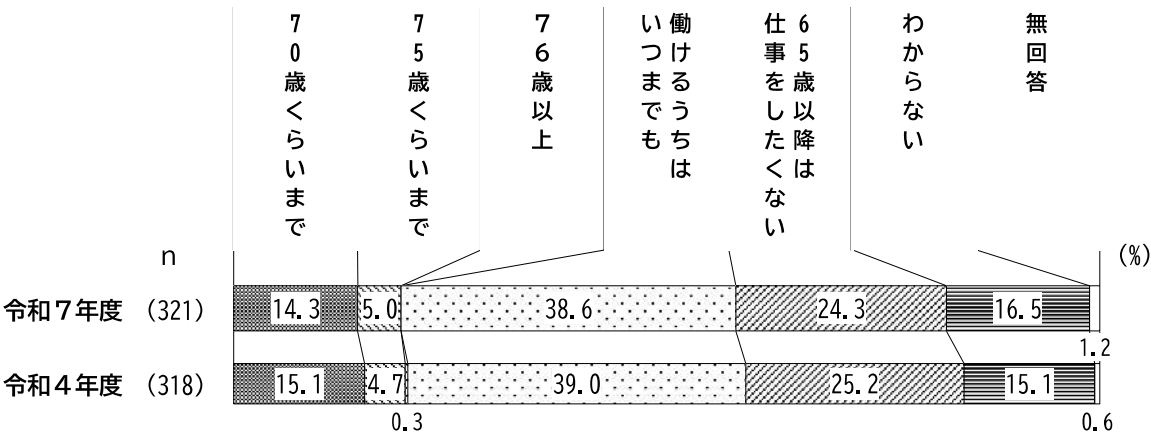
「週4回以上」が71.0%で最も高く、次いで「仕事をしていない」が15.3%となっています。
前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(2) 65歳以降の就労意向

問6 あなたは、現在仕事をしているかどうかにかかわらず、65歳以降に収入を伴う仕事をしたいですか。仕事をしたい場合は、何歳までしたいかを合せてお答えください。（1つに○）

「働けるうちはいつまでも」が38.6%で最も高く、次いで「65歳以降は仕事をしたくない」が24.3%となっています。
前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。

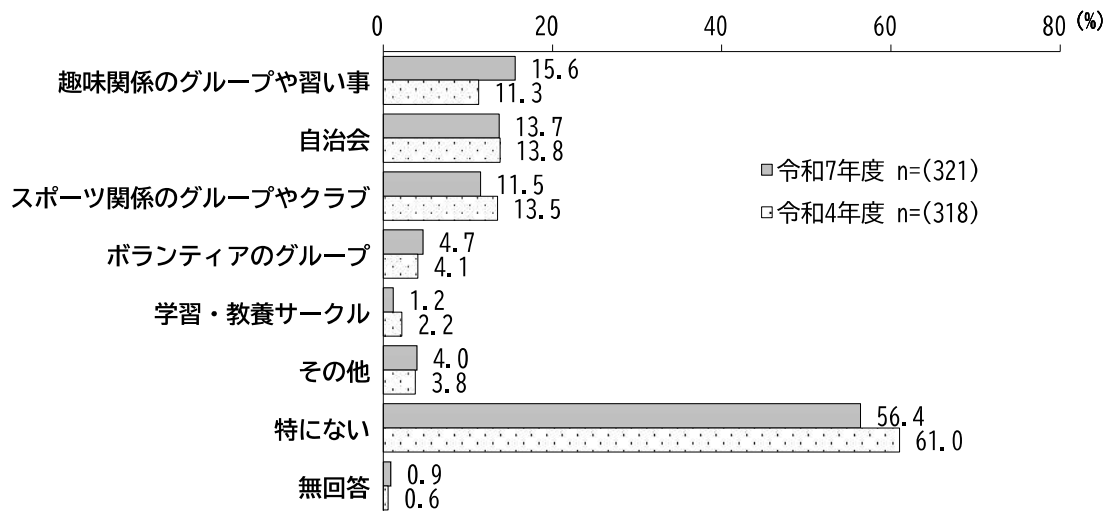


（3）参加している自主的な活動

問7 あなたは、人との交流を伴う自主的な活動のうち、現在どのようなものに参加していますか。（あてはまるものいくつかでも○）

「趣味関係のグループや習い事」が15.6%で最も高く、次いで「自治会」が13.7%となっています。一方「特にない」は56.4%となっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。

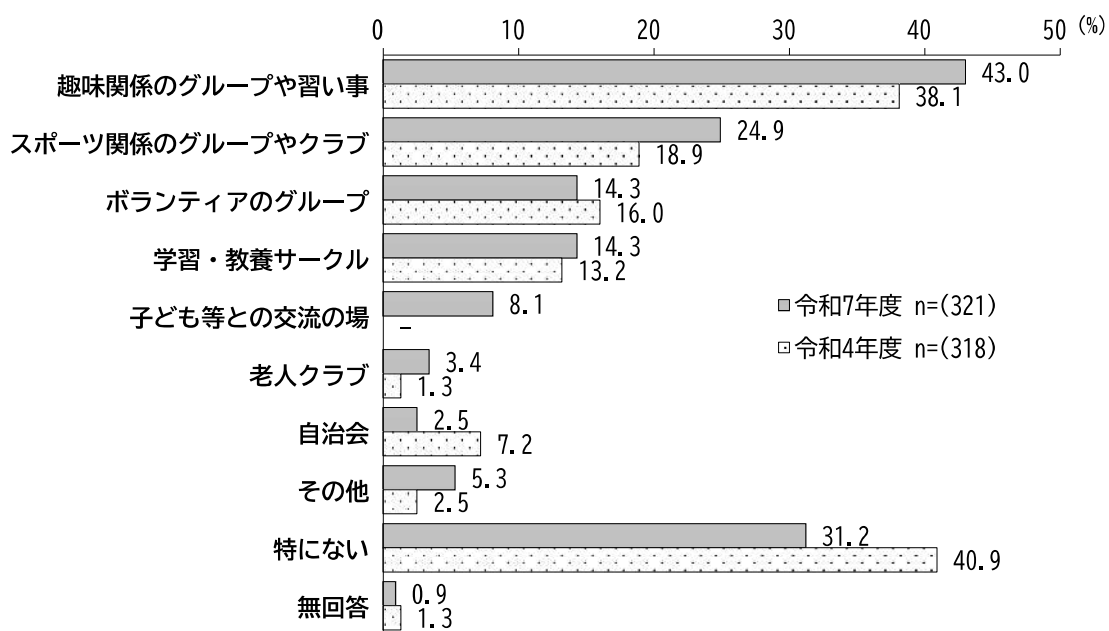


（4）65歳以降になった時に興味・関心があること

問8 あなたは、65歳以降、どのようなことに興味・関心がありますか。
（あてはまるものいくつかでも○）

「趣味関係のグループや習い事」が43.0%で最も高く、「スポーツ関係のグループやクラブ」が24.9%となっています。一方「特にない」は31.2%となっています。

前回調査と比較すると、「特にない」が9.7ポイント減少、「スポーツ関係のグループやクラブ」が6.0ポイント増加しています。

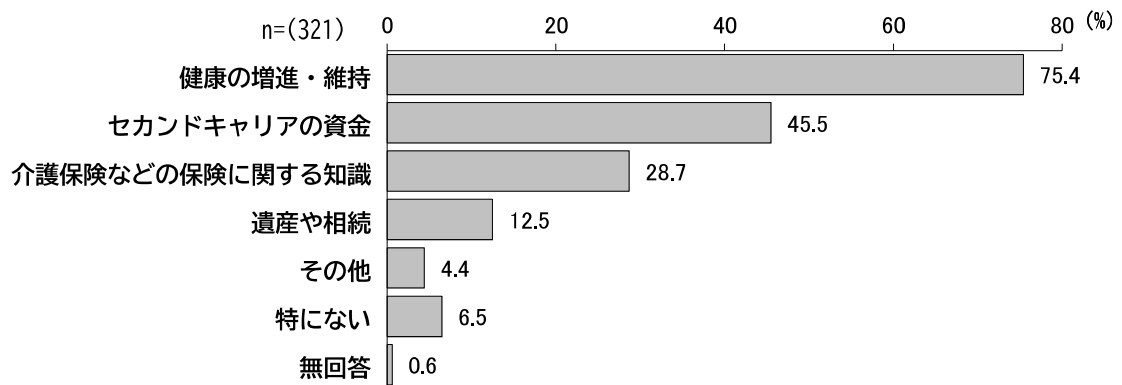


※「子ども等との交流の場」は今回新設

（5）65歳以降で不安なこと

問9 あなたは、65歳以降、どのようなことに不安等がありますか。
（あてはまるものいくつかでも○）

「健康の増進・維持」が75.4%で最も高く、次いで「セカンドキャリアの資金」が45.5%、「介護保険などの保険に関する知識」が28.7%となっています。



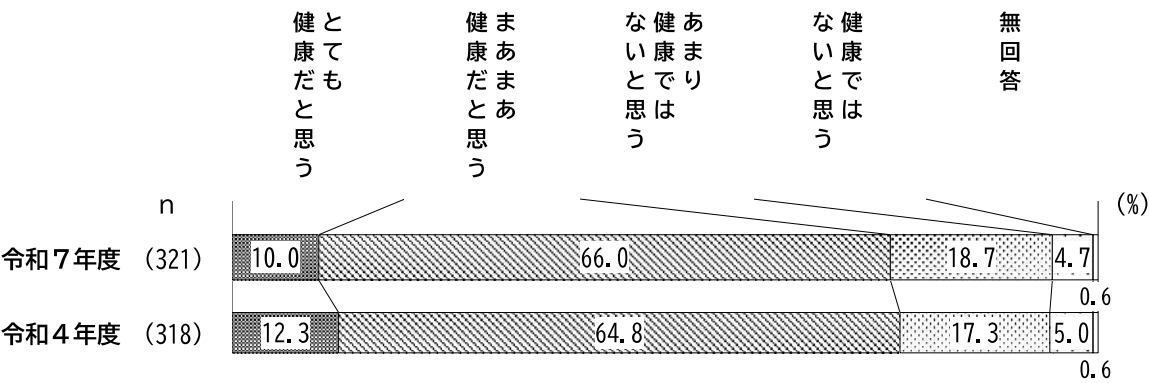
3. 身体と健康の状況

(1) 健康状態

問10 あなたは、ご自分の健康状態について、どのように感じていますか。（1つに○）

「まあまあ健康だと思う」が66.0%で最も高く、次いで「あまり健康ではないと思う」が18.7%となっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



（2）健康だと感じることができる理由

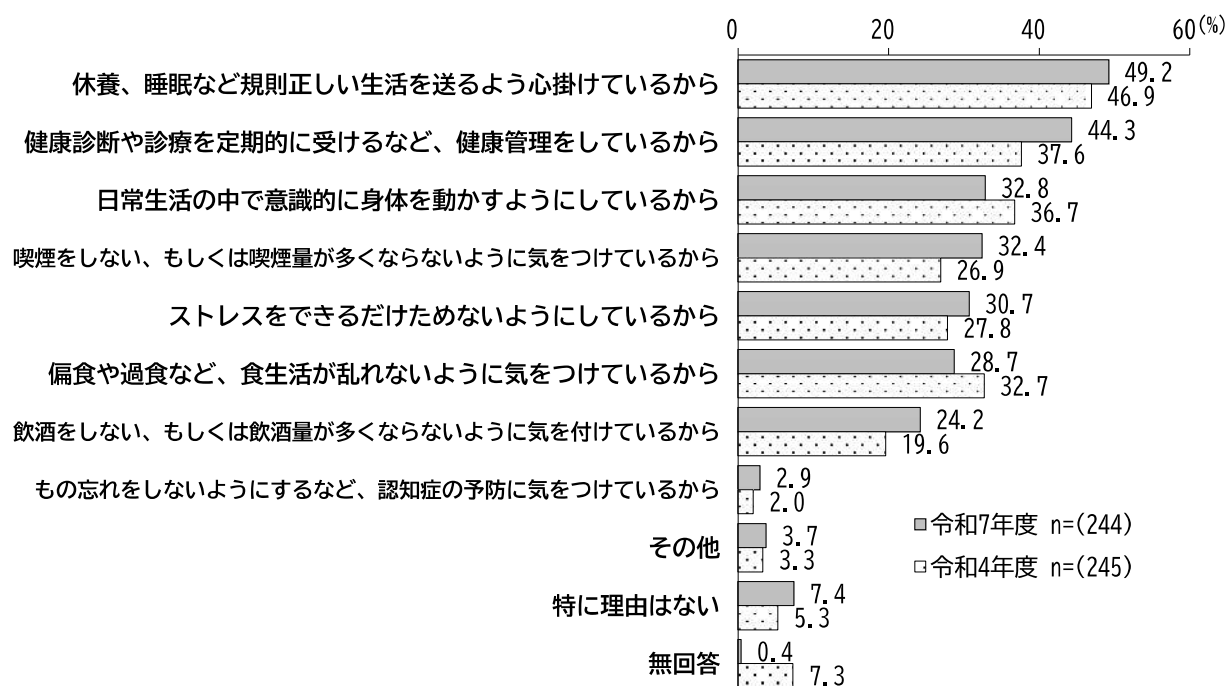
問10で「1. とても健康だと思う」「2. まあまあ健康だと思う」と回答された方に伺います。

問10－1 あなたが健康だと感じることができるのはどのような理由からですか。

（主な理由としてあてはまるものを3つお選びください）

「休養、睡眠など規則正しい生活を送るよう心掛けているから」が49.2%で最も高く、次いで「健康診断や診療を定期的に受けるなど、健康管理をしているから」が44.3%、「日常生活の中で意識的に身体を動かすようにしているから」が32.8%、「喫煙をしない、もしくは喫煙量が多くならないように気をつけているから」が32.4%となっています。

前回調査と比較すると、「健康診断や診療を定期的に受けるなど、健康管理をしているから」が6.7ポイント、「喫煙をしない、もしくは喫煙量が多くならないように気をつけているから」が5.5ポイント増加しています。



（3）健康だと感じるができない理由

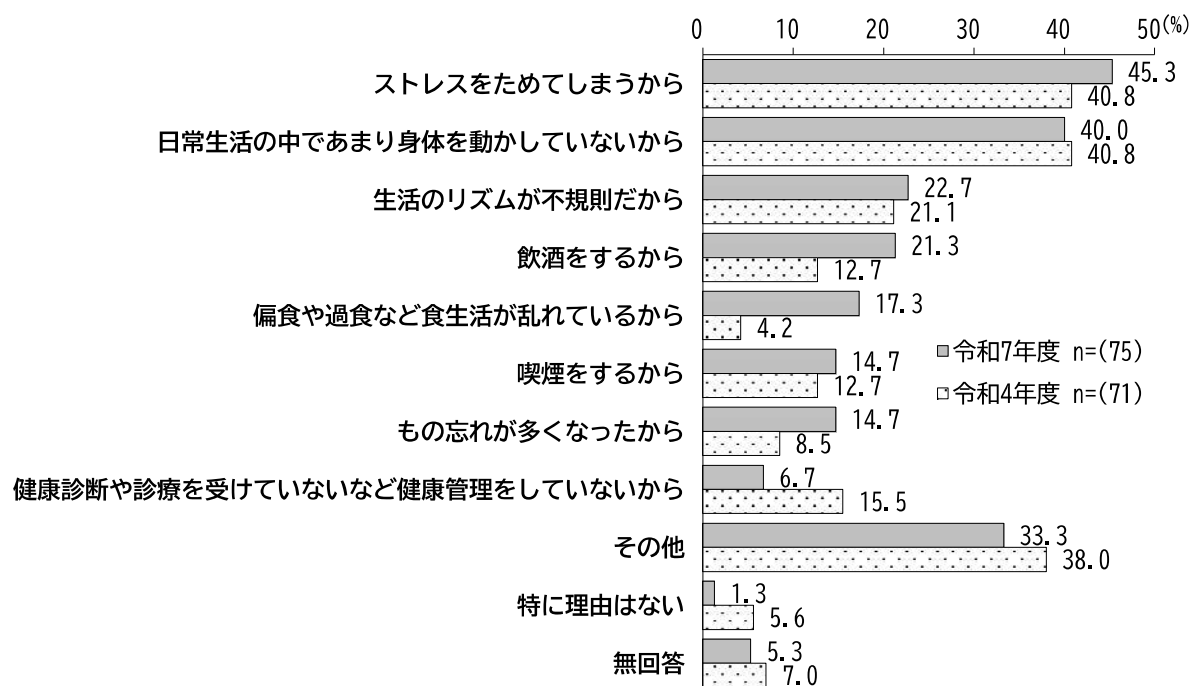
問10で「3. あまり健康ではないと思う」または「4. 健康ではないと思う」と回答された方に伺います。

問10ー2 あなたが健康だと感じるができないのはどのような理由からですか。

（主な理由としてあてはまるものを3つお選びください）

「ストレスをためてしまうから」が45.3%で最も高く、次いで「日常生活の中であまり身体を動かしていないから」が40.0%、「生活のリズムが不規則だから」が22.7%、「飲酒をするから」が21.3%となっています。

前回調査と比較すると、「偏食や過食など食生活が乱れているから」が13.1ポイント、「飲酒をするから」が8.6ポイント「もの忘れが多くなったから」が6.2ポイント増加しています。一方「健康診断や診療を受けていないなど健康管理をしていないから」が8.8ポイント減少しています。

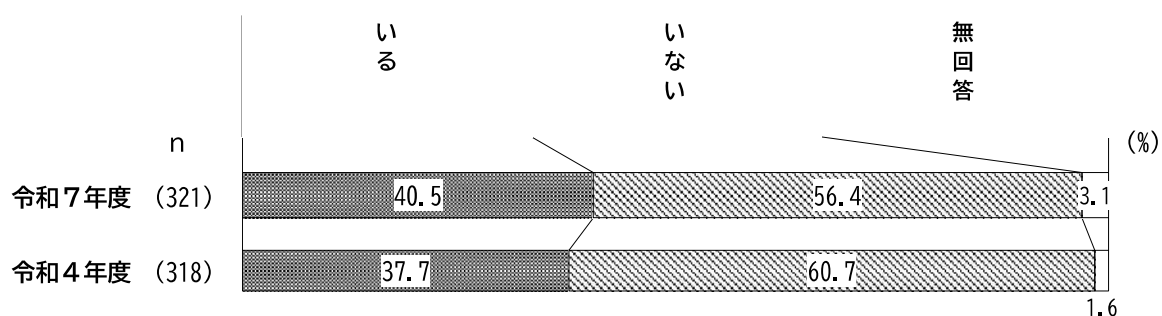


（4）かかりつけ医師の有無

問11 あなたには、日常生活の健康について相談するかかりつけの医師※ はいですか。
（1つに○）

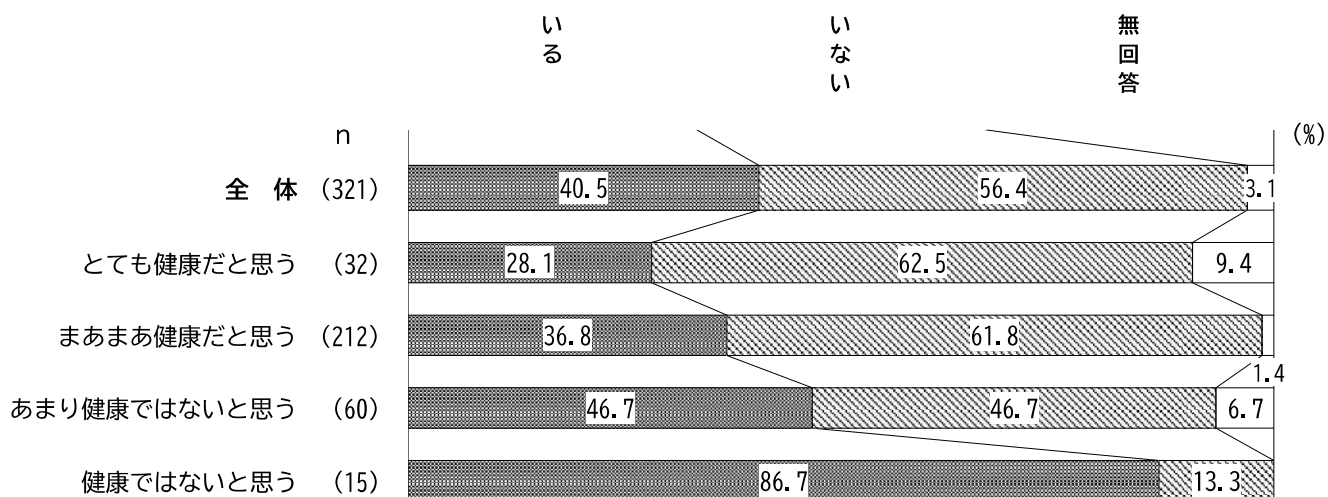
※日頃から自分または家族の健康状態をよく知っていて、日常的な健康管理を任せられる医師

「いる」が40.5%、「いない」が56.4%となっています。
前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



〈健康観別〉

健康観別にみると、健康観がよくない人ほど「いる」が高くなっています。

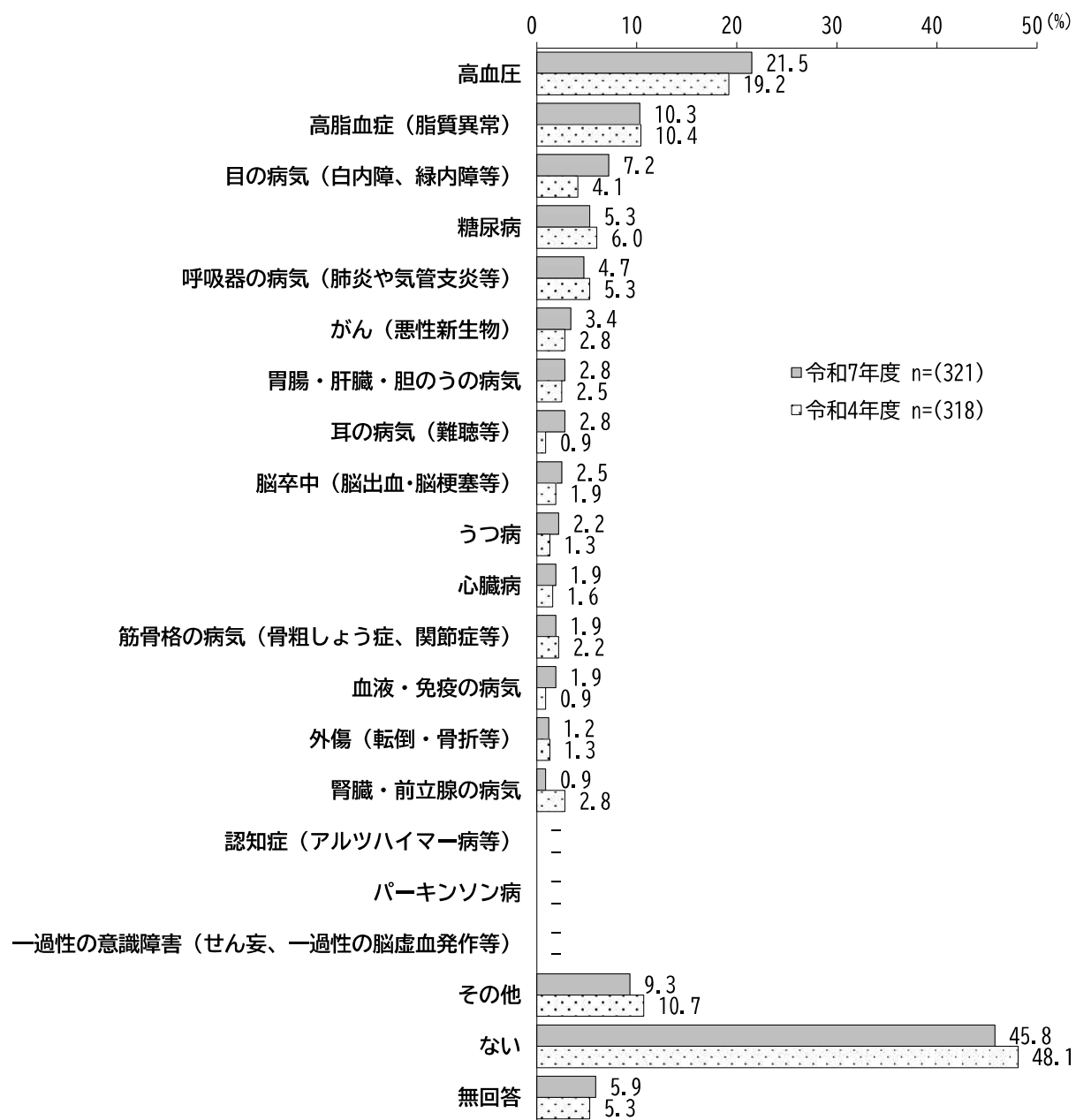


（5）現在治療中、または後遺症のある病気

問12 あなたには、現在治療中、または後遺症のある病気がありますか。
（あてはまるものいくつかでも○）

「高血圧」が21.5%で最も高く、次いで「高脂血症（脂質異常）」が10.3%となっています。一方「ない」は45.8%となっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



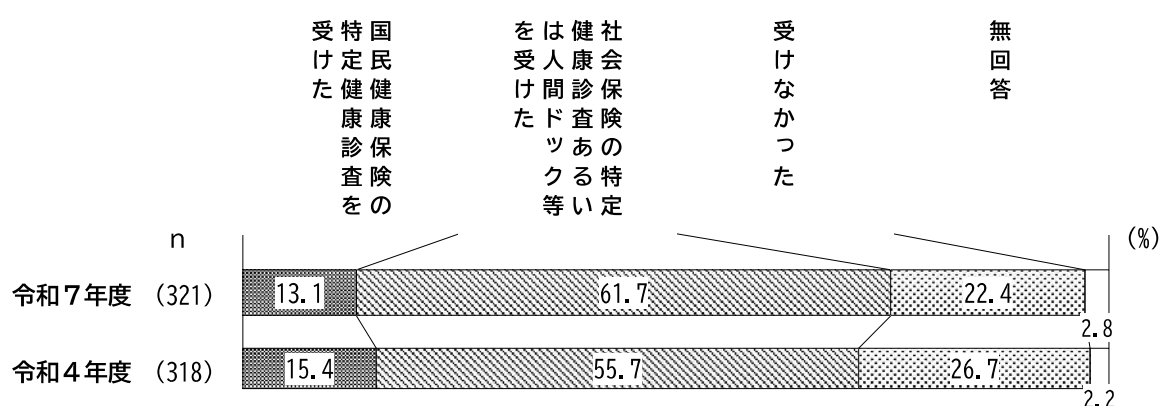
4. 介護予防

（1）1年間に受けた健康診査

問13 あなたは、この1年間に、健康診査を受けましたか。（1つに○）

「社会保険の特定健康診査あるいは人間ドック等を受けた」が61.7%で最も高く、次いで「国民健康保険の特定健康診査を受けた」が13.1%となっています。一方「受けなかった」は22.4%となっています。

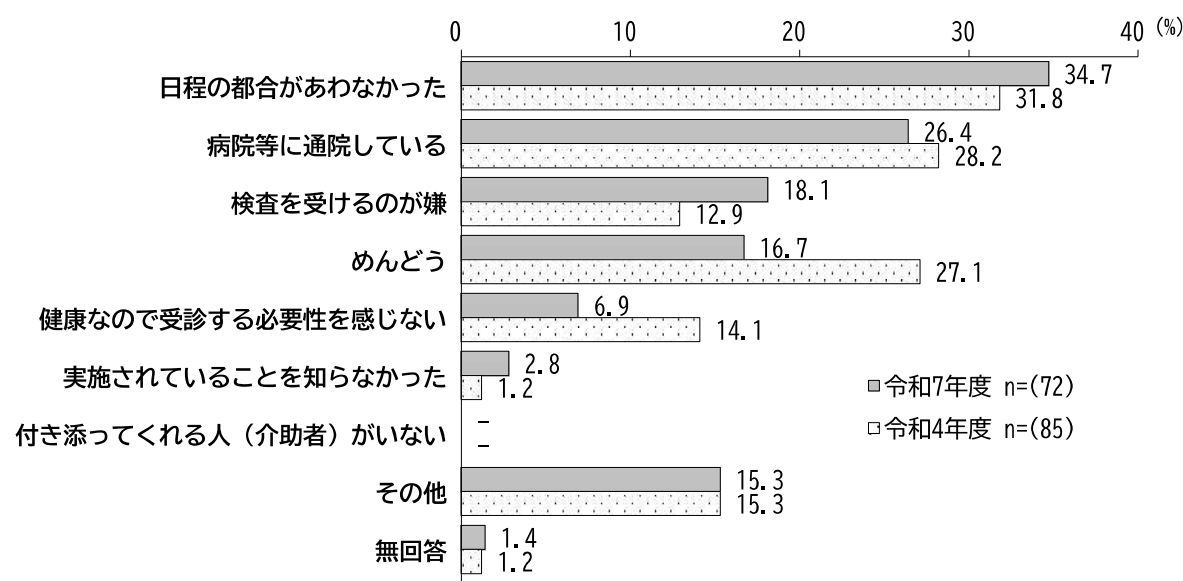
前回調査と比較すると、「社会保険の特定健康診査あるいは人間ドック等を受けた」が6.0ポイント増加しています。



(2) 健康診査を受けなかった理由

問13で「3. 受けなかった」と回答された方におうかがいします。
問13-1 その理由は何ですか。(あてはまるものいくつかでも○)

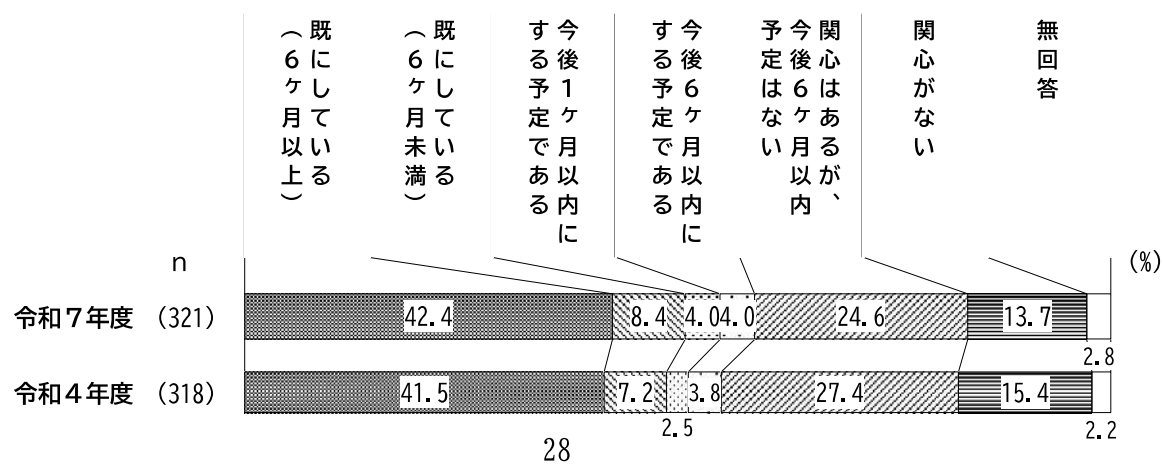
「日程の都合があわなかった」が34.7%で最も高く、次いで「病院等に通院している」が26.4%、「検査を受けるのが嫌」が18.1%となっています。
前回調査と比較すると、「めんどろ」が10.4ポイント、「健康なので受診する必要性を感じない」が7.2ポイント減少しています。



(3) 運動や栄養改善

問14 あなたは、現在、運動や栄養改善をしていますか。(1つに○)

「既にしている（6ヶ月以上）」が42.4%で最も高く、次いで「関心はあるが、今後6ヶ月以内予定はない」が24.6%、「関心がない」が13.7%となっています。
前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。

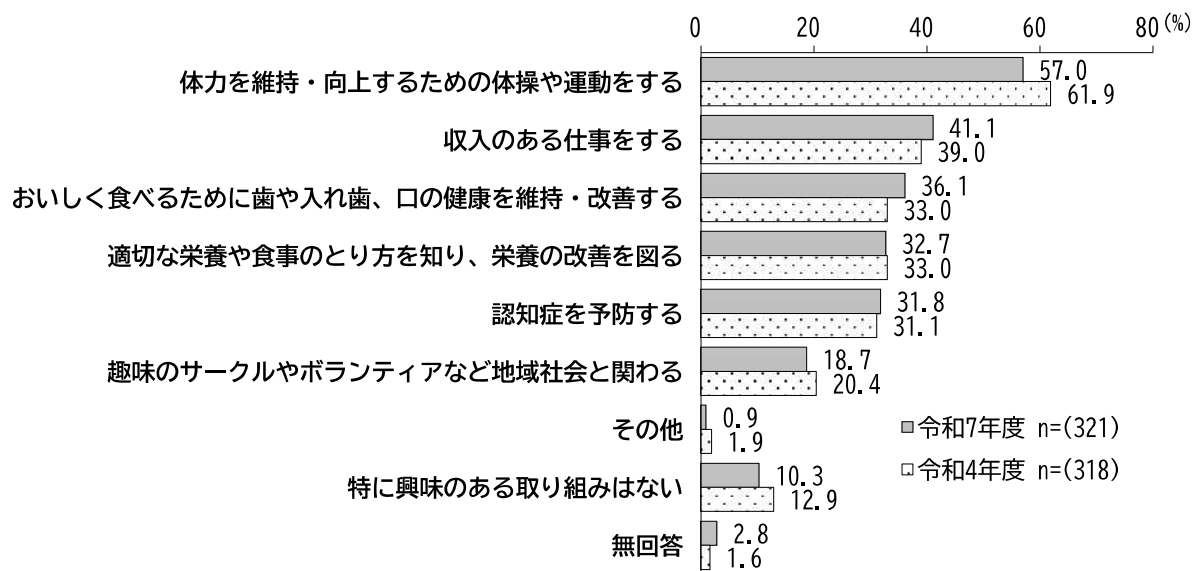


（4）介護予防の取り組みで興味があるもの

問15 あなたは、介護予防について、どのような取り組みに興味がありますか。
（あてはまるものいくつかでも○）

「体力を維持・向上するための体操や運動をする」が57.0%で最も高く、次いで「収入のある仕事をする」が41.1%、「おいしく食べるために歯や入れ歯、口の健康を維持・改善する」が36.1%となっています。一方「特に興味のある取り組みはない」は10.3%となっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。

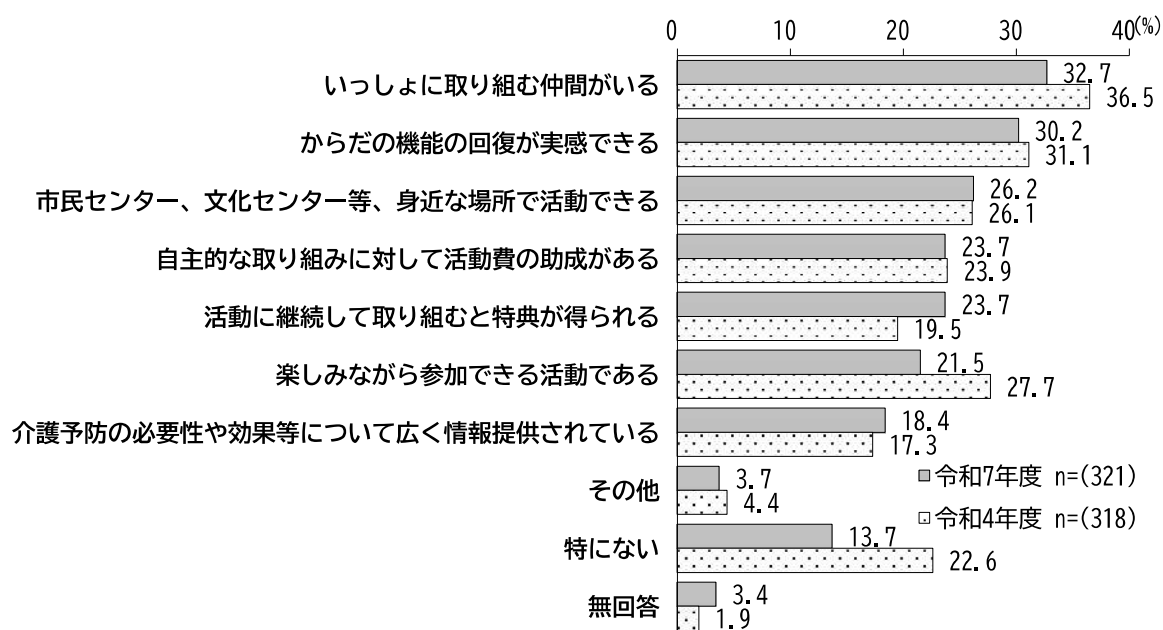


（5）介護予防の取り組みで参加しやすい・参加したいと思う条件

問16 どのような条件があれば、介護予防のための取り組みに参加しやすい・参加したいと思いますか。（あてはまるものいくつかでも○）

「いっしょに取り組む仲間がいる」が32.7%で最も高く、次いで「からだの機能の回復が実感できる」が30.2%、「市民センター、文化センター等、身近な場所で活動できる」が26.2%となっています。一方「特にない」は13.7%となっています。

前回調査と比較すると、「特にない」が8.9ポイント、「楽しみながら参加できる活動である」が6.2ポイント減少しています。



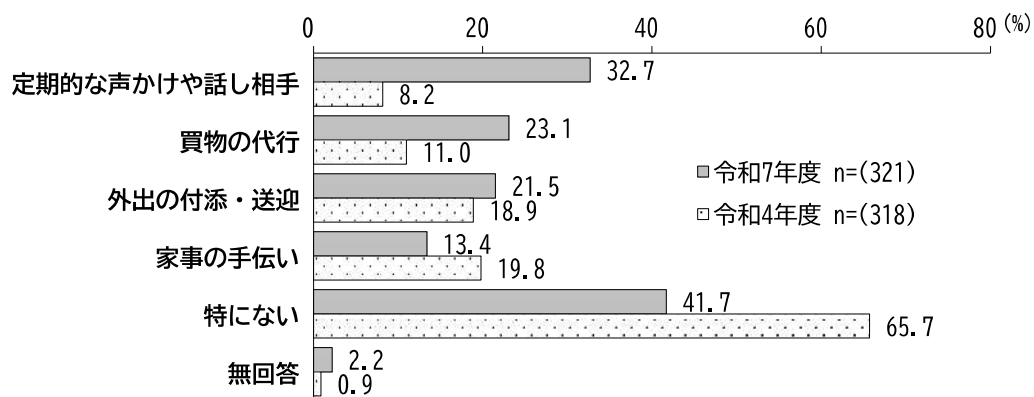
5. 地域とのかかわり

（1）今後参加し（続け）たいと思う支援活動

問17 あなたが今後参加し（続け）たいと思う支援が必要な方への支援活動はどれですか。
（あてはまるものいくつかでも○）

「定期的な声かけや話し相手」が32.7%で最も高く、次いで「買物の代行」が23.1%、「外出の付添・送迎」が21.5%となっています。一方「特にない」は41.7%となっています。

前回調査と比較すると、「定期的な声かけや話し相手」が24.5ポイント、「買物の代行」が12.1ポイント増加しています。一方「特にない」は24.0ポイント減少しています。

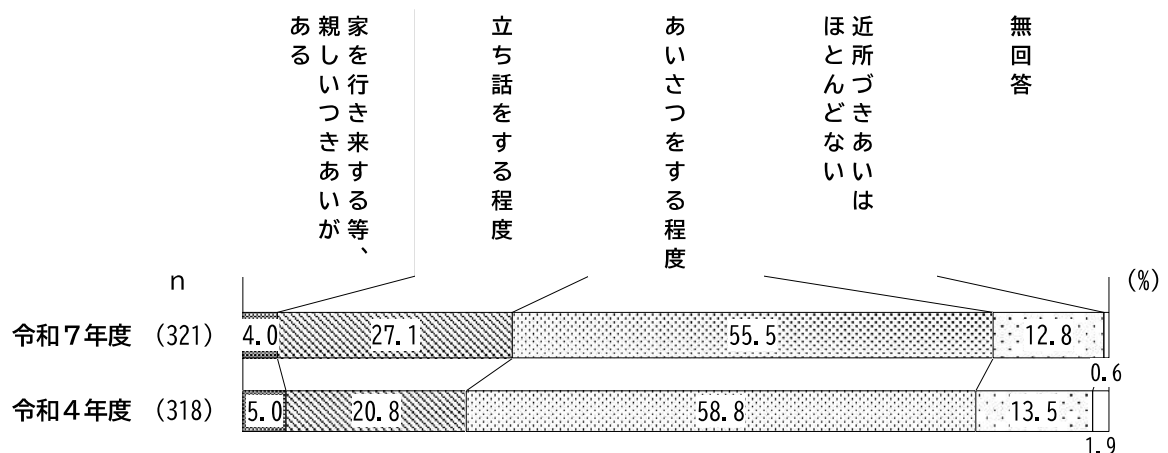


（2）近所の方とのつきあいの程度

問18 あなたは、ご近所の方とどの程度のつきあいをしていますか。（1つに○）

「あいさつをする程度」が55.5%で最も高く、次いで「立ち話をする程度」が27.1%、「近所づきあいはほとんどない」が12.8%となっています。

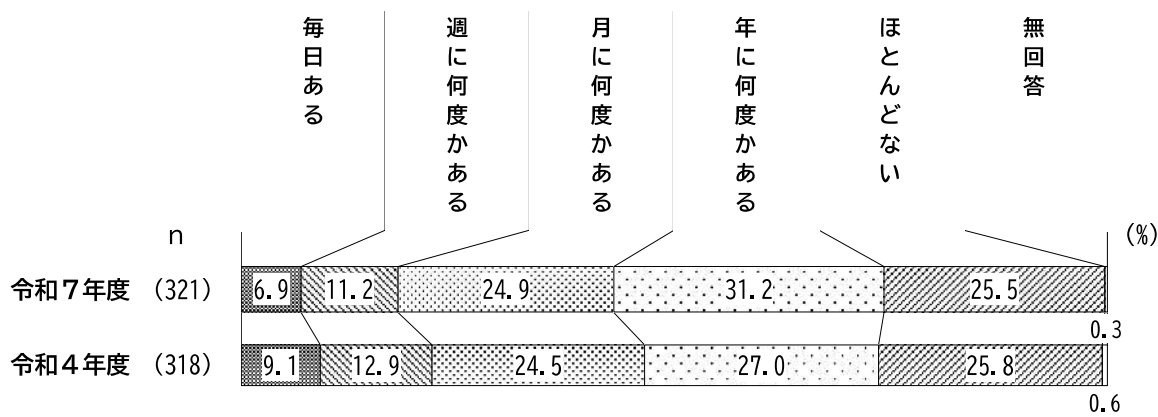
前回調査と比較すると、「立ち話をする程度」が6.3ポイント増加しています。



(3) 友人・知人と会う頻度

問19 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。（1つに○）

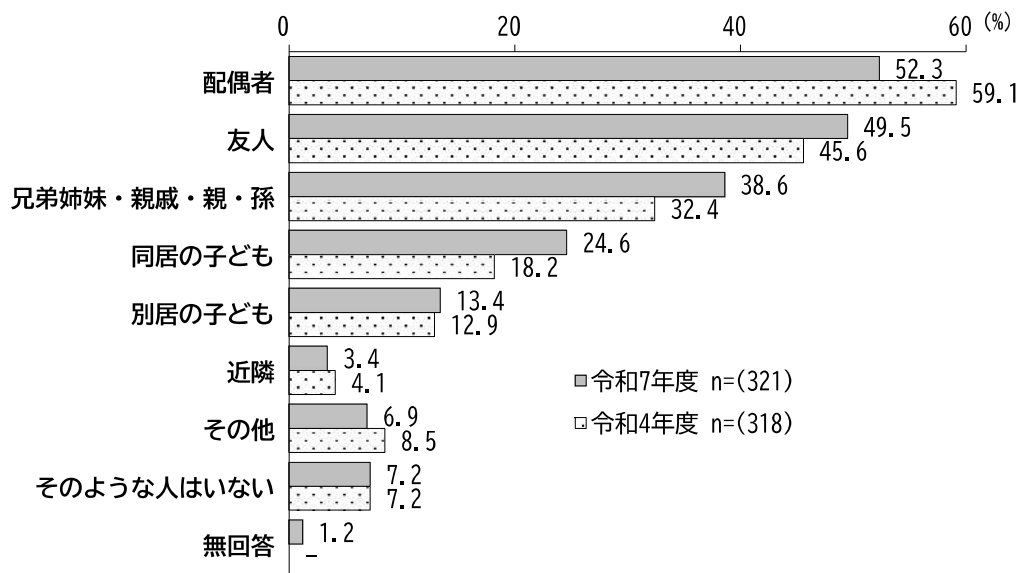
「年に何度かある」が31.2%で最も高く、次いで「月に何度かある」が24.9%となっています。
一方「ほとんどない」は25.5%となっています。
前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(4) 心配事や愚痴を聞いてくれる人

問20 あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人はだれですか。
（あてはまるものいくつかでも○）

「配偶者」が52.3%で最も高く、次いで「友人」が49.5%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が38.6%となっています。
前回調査と比較すると、「配偶者」が6.8ポイント減少、「同居の子ども」が6.4ポイント、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が6.2ポイント増加しています。

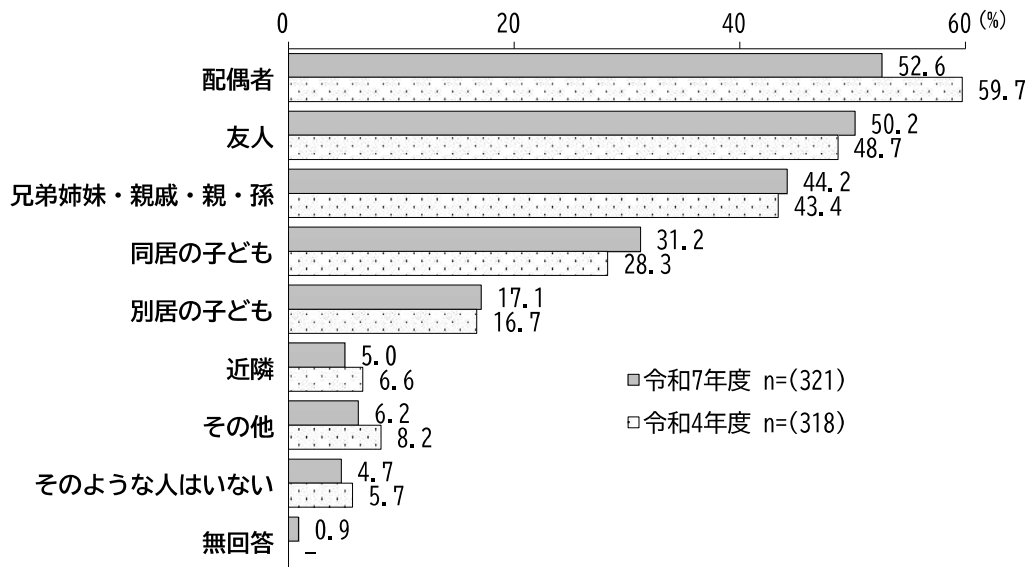


（5）心配事や愚痴を聞いてあげる人

問21 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人は誰ですか。（あてはまるものいくつかでも○）

「配偶者」が52.6%で最も高く、次いで「友人」が50.2%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が44.2%となっています。

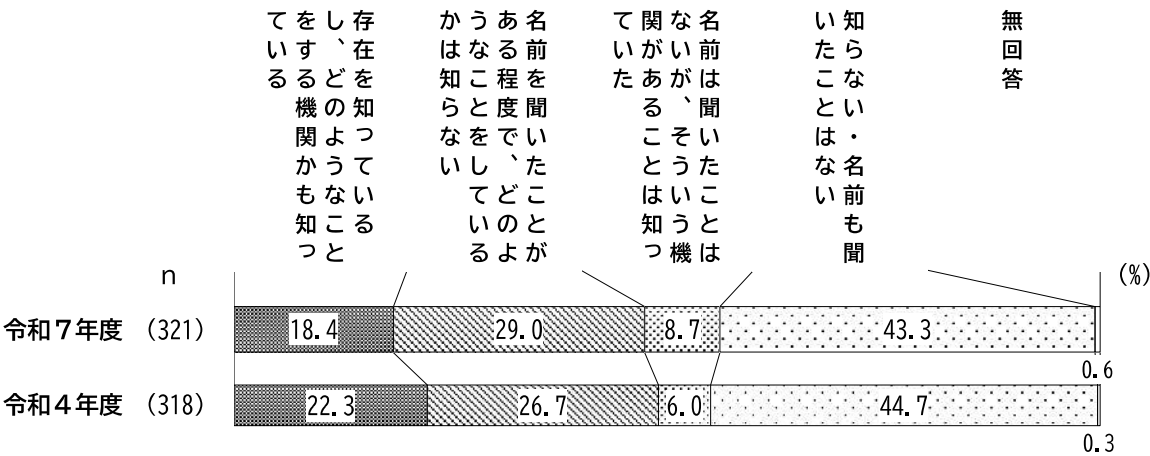
前回調査と比較すると、「配偶者」が7.1ポイント減少しています。



(6) 地域包括支援センターの認知度

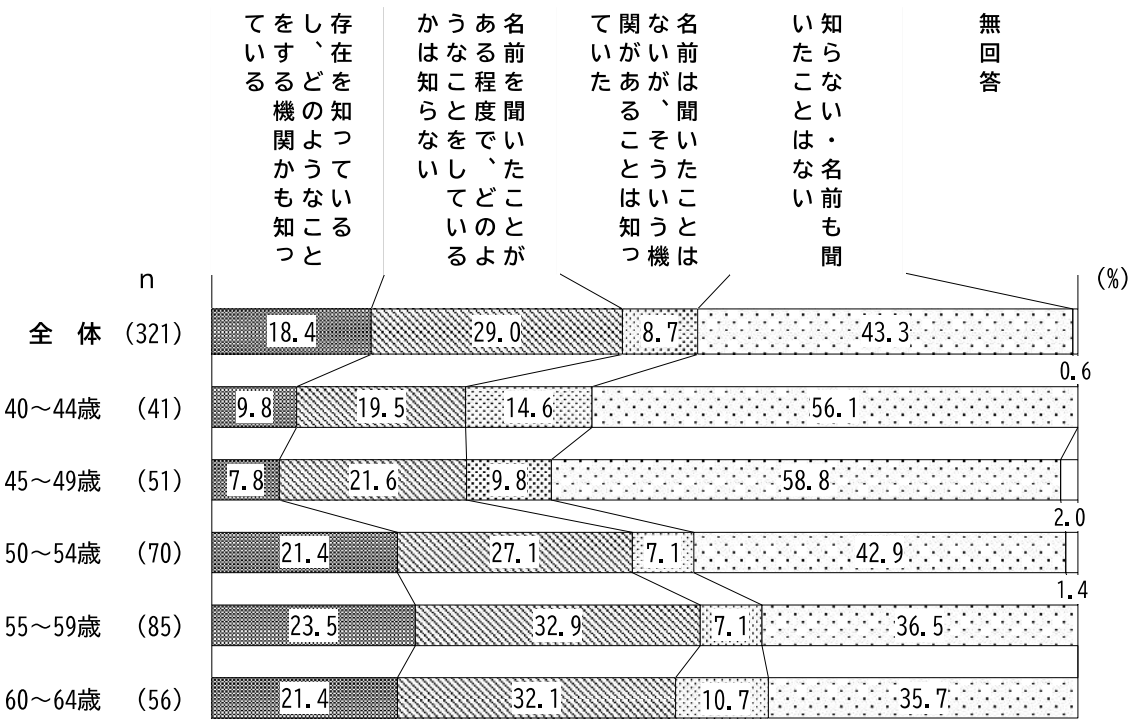
問22 あなたは、高齢者にかかる総合的な相談窓口として「地域包括支援センター」が市内に4ヶ所あることや、必要に応じた支援・サービスを提供してくれることを知っていますか。（1つに○）

「知らない・名前も聞いたことはない」が43.3%で最も高く、次いで「名前を聞いたことがある程度で、どのようなことをしているかは知らない」が29.0%となっています。
前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



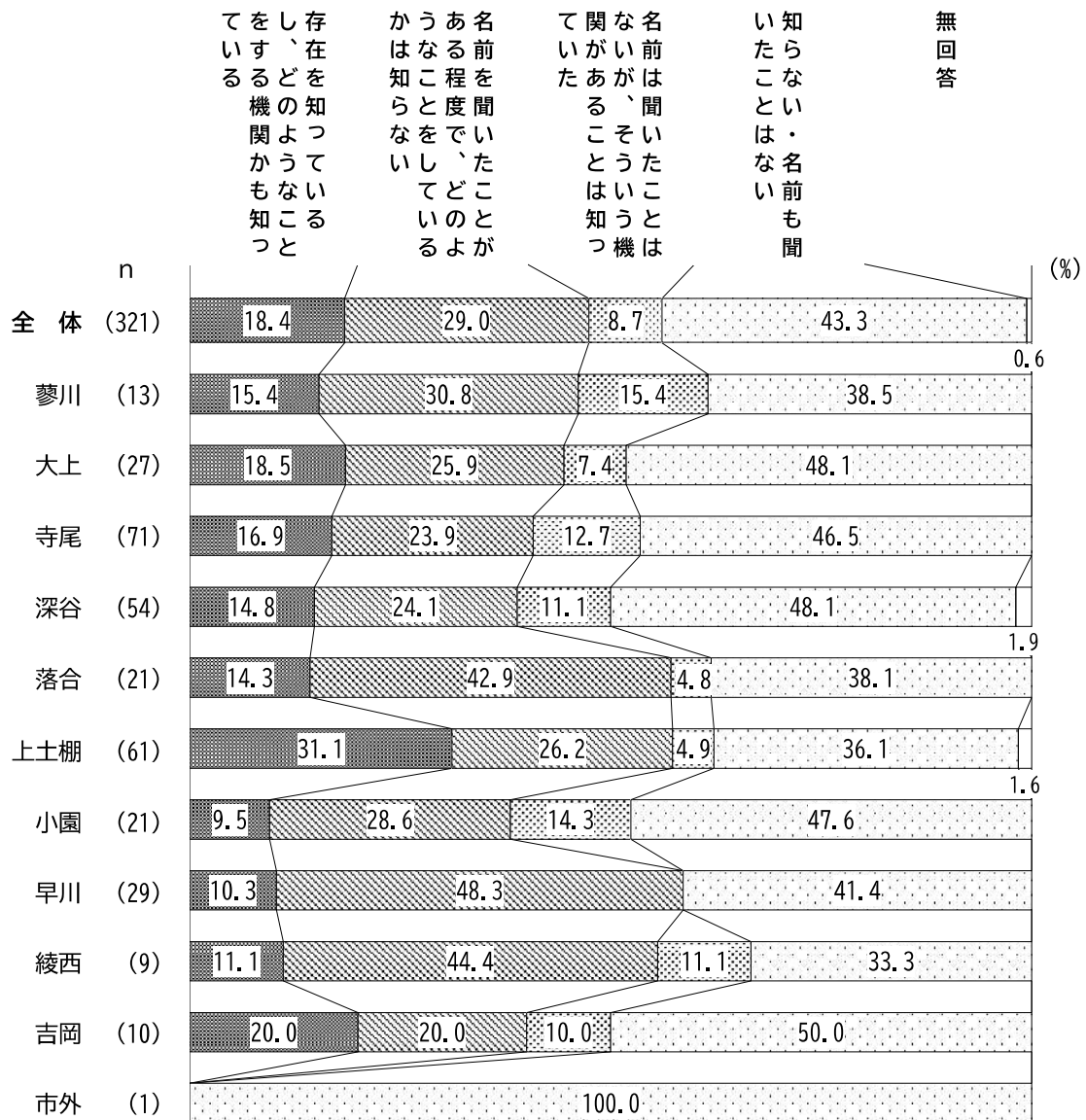
〈年齢別〉

年齢別にみると、年齢が低くなるほど「知らない・名前も聞いたことはない」が概ね高くなっています。「存在を知っているし、どのようなことをする機関かも知っている」が50歳以上で2割台と高くなっています。



〈地区別〉

地区別にみると、「存在を知っているし、どのようなことをする機関かも知っている」が上土棚で31.1%と高くなっています。



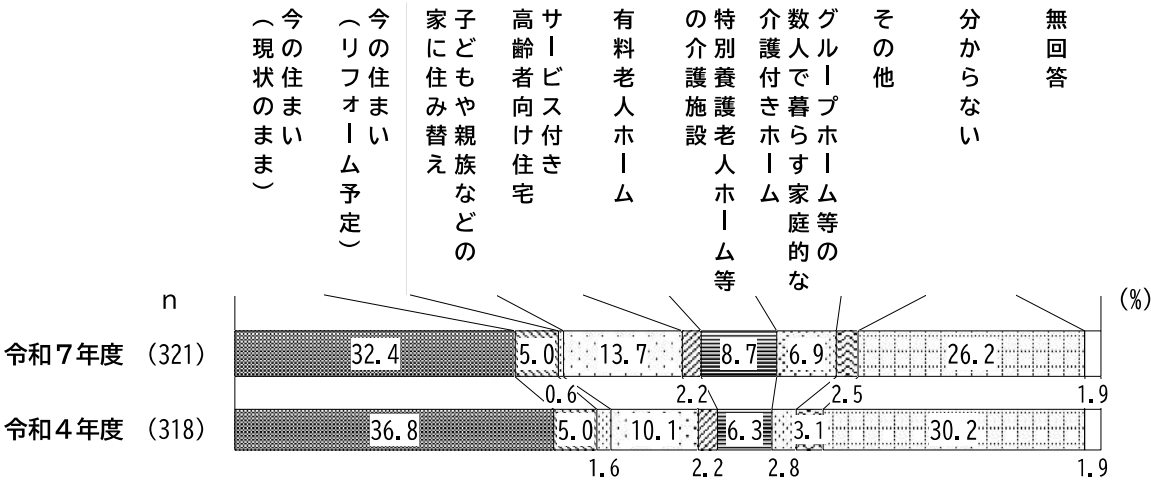
※本蓼川、厚木基地内地区は、回答者がいなかったためグラフでは省略しています。

6. 今後希望する暮らし

(1) 介護が必要となった場合の住まいの希望

問23 あなたは、今後、万が一介護が必要となった場合のお住まいの希望は次のどれにあたりますか。（1つに○）

「今の住まい（現状のまま）」が32.4%で最も高く、次いで「サービス付き高齢者向け住宅」が13.7%となっています。一方「分からない」は26.2%となっています。
前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。

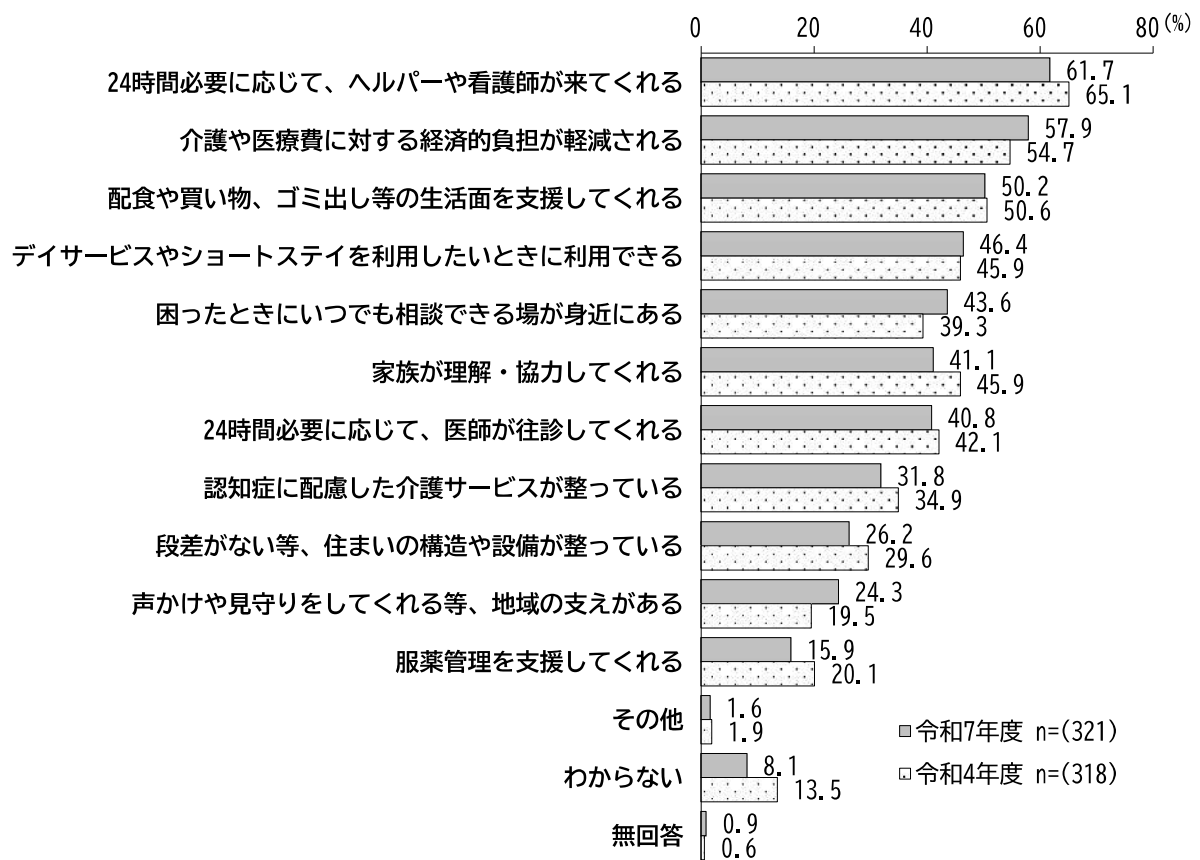


（2）介護が必要になっても在宅で安心して暮らし続けるサービスや条件

問24 どのようなサービスや条件が整えば、介護が必要になっても在宅で安心して暮らし続けることができると思いますか。（あてはまるものいくつか○）

「24時間必要に応じて、ヘルパーや看護師が来てくれる」が61.7%で最も高く、次いで「介護や医療費に対する経済的負担が軽減される」が57.9%、「配食や買い物、ゴミ出し等の生活面を支援してくれる」が50.2%となっています。

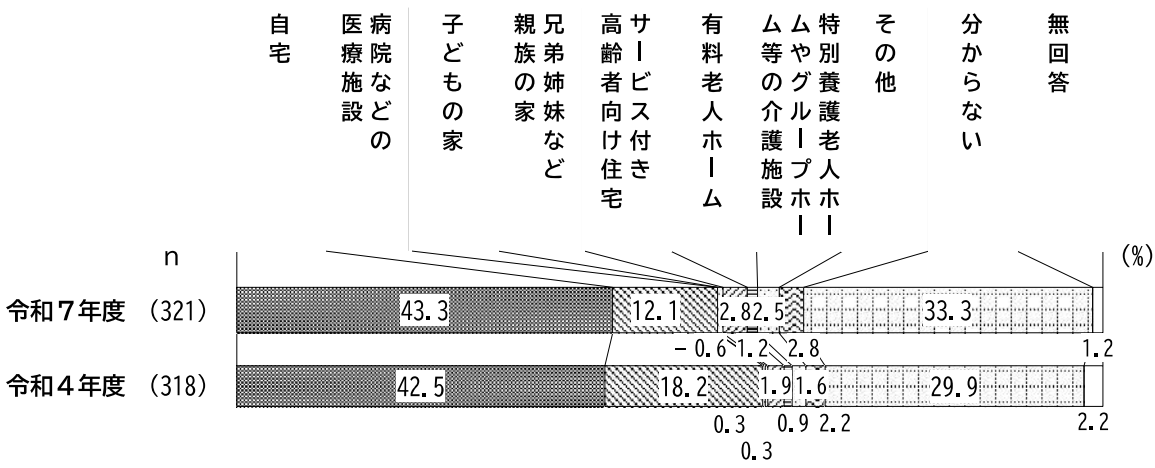
前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(3) 人生の最期を迎えたい場所

問25 あなたは人生の最期をどこで迎えたいと思いますか。（1つに○）

「自宅」が43.3%で最も高く、次いで「病院などの医療施設」が12.1%となっています。一方「分からない」は33.3%となっています。
前回調査と比較すると、「病院などの医療施設」で6.1ポイント減少しています。

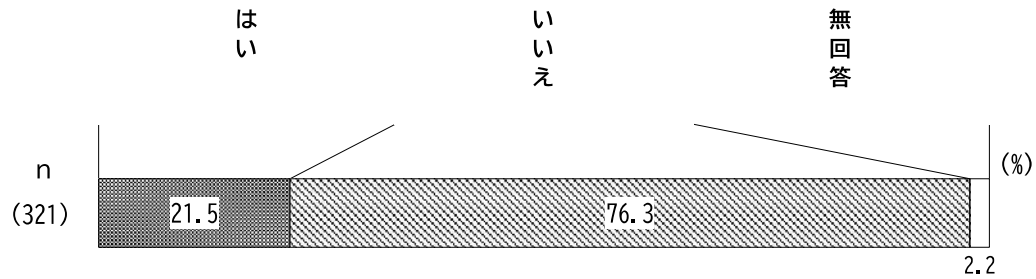


7. 認知症

（1）認知症に関する相談窓口の認知

問26 認知症に関する相談窓口を知っていますか。（1つに○）

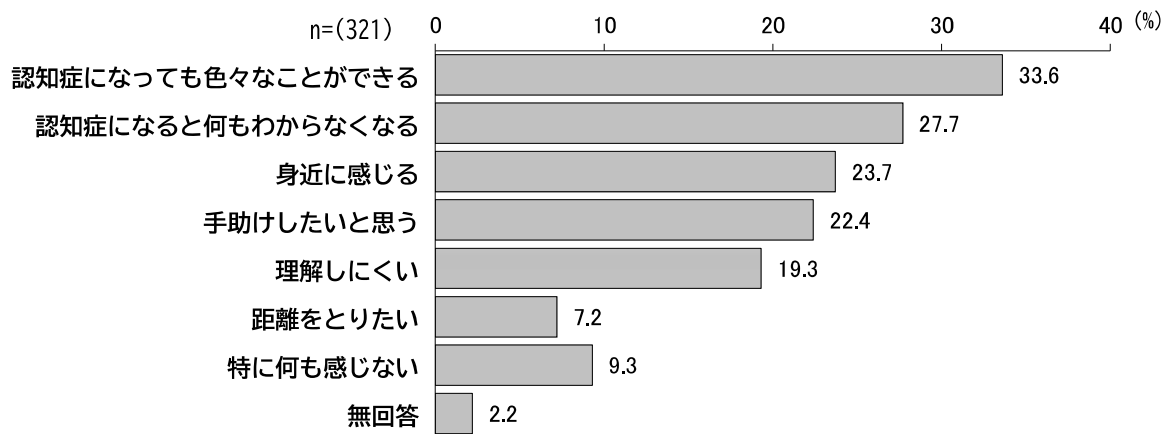
「はい」が21.5%、「いいえ」が76.3%となっています。



（2）認知症に対する印象

問27 あなたは認知症の人に対して、どのような印象を持っていますか。
（あてはまるものいくつかを○）

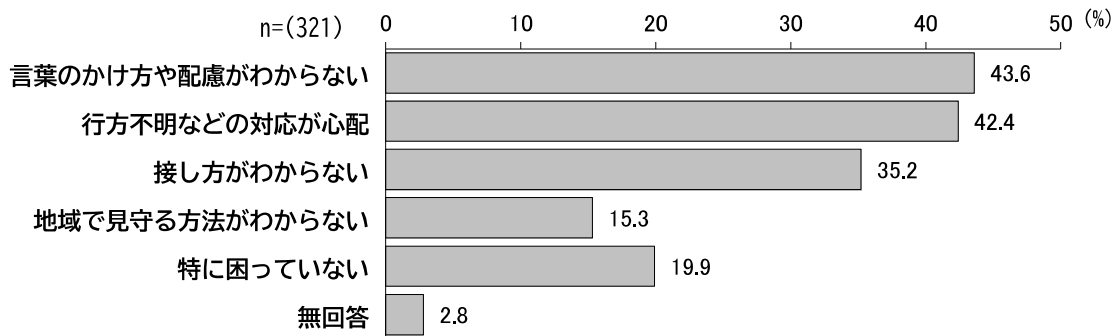
「認知症になっても色々なことができる」が33.6%で最も高く、次いで「認知症になると何もわからなくなる」が27.7%、「身近に感じる」が23.7%、「手助けしたいと思う」が22.4%となっています。



（3）認知症の人と接する際に困ったこと・心配なこと

問28 認知症の人と接する際に、困ったこと・心配なことはありますか。
（あてはまるものいくつかでも○）

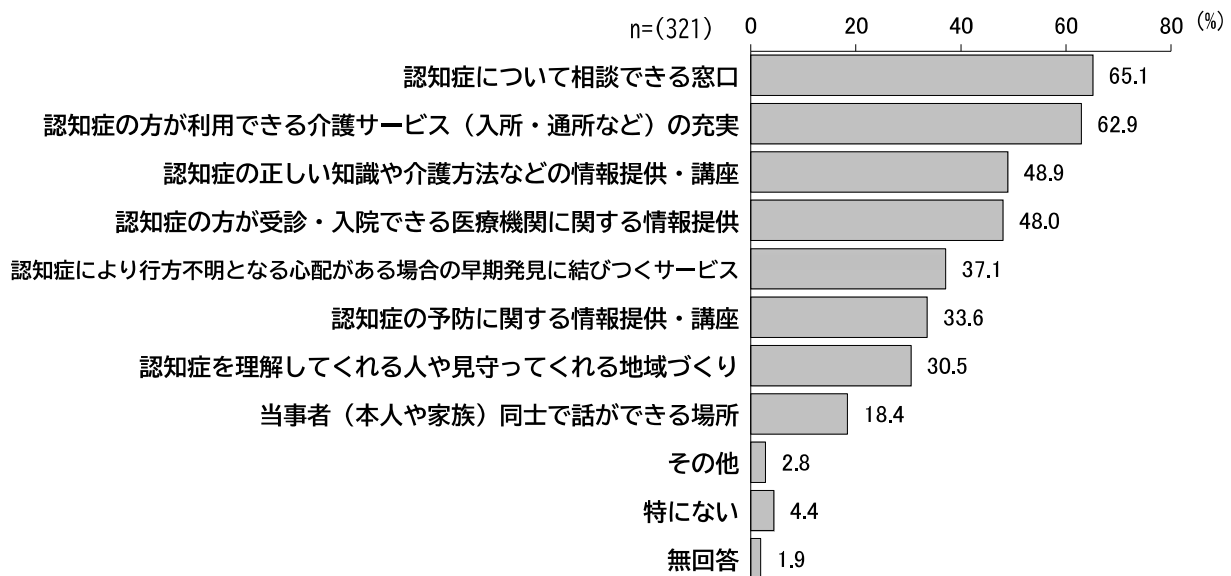
「言葉のかけ方や配慮がわからない」が43.6%で最も高く、次いで「行方不明などの対応が心配」が42.4%、「接し方がわからない」が35.2%となっています。



（4）認知症になった時や認知症予防で受けてみたい支援や取り組み

問29 あなたや家族が「認知症」になった場合や認知症予防に取り組みたいと思った場合に、受けてみたい支援や取り組みはありますか。（あてはまるものいくつかでも○）

「認知症について相談できる窓口」が65.1%で最も高く、次いで「認知症の方が利用できる介護サービス（入所・通所など）の充実」が62.9%、「認知症の正しい知識や介護方法などの情報提供・講座」が48.9%、「認知症の方が受診・入院できる医療機関に関する情報提供」が48.0%となっています。



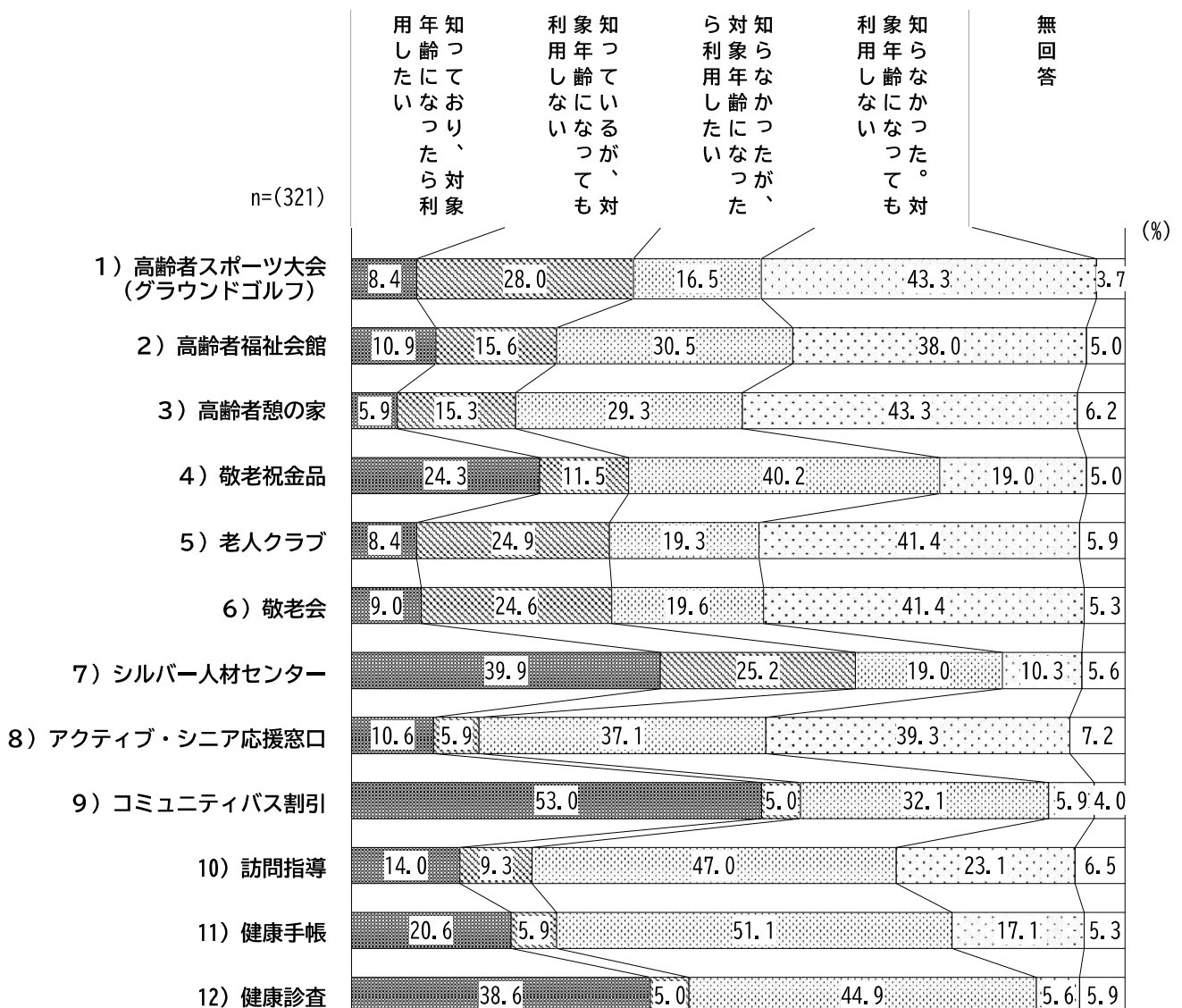
8. 綾瀬市の保健福祉サービス等

（1）サービスの認知度・利用意向

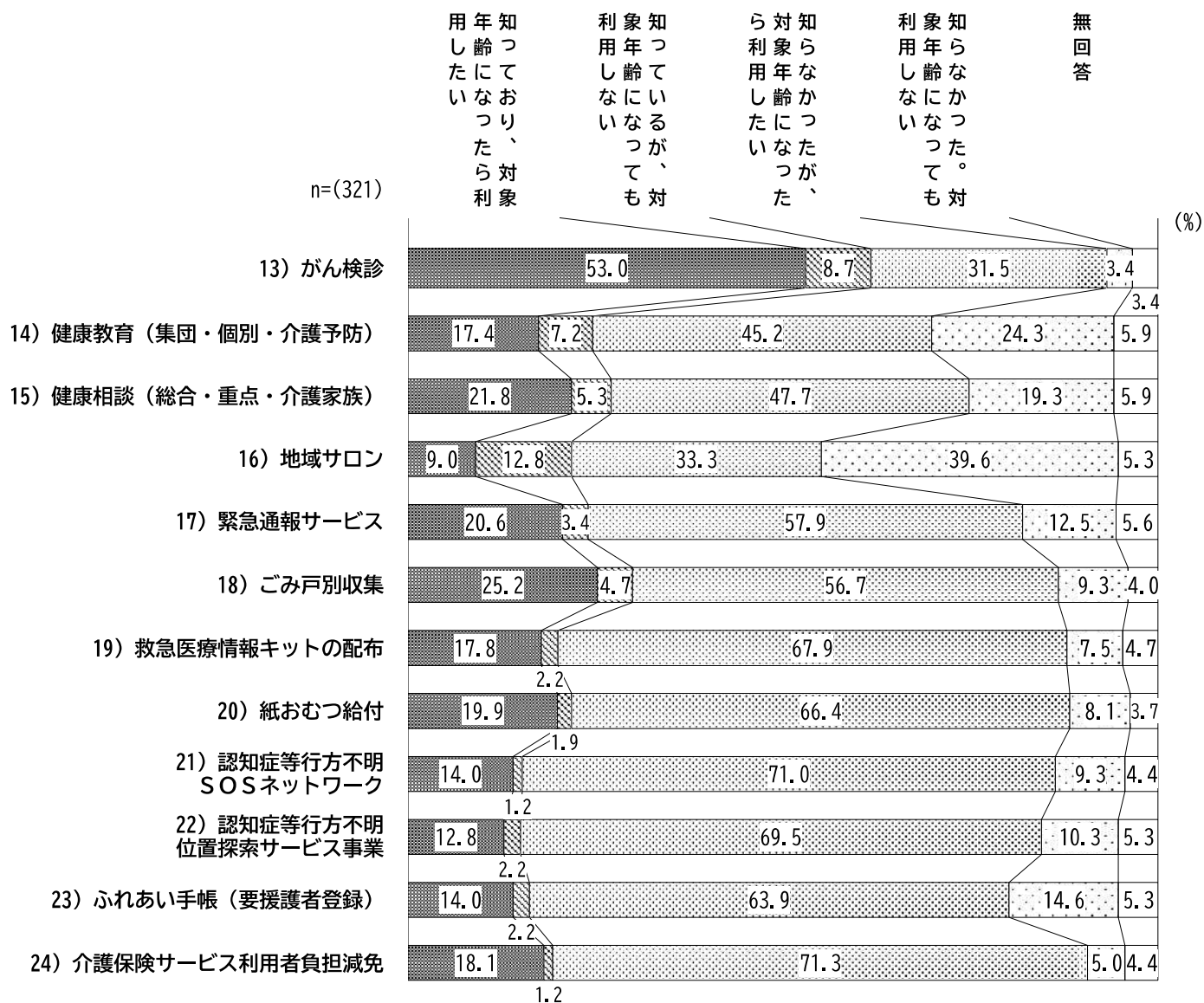
問30 以下の保健福祉サービスについて、該当する項目に○をつけてください。
（それぞれの項目ごとに1つに○）

「知っており、対象年齢になったら利用したい」をみると、〈がん検診〉〈コミュニティバス割引〉がともに53.0%と最も高く、次いで〈シルバー人材センター〉が39.9%、「健康診査」が38.6%となっています。

また、「知らなかったが、対象年齢になったら利用したい」をみると、〈介護保険サービス利用者負担減免〉（71.3%）、〈認知症等行方不明SOSネットワーク〉（71.0%）、〈認知症等行方不明位置探索サービス事業〉（69.5%）が7割前後と高く、次いで〈救急医療情報キットの配布〉（67.9%）、〈紙おむつ給付〉（66.4%）、〈ふれあい手帳（要援護者登録）〉（63.9%）が6割台となっています。



第2章 調査結果の詳細／
一般調査（40～64歳）



9. 自由記述

■市の高齢者福祉事業や介護保険事業運営等へのご意見やご要望がございましたら、なんでも結構ですので、ご自由にご記入ください。

介護保険制度や保険者（綾瀬市）に対して、計70件のご意見・ご要望がありました。内訳としては、「制度・行政」19件、「情報入手・提供」16件、「日常生活・介護」8件などとなっています。なお、分類が重複するご意見は、「その他」に集約して掲載しています。

〈内訳〉

	分類	件数
1	制度・行政	19
2	情報入手・提供	16
3	日常生活・介護	8
4	アンケート調査	6
5	将来への不安	3
6	その他	18
	合計	70

1 制度・行政

- ・免許を返した後の交通を無料にして欲しい。なんならタクシーも。足がないから運転を続けていると思います。少しお金出したらパスポート（→無料パス）とかどうですか？
- ・義母（90歳）が『要介護認定者における障害者控除対象者認定』をいただけてありがたいのですが、インフルやコロナの無料予防接種のための書類を保険センターまでバスに乗って取りに行くのがきつくなっているようで、市の方から郵送するなど対応していただけると助かります。足腰が弱くなってきた義母にとって『あやモビ』はとても心強いサービスです。まだ利用したことはありませんが、これから活用させていただきます。ありがとうございます。
- ・今も義理の親、自分の親などをみたり、施設などを利用しているが、ほとんどが年金でやってもらいながら足りない子供が出す。子供を育ててる人にとってはとても苦しいので、もっと気軽に利用できる場所やお金の負担を減してくれないと若い人はもっと苦しく、みてあげることができない！！
- ・私も時々利用するのですが、コミュニティバスの本数が増えたら良いなと思います。特に長後駅行など駅行は乗り手が多く、朝は満席でした。
- ・毎日、出かけて、人と交流できる何かがあれば良いですね。（無料で）
- ・高齢化が進んでいるので、これまでのように家庭で家族が面倒を見るというのは現代社会では難しいと思う。高齢者の世話をしてくれる施設がもっと増え、格安（もしくは無料）で、誰でも当たり前に入所可能な世の中になることを望む。

- ・落合小学校の近くに特養が建つ予定ですが疑問に思うことがあります。（１）***等が定員割れをする等、近隣（藤沢など）の特養が振わなくなってきた“この時期”に建てるのは何故ですか？（２）春日台中学校が高齢者施設になるとずっと聞いてきましたがそれはどうなっていますか？（３）藤沢市特養は10ヶ所以上、綾瀬は3ヶ所ですがどの様な展望、計画ですか？
- ・市役所は住居によっては不便なので出張所を検討してほしいです。
- ・上記の事業をどんどん増やして現役世代の負担が（保険料が）どんどん増えるようなことはやめてほしい。現役世代の負担がなるべく増えない形での施策をお願いしたい。
- ・買い物や用事の時、利用できるタクシーを増やすなど。
- ・地域包括センターや居宅支援事業所などの相談の窓口が他市に比べて少ない様に感じます。
- ・知らないことが多く、気軽に相談できる場があればいいなと思います。
- ・お金が無くても安心して暮らせるようにしてほしい。
- ・父の介護時には、国や市のサービスに大変お世話になり、助かりました。今後の高齢化社会において、***病院の規模など、一段上げて行かないといけないと思う。予算が問題になりますが。
- ・ケアマネさんにもなかなか相談しづらいことや、だれに聞いたらいいかわからないことを総合的に相談できる窓口の案内を広くひろめていただきたいと思います。
- ・独居老人の対策を考えた方が良くと思います。今後、増加しますので！！
- ・いつもありがとうございます。誰もが尊厳を持って人生を終えられたら幸せだと思います。そんな福祉事業を考えていただけるとうれしいです。
- ・綾瀬市は交通の便がとても悪いので免許返納後の交通手段の充実に力を入れてほしいです。
- ・***やりサイクルプラザで働いている方がいつも活き活きとされていて素敵だなと感じています。女性は少ないようですが、女性も働ける場が増えるといいなと思っています。

2 情報入手・提供

- ・こういう支援がありますよという資料を個別に送ってほしい。自分でアクションを起こさなくても知っておきたい。
- ・保健福祉サービスの内容が分からないので、もっと詳しく内容を知らせてほしい。
- ・高齢者向けのサービスにどんな物があるのかぜんぜんわからないけど、その年になったら案内とか来るのかな？と思った。
- ・情報提供の充実をお願いします。
- ・広報等で読みやすい字の大きさや分かりやすくなっているとよさそう。高齢者宅へ色々な市や県や国での支援がある事を手紙等お知らせしてあげるサービスをしてけるとよさそう。
- ・紙面ではなく、インターネットを使うべき。
- ・引越しをしてきたので、子供も大きくなり地域の事も知らない事が多かった。特に高齢になるまで気づかなかったです。
- ・「独りがいいのよ」と言う高齢の親に対して地域のサービスを受け易く、サービス支援する方と接し易くなる取り組みがありましたら知りたいです。いつかはお世話になるのだと思いますが、ペーパーでも良いので「こんなサービス（一括して情報提供してくれるもの）が手助けが受けられる」ガイドなどがあると良いなと思います。ゆくゆくは自分の参考になるので。

- ・必要になった時に何からするのかもわからない。何か一家に一冊手引きの様なものがあったら安心の1つだと思います。
- ・問30の内容は知らないことばかりでした。もっと周知した方がいいのではないのでしょうか。
- ・市から自治会へもっと包括センターや認知症についての事例など情報提供をしてほしい（市まで問い合わせるより自治会で情報を収集していきたい）デイケアサービスで幼老複合施設などのくらいあるのか知りたい。
- ・色々な相談窓口や、活動があるということをもっとアピールしてほしい。
- ・今現在対象年齢ではないので知らない事が多いです。必要な時が来たら自分も家族もどのようなサービスが市から受けられるかわかりやすいガイドブックが1冊あると子どもにも負担をかけずにスムーズに色々な事を利用できると思います。
- ・まだ自身の年齢ではピンときませんが、市の取り組み等知ることができると、少し安心して年齢を重ねることができると思います。
- ・そもそも高齢者福祉事業介護保険事業運営についてわかっていないので、意見、要望も無く、まずは、知るところから…といった感じです。市がどのような取り組みをしているのか、何で知れるのか、そこから始めないとです。
- ・利用できる事柄、受けられるサービスとその方法を分かりやすく（専門用語などを平易な言葉に換えて）周知、配布していただきたい。よろしくお願いいたします。

3 日常生活・介護

- ・今現在、会社勤めで朝早くから夕方まで母を1人で家に置いて働いていますが、母がデイサービスも行きたがらず、体は元気ですが父を亡くし、話し相手が犬と猫しかいないなか、少し認知証なのか、物忘れなのかがすごく不安です。近所の方とも話している様子も無いため、定期的に日中見に来てくれる方がいると私も安心でき、何かあると助かります。
- ・今現在両親が介護3の状態年金もたりていないのでお金のかからない施設へ入れるといいです。お金ばかりかかるので私のお金もなくなっていきます。いくらならいてもたえません。借金しなければいけないのでしょうか？
- ・介護に携わる現場の職員への待遇向上（とても大変な仕事なのに給料が安い・労働時間も長い（24時間稼働している施設が多い）。今後利用者が増加していくうえで人材確保、育成の必要性がある。
- ・父が骨折した際ケアマネジャーさんに相談に乗っていただきました。今後も色々相談したいと思います。
- ・突然の手術や入院でせん妄が出てしまい、認知症の悪化で家に帰る事が出来なくなる前に、事前に、施設など知っている家族などと、話し合える、ゆとりをもった場所作り、結局介護は子や施設に任せる事になり、介護を受ける本人は恥ずかしがろうと、まな板の鯉。黙認の部分が多いのが現状。
- ・何をしても、その時の移動手段が自分にあるのだろうかというところが気になります。

- ・ご高齢の方々の多くは、今までの人生を生きてきた中の自信と信念が、とても強い方が多いなと私は思います。おそらく自分もそうです。なので、あからさまに「高齢」や、「福祉」と言われてしまうと、もう、自分は、年なんだと諦めてしまうので、もっと気楽にカフェにでも行くつもりで、そういう所を利用できたらいいのにと思いました。
- ・デイサービスの送迎者の負担軽減が必要。階段の登降補助器具、車いす等、送迎バスの共有運用等導入を検討する必要があると考えます。送迎ドライバーが怪我をして要介護になった事例あり。補助器具とは、重いものを運ぶ際に腰をサポートするバッテリー器具の事、車いすとは、階段で車輪が分割して自走で昇降出来るものを言う。

4 アンケート調査

- ・まだ先の事すぎてアンケートに答えづらい。せめて60歳以上にした方が良いのでは？
- ・問30の質問はまだ利用に対しての実感が湧かないため、答えが良くわかりませんでした。
- ・40代～ですのでweb等のネット上、オンラインでの回答にしてほしい。面倒です。
- ・子育てしている、人達に、このアンケートは意味がない。
- ・問30は、どのようなサービスか分からない項目が多かったので「○」を付けられなかったです。
- ・質問の構成がちょっと煩雑。

5 将来への不安

- ・不安しかない。60歳以上から税を減らして欲しい。生活が厳しい。
- ・今はまだ50代なので実感がわからない状態ですが、今後を考えるとなるべく子供達に負担をかけたくない思いです。
- ・将来的には、社会的にもどんな状況になるか分かりませんが、社会との繋がりが一切なくなってしまうと、孤立、孤独になりつつあるので、そこを上手くカバーして対策して充実してくれれば、将来的にも大分、不安はなくなると思います。

6 その他

- ・今後に期待しています。
- ・いつもありがとうございます。市役所のお仕事は、大変ですネ。
- ・40代なので、正直具体的に考えられない。
- ・まだ深く考えていない。
- ・福祉事業や介護保険サービスは必要になった段階で相談をしたり情報収集をするのは遅いような気がしています。65歳になったらとか、仕事をリタイアしたらとか、一定の段階でオリエンテーション（福祉事業介護サービス）を受けることができるようにして、健康な段階から、でもそろそろ健康不安が出そうな時期に情報提供、健康教育を受けられる仕組みがあると予防活動に対する取り組みの効果が出やすいのではないのでしょうか。

- ・ 交通手段の不便さ、駅も遠く、コミュニティバスがあるもののルート、本数の少なさ。今後、高齢になり外出機会が減少するのではと不安を感じる。
- ・ 義母が要介護4？5？で特養に入所しており、私自身も介護職でキャリアが20年を越えました。私自身が当事者になった時に実子たちの認識の無さをひどく痛感しました。「長男の嫁」が介護の全てを行うなんて何十年前の話しですかね？現在の制度を広く認知してもらいたいです。「やらない人間ほど口を出す」当事者でも仕事でもこのような人間が認知症本人や周りをややこしくしていきます。「口を出すなら手も出す」ような制度を作っていけるようにしてもらいたいです。
- ・ 綾西に住んでおりますが、近隣には日々の買物に不自由されている方々がいらっしゃいます。私自身も高齢化に伴い、将来的に車の運転ができなくなった場合の買物の手段について、大きな不安を感じております。皆様が安心して生活できるよう、具体的な解決策や地域でできる支援の方法があればと思います。
- ・ 寺尾地区に、店がなく、身近に高齢者がいるため困っています。移動サービス、コミバスなど、もっと便利になれば孤立しないと思います。家、アパートは、増えるのに、お店（コンビニ）は全然なく、足が悪くなった時を考えると不安です。
- ・ 他市に住んでいる母の介護で問30にある20、21、24は利用しているので知っていましたが、綾瀬市にもあることを知りませんでした。
- ・ 今後、益々介護を必要とする高齢者が増えていくはずです。私の世代の方々に介護が必要となる20～30年後に、介護保険事業が資金不足で破綻しているのではないかと不安です。
- ・ 大変申し訳ございませんが、まだ実感がわきません。このアンケートの郵送代の方が気になります。綾瀬のLINEなどからアンケートを取ってもよいのでは。しかし、市が高齢政策等に真剣に取り組もうとしている意気込みは感じました。自分が高齢になった時、より良い介護が受けられるよう、市の政策に期待します。
- ・ 最近、行方不明者を知らせるアナウンスを聞くことが多くなったと感じます。本人、家族双方が辛い思いをしない様、“GPSキーホルダー”等を無料で配布できたら良いのにとと思います。綾瀬市の広報に、市内のサークル活動のジャンルを幅広く掲載してほしい。高齢になってからではなく、全年齢が対象のサークルを掲載してほしい。
- ・ 将来、自分が高齢者になった時は高齢者が单身でも安心して住める集合住宅で、内職やシルバー人材派遣のお仕事ができる共用スペースなどがあって、活動しながら自分で少しでも稼いでいられる環境があったら老後に向けて少しでも心身ともに元気でいれば老後に悪いイメージは持たない。60、70、80、90才になっても自分でやれる事、やらなきゃいけない事があれば今の40代と同じようにその年齢に合った努力ができそう。今の生活で精一杯、貯金は難しい、少しでも不安がなくなる生活が送れるように何卒お願いします。朝、昼、夜（夕方）とかに公園でラジオ体操ができる習慣が良い。老若男女、気軽に集まれて運動のまず1歩に、ご近所付き合いや騒音を気にせずやれる環境になると平和。
- ・ 綾瀬には鉄道の駅がなく、公共交通機関も少ないので、年をもっと重ねたときに、足となるものがなく不便である。バスの料金も年々上がっているし、物価も上がっているので、今後の生活にとっても不安が多い。高齢者が安心して過ごせるような街作り、補助を充実させて欲しいと思います。

- ・当事者ではないので、何の事業を行っているのかが分からない。タウンヒルズのような、いこいの場が現在の綾瀬市にはないので、市で何かしらの運営をしてほしいと思います。P S、今時紙でアンケートですか？40代へのアンケートなら、QR送付でネットが良いと思います！
- ・配食サービスを充実してほしい（なるべくおいしく）。移動スーパー等に（タクシーなどは高いから）来てほしい。ヘルパーさん不足もあると思うのでヘルパーを利用しないでも安否確認等が出来るシステムをもっとしっかりした方が良いと思う。
- ・市の福祉事業によるサービスがどのような条件で、何が受けられるのかがよく分かりません。市のサービスはできるだけ受けたいと思います。

第3章 調査結果の詳細／ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

1. 回答者属性

(1) 年齢構成（性別）

上段(件)、下段(%)

	n	65歳～74歳			75歳以上							無回答
		65歳～ 69歳	70歳～ 74歳	計	75歳～ 79歳	80歳～ 84歳	85歳～ 89歳	90歳～ 94歳	95歳～ 99歳	100歳 以上	計	
全 体	615 100.0	91 14.8	131 21.3	222 36.1	177 28.8	109 17.7	85 13.8	19 3.1	2 0.3	-	392 63.7	1 0.2
男 性	281 100.0	39 13.9	68 24.2	107 38.1	82 29.2	40 14.2	43 15.3	9 3.2	-	-	174 61.9	-
女 性	333 100.0	52 15.6	63 18.9	115 34.5	95 28.5	69 20.7	42 12.6	10 3.0	2 0.6	-	218 65.5	-
無回答	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 100.0

(2) 認定状況（性別）

上段(件)、下段(%)

	n	要支援者・事業対象者				一般高齢者	無回答
		要支援1	要支援2	事業対象者	計		
全 体	615 100.0	27 4.4	21 3.4	-	48 7.8	566 92.0	1 0.2
男 性	281 100.0	12 4.3	5 1.8	-	17 6.0	264 94.0	-
女 性	333 100.0	15 4.5	16 4.8	-	31 9.3	302 90.7	-
無回答	1 100.0	-	-	-	-	-	1 100.0

(3) 年齢構成（認定状況別）

上段(件)、下段(%)

	n	65歳～74歳			75歳以上							無回答
		65歳～ 69歳	70歳～ 74歳	計	75歳～ 79歳	80歳～ 84歳	85歳～ 89歳	90歳～ 94歳	95歳～ 99歳	100歳 以上	計	
全 体	615 100.0	91 14.8	131 21.3	222 36.1	177 28.8	109 17.7	85 13.8	19 3.1	2 0.3	-	392 63.7	1 0.2
要支援1	27 100.0	2 7.4	2 7.4	4 14.8	5 18.5	8 29.6	5 18.5	3 11.1	2 7.4	-	23 85.2	-
要支援2	21 100.0	-	-	-	5 23.8	4 19.0	8 38.1	4 19.0	-	-	21 100.0	-
事業対象者	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
一般高齢者	566 100.0	89 15.7	129 22.8	218 38.5	167 29.5	97 17.1	72 12.7	12 2.1	-	-	348 61.5	-
無回答	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 100.0

(4) 日常生活圏域（性別）

上段(件)、下段(%)

	n	北部綾北圏域	北部寺尾圏域	西部圏域	中・南部圏域	無回答
全 体	615 100.0	89 14.5	136 22.1	159 25.9	230 37.4	1 0.2
男 性	281 100.0	43 15.3	60 21.4	69 24.6	109 38.8	- -
女 性	333 100.0	46 13.8	76 22.8	90 27.0	121 36.3	- -
無回答	1 100.0	- -	- -	- -	- -	1 100.0

(5) 年齢構成（日常生活圏域別）

上段(件)、下段(%)

	n	65歳～74歳			75歳以上							無回答
		65歳～69歳	70歳～74歳	計	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳～89歳	90歳～94歳	95歳～99歳	100歳以上	計	
全 体	615 100.0	91 14.8	131 21.3	222 36.1	177 28.8	109 17.7	85 13.8	19 3.1	2 0.3	-	392 63.7	1 0.2
北部綾北圏域	89 100.0	13 14.6	19 21.3	32 36.0	27 30.3	16 18.0	10 11.2	4 4.5	-	-	57 64.0	-
北部寺尾圏域	136 100.0	18 13.2	31 22.8	49 36.0	44 32.4	19 14.0	17 12.5	6 4.4	1 0.7	-	87 64.0	-
西部圏域	159 100.0	25 15.7	28 17.6	53 33.3	39 24.5	37 23.3	27 17.0	2 1.3	1 0.6	-	106 66.7	-
中・南部圏域	230 100.0	35 15.2	53 23.0	88 38.3	67 29.1	37 16.1	31 13.5	7 3.0	-	-	142 61.7	-
無回答	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 100.0

(6) 住宅の所有関係（男女別）

上段(件)、下段(%)

	n	持家 (一戸建て)	持家 (集合住宅)	公営 賃貸住宅	民間 賃貸住宅 (一戸建て)	民間 賃貸住宅 (集合住宅)	借家	その他	無回答
全 体	615 100.0	453 73.7	46 7.5	5 0.8	5 0.8	22 3.6	12 2.0	1 0.2	71 11.5
男 性	281 100.0	203 72.2	19 6.8	2 0.7	4 1.4	15 5.3	3 1.1	1 0.4	34 12.1
女 性	333 100.0	249 74.8	27 8.1	3 0.9	1 0.3	7 2.1	9 2.7	-	37 11.1
無回答	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-

(7) 世帯構成（男女別）

上段(件)、下段(%)

	n	1人暮らし	夫婦 2人暮らし (配偶者 65歳以上)	夫婦 2人暮らし (配偶者 64歳以下)	息子・娘 との 2世帯	その他	無回答
全 体	615 100.0	117 19.0	257 41.8	20 3.3	104 16.9	101 16.4	16 2.6
男 性	281 100.0	48 17.1	131 46.6	15 5.3	39 13.9	41 14.6	7 2.5
女 性	333 100.0	69 20.7	126 37.8	5 1.5	64 19.2	60 18.0	9 2.7
無回答	1 100.0	-	-	-	1 100.0	-	-

(8) 年齢構成（世帯構成別）

上段(件)、下段(%)

	n	65歳～74歳			75歳以上							無回答
		65歳～ 69歳	70歳～ 74歳	計	75歳～ 79歳	80歳～ 84歳	85歳～ 89歳	90歳～ 94歳	95歳～ 99歳	100歳 以上	計	
全 体	615 100.0	91 14.8	131 21.3	222 36.1	177 28.8	109 17.7	85 13.8	19 3.1	2 0.3	-	392 63.7	1 0.2
1人暮らし	117 100.0	11 9.4	26 22.2	37 31.6	34 29.1	22 18.8	16 13.7	8 6.8	-	-	80 68.4	-
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	257 100.0	41 16.0	55 21.4	96 37.4	81 31.5	44 17.1	32 12.5	4 1.6	-	-	161 62.6	-
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	20 100.0	5 25.0	2 10.0	7 35.0	5 25.0	3 15.0	4 20.0	1 5.0	-	-	13 65.0	-
息子・娘との2世帯	104 100.0	15 14.4	21 20.2	36 34.6	25 24.0	16 15.4	22 21.2	3 2.9	1 1.0	-	67 64.4	1 1.0
その他	101 100.0	18 17.8	24 23.8	42 41.6	29 28.7	19 18.8	7 6.9	3 3.0	1 1.0	-	59 58.4	-

2. 家族や生活状況

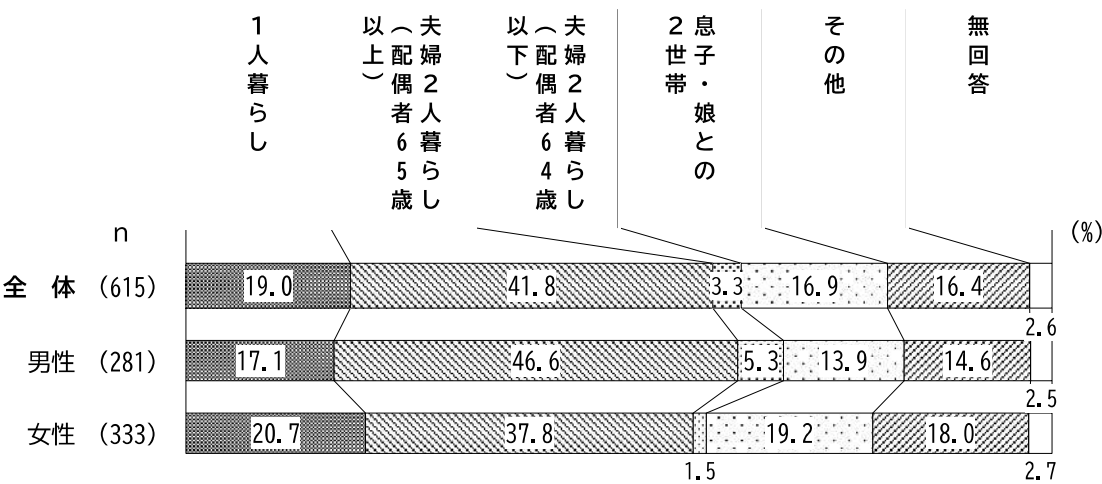
(1) 家族構成

問1 家族構成をお教えてください。(○はひとつ)

「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が41.8%で最も高く、次いで「1人暮らし」が19.0%、「息子・娘との2世帯」が16.9%となっています。

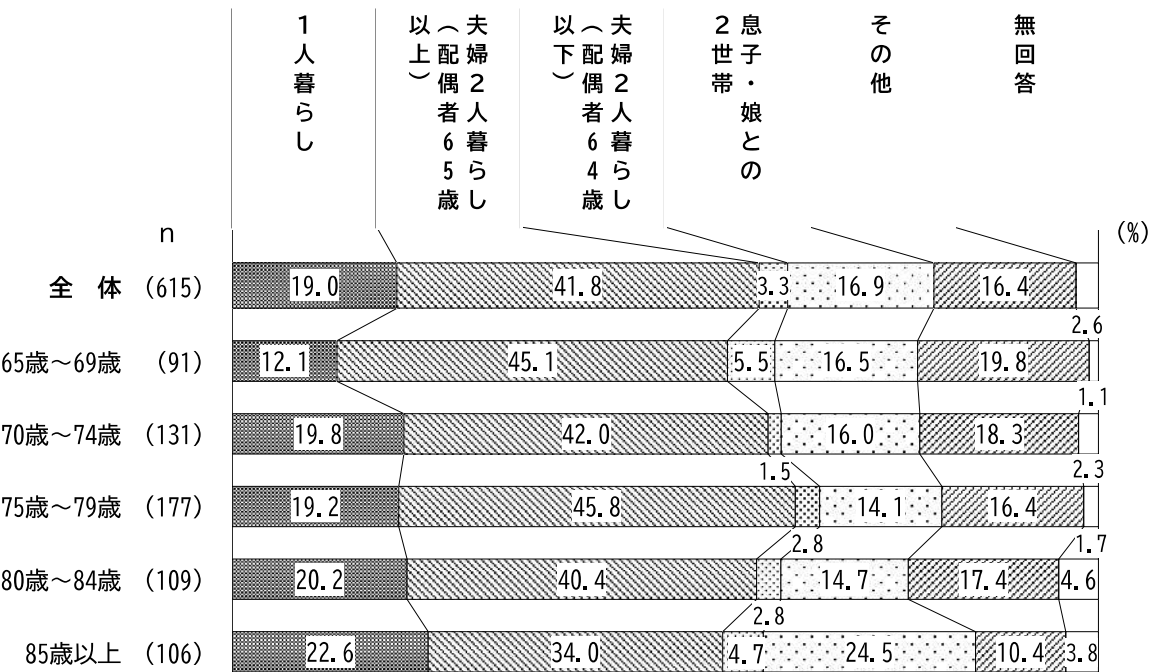
〈性別〉

性別にみると、「1人暮らし」が男性17.1%、女性20.7%で女性の方が3.6ポイント高くなっていますが、大きな差はみられません。



〈年齢別〉

年齢別にみると、「息子・娘との2世帯」が85歳以上で24.5%と他の年代と比べて高くなっています。



(2) 介護・介助の必要度

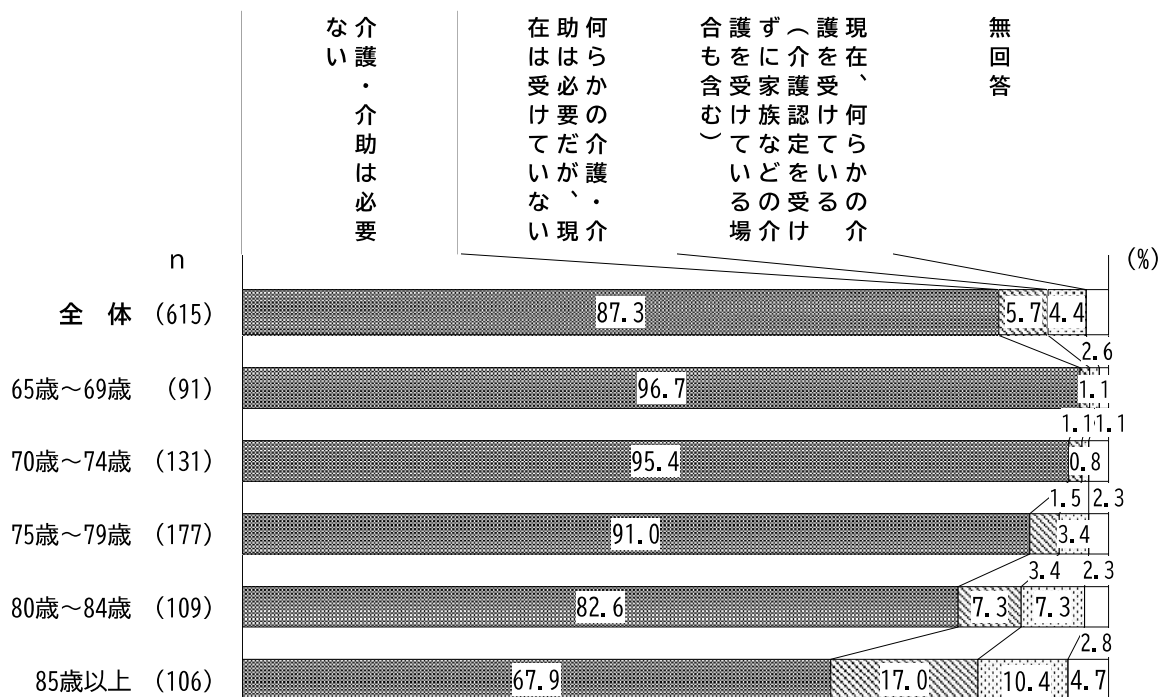
問2 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(○はひとつ)

「介護・介助は必要ない」が87.3%となっています。

〈年齢別〉

年齢別にみると、「介護・介助は必要ない」が65歳～79歳で9割台と高くなっています。

また、年齢が上がるにつれ「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」が高くなり、85歳以上では合わせて27.4%となっています。

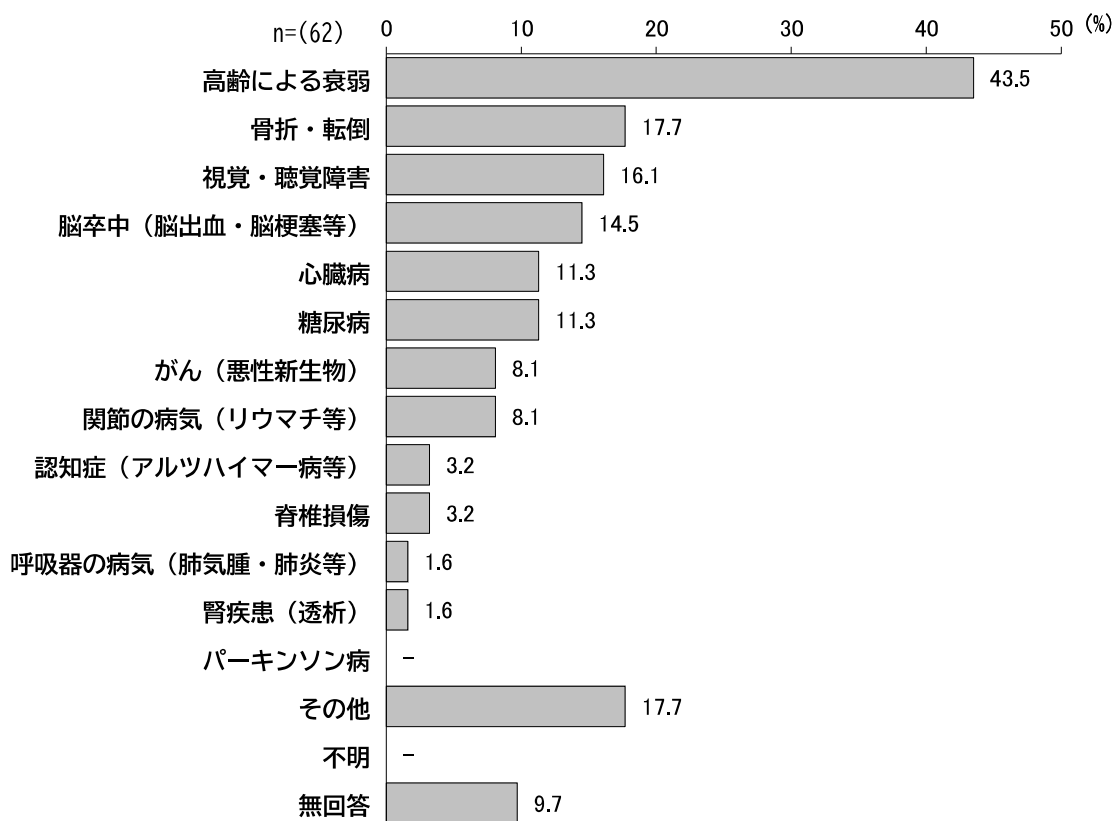


(3) 介護・介助が必要になった主な原因

問2で「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」又は「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」とお答えの方におたずねします

問2-1 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか。（いくつでも）

「高齢による衰弱」が43.5%で最も高く、次いで「骨折・転倒」が17.7%、「視覚・聴覚障害」が16.1%となっています。

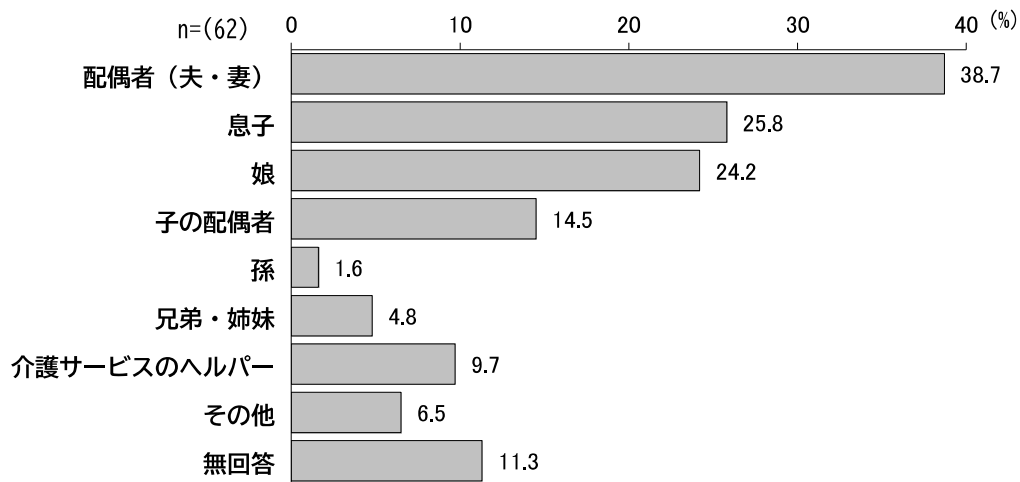


(4) 主な介護、介助者

問2で「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」又は「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」とお答えの方におたずねします

問2-2 主にどなたの介護、介助を受けていますか。（いくつでも）

「配偶者（夫・妻）」が38.7%で最も高く、次いで「息子」が25.8%、「娘」が24.2%となっています。



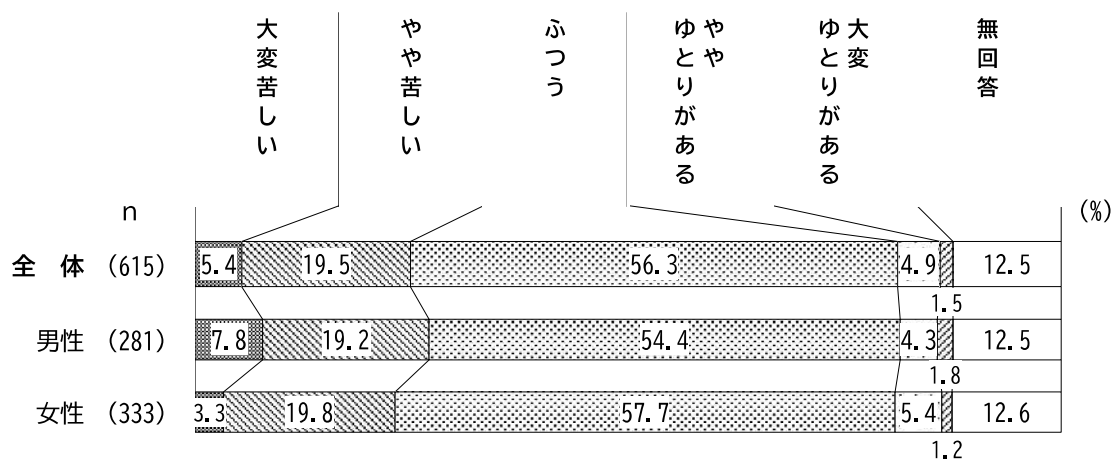
(5) 暮らし向き

問3 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。（○はひとつ）

「ふつう」が56.3%で最も高く、次いで「やや苦しい」が19.5%となっています。

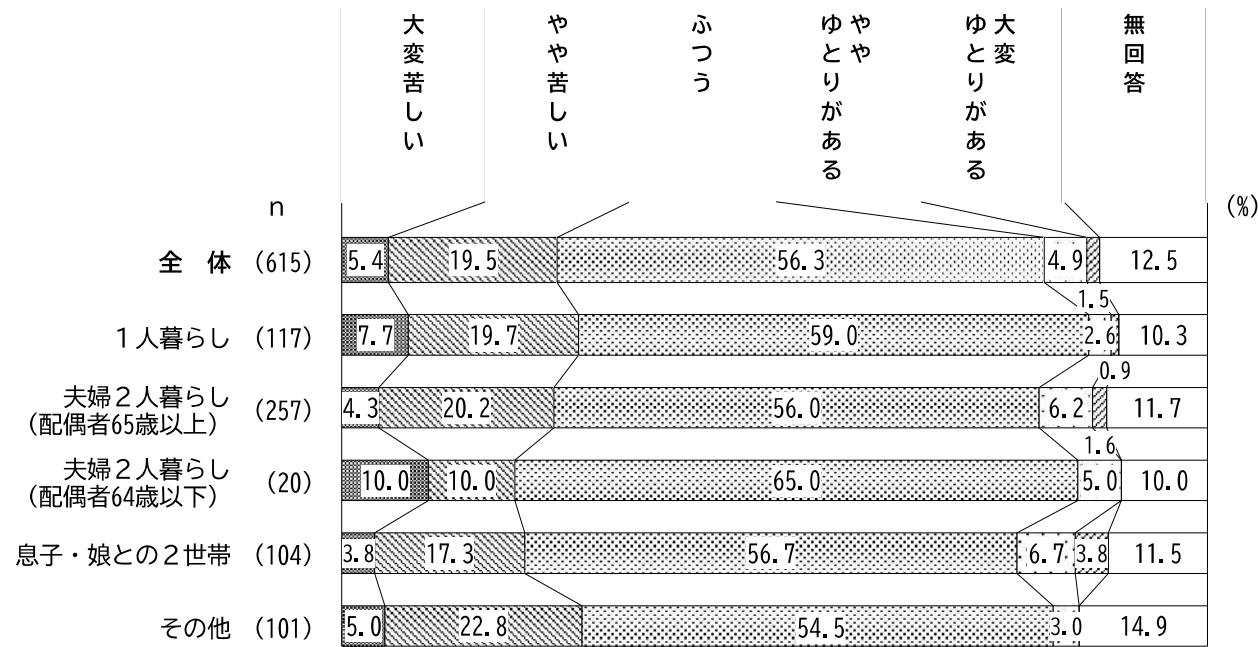
〈性別〉

性別にみると、「大変苦しい」が男性7.8%、女性3.3%で男性の方が4.5ポイント高くなっています。



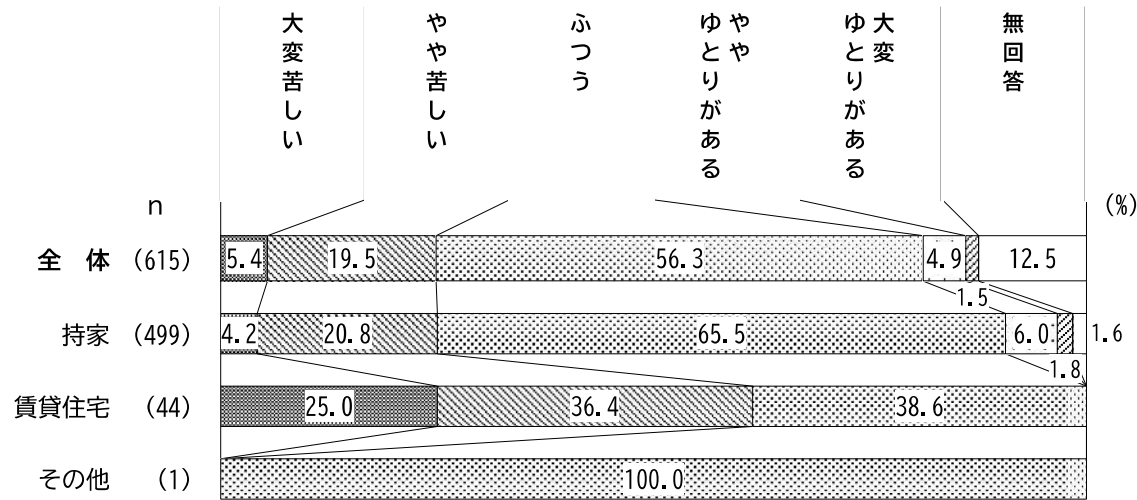
〈世帯構成別〉

世帯構成別にみると、1人暮らしで「大変苦しい」「やや苦しい」を合わせた『苦しい』の割合が高くなっています。



〈住居形態別（3区分）〉

住居形態別（3区分）にみると、賃貸住宅で「大変苦しいと」「やや苦しい」を合わせた『苦しい』の割合が高くなっています。



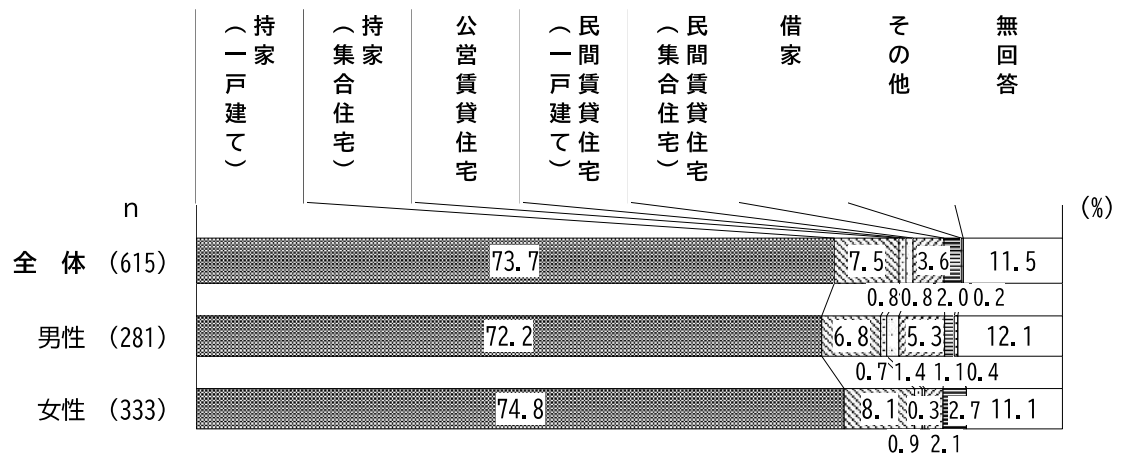
(6) 住居形態

問4 お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。(〇はひとつ)

「持家（一戸建て）」が73.7%となっています。

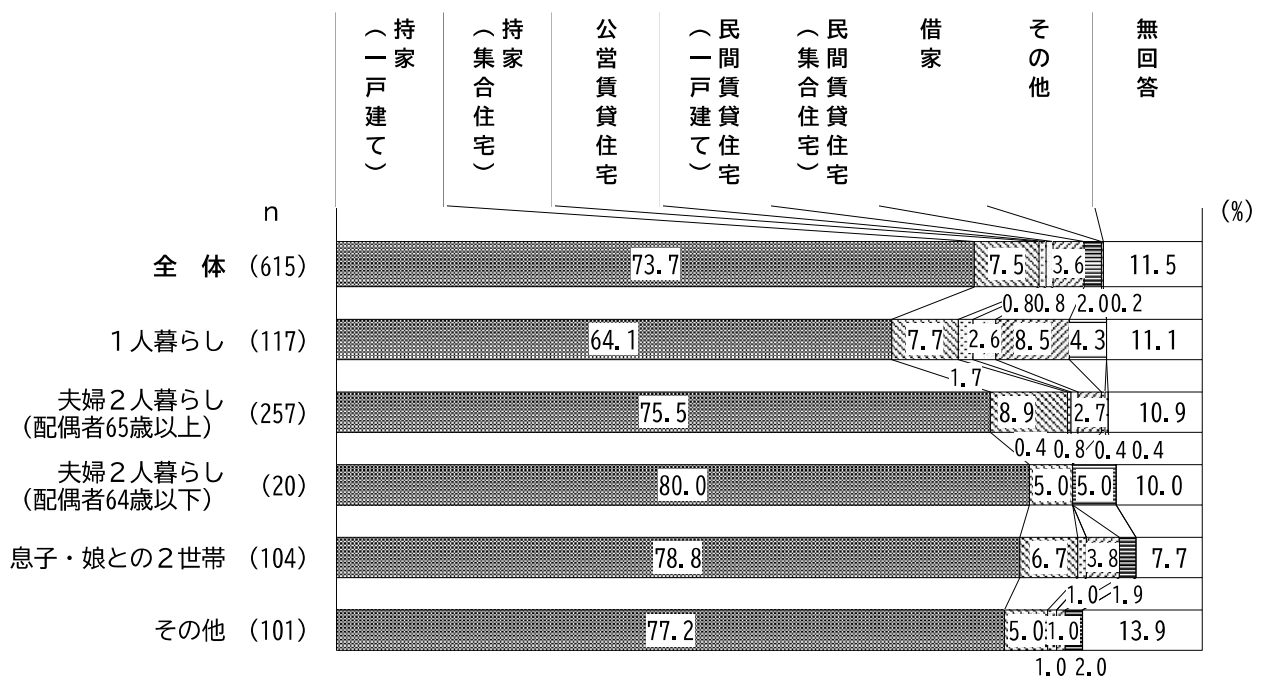
〈性別〉

性別にみると、大きな差はみられません。



〈世帯構成別〉

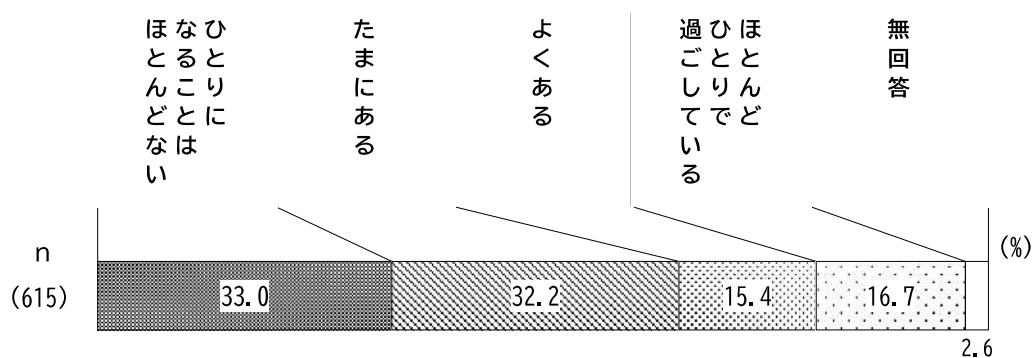
世帯構成別にみると、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）で「持家（一戸建て）」が80.0%と高くなっています。



(7) 日中、家にひとりであること

問5 あなたは、日中、家にひとりであることがどのくらいありますか。(○はひとつ)

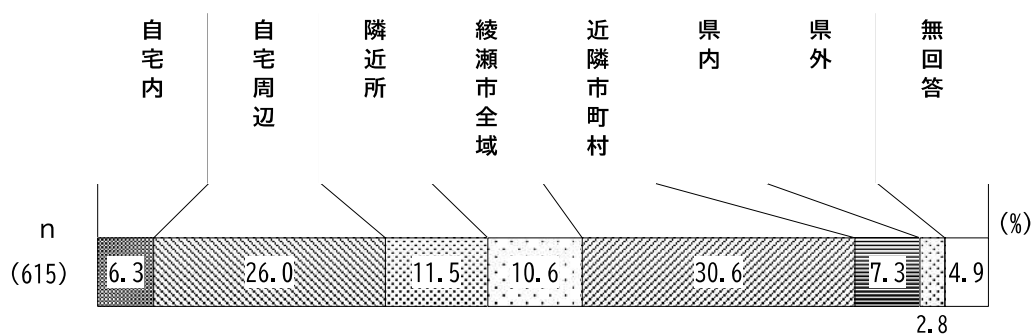
「ひとりになることはほとんどない」が33.0%で最も高く、次いで「たまにある」が32.2%、「ほとんどひとりで過ごしている」が16.7%となっています。



(8) 普段の生活での行動範囲

問6 あなたは普段の生活でどのくらいの範囲を行動していますか。(○はひとつ)

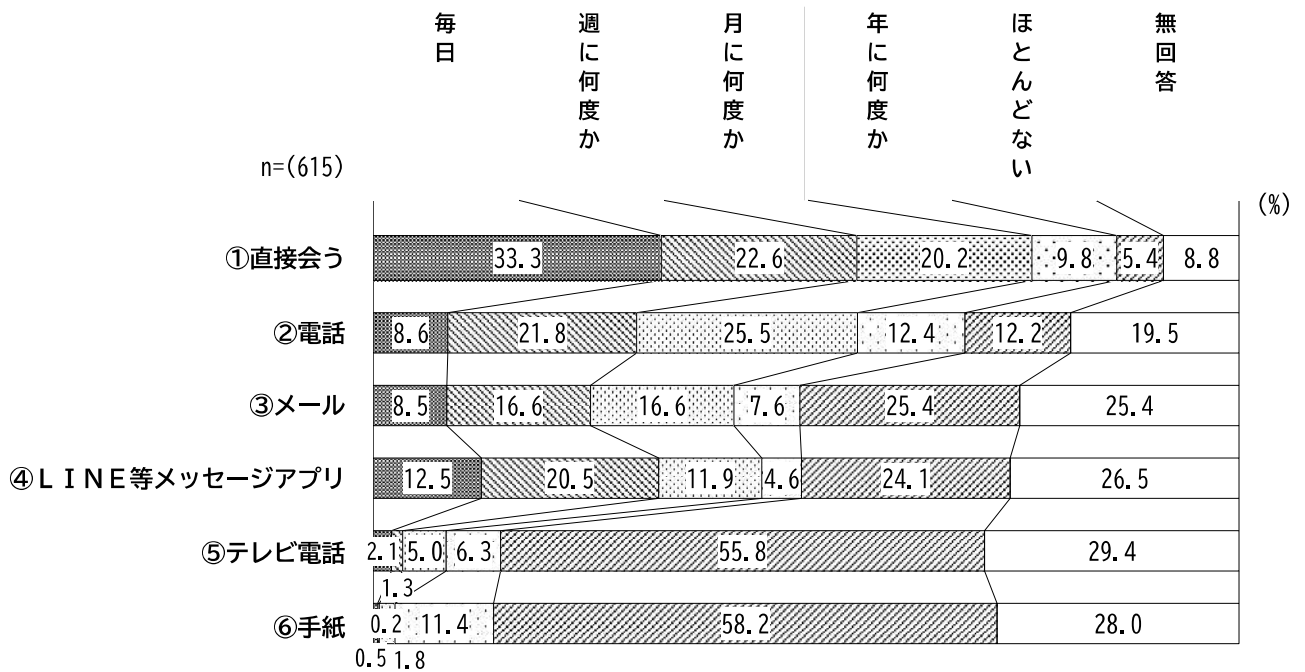
「近隣市町村」が30.6%で最も高く、次いで「自宅周辺」が26.0%となっています。



(9) 交流手段別の頻度

問7 家族・友人・知人と、次の手段で交流をする頻度はどのくらいですか。※①－⑥それぞれに回答してください。(〇はひとつ)

「毎日」が直接会うで33.3%と他の交流手段と比べて高くなっています。「月に何度か」が電話で25.5%となっています。「ほとんどない」が手紙で58.2%と高くなっています。



3. からだを動かすこと

■運動機能低下リスク判定

ア 設問と評価

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、5項目のうち3項目以上に該当する人を運動器のリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問11	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	3. できない
問12	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	3. できない
問13	15分位続けて歩いていますか。	3. できない
問14	過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある
問15	転倒に対する不安は大きいですか。	1. とても不安である 2. やや不安である

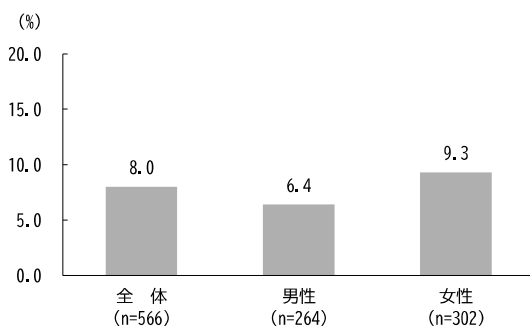
イ 評価結果

結果をみると、一般高齢者566人のうち8.0%（男性6.4%、女性9.3%）が該当者となっており、女性の方が高くなっています。

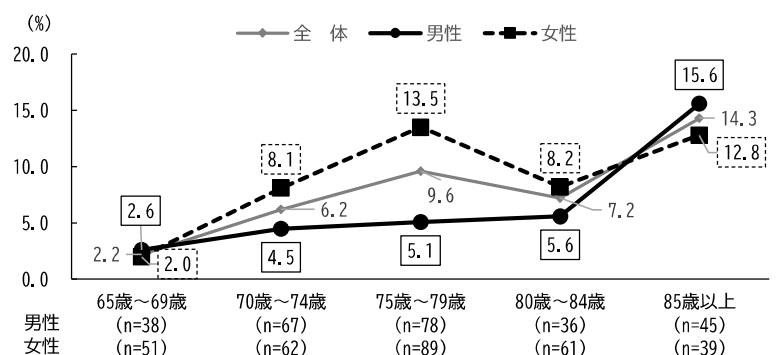
性別・年齢別にみると、女性の70歳～84歳は男性より高く、なかでも75歳～79歳は13.5%と最も高くなっており8.4ポイント差があります。また、男性の85歳以上では15.6%と80歳～84歳から10.0ポイント上昇しています。一方、女性の85歳以上では、80歳～84歳で低くなったものの再び12.8%と上昇しています。

全般的に女性のリスクが高く、また85歳以上では男性も高くなっていることがわかります。

【該当者割合】



【性別・年齢別】

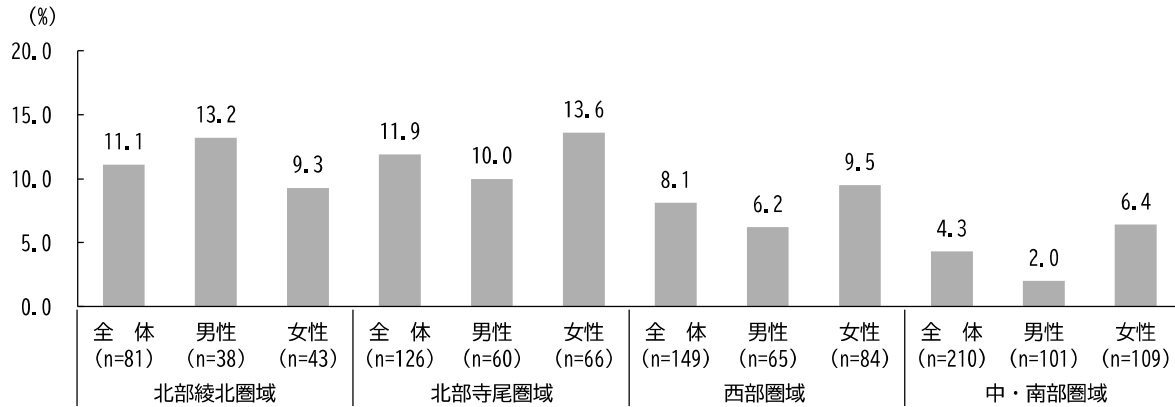


日常生活圏域別にみると、北部寺尾圏域が11.9%で最も高くなっています。

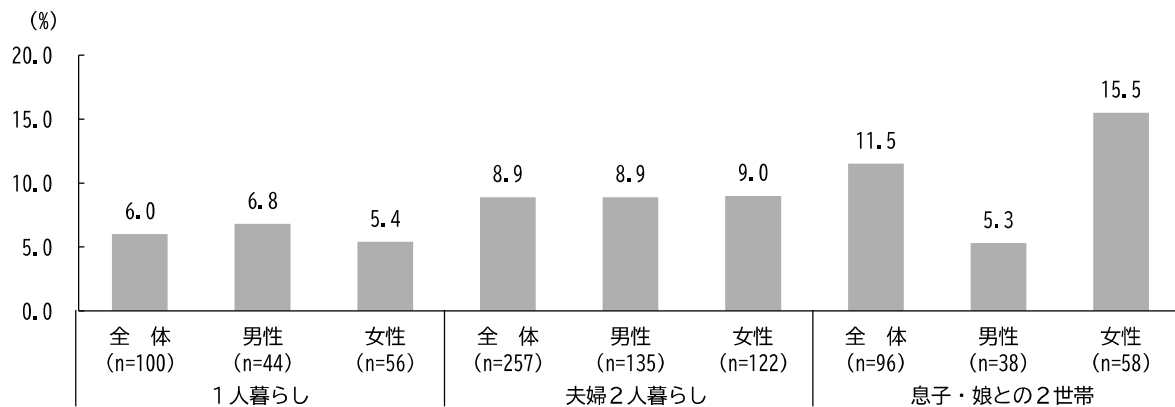
世帯構成別にみると、息子・娘との2世帯が11.5%で最も高くなっています。

認定状況別にみると、一般高齢者が8.0%に対して、要支援者では52.1%となっており、44.1ポイント高くなっています。

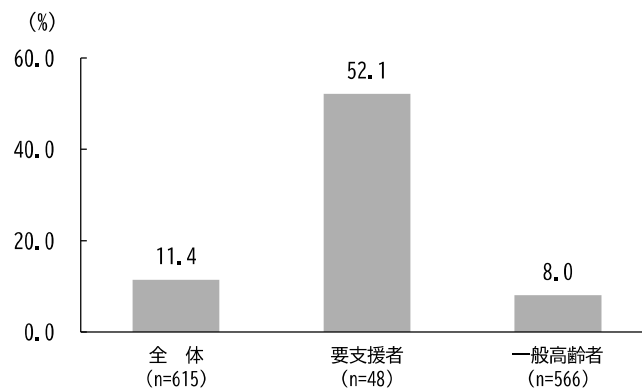
【日常生活圏域別・性別】



【世帯構成別・性別】



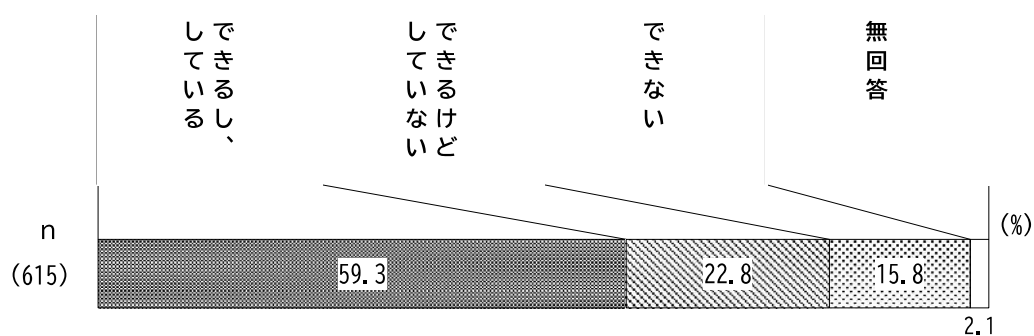
【認定状況別】



(1) 階段の昇降

問11 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(○はひとつ)

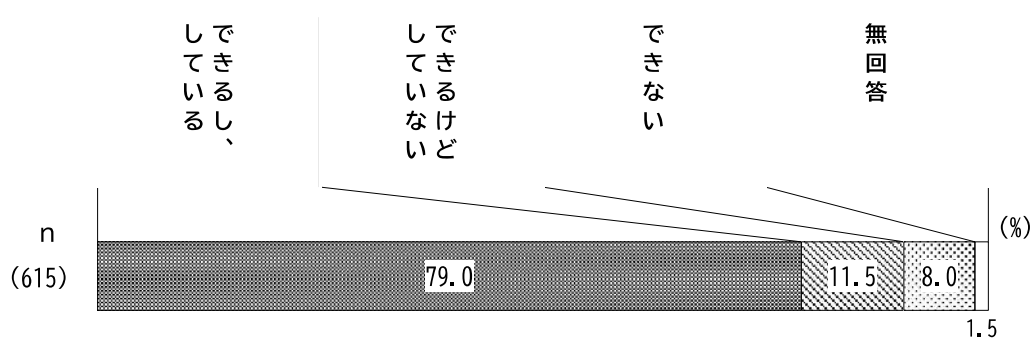
「できるし、している」が59.3%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が22.8%となっています。一方「できない」は15.8%となっています。



(2) 椅子からの立ち上がり

問12 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(○はひとつ)

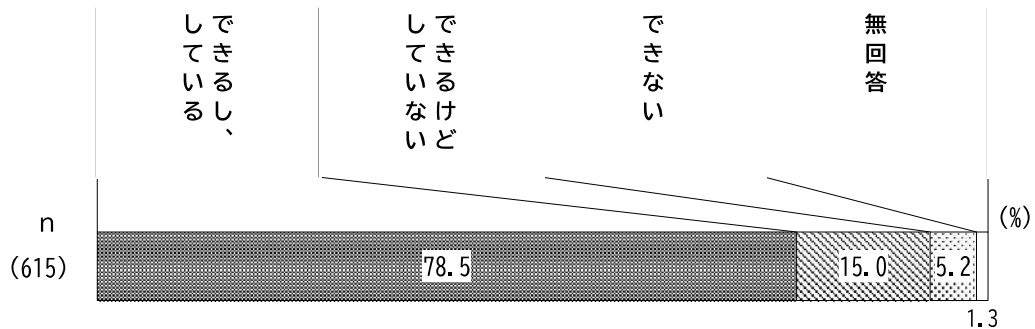
「できるし、している」が79.0%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が11.5%となっています。



(3) 15分間の歩行

問13 15分位続けて歩いていますか。(○はひとつ)

「できるし、している」が78.5%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が15.0%となっています。



(4) 運動習慣・一緒に運動をする人

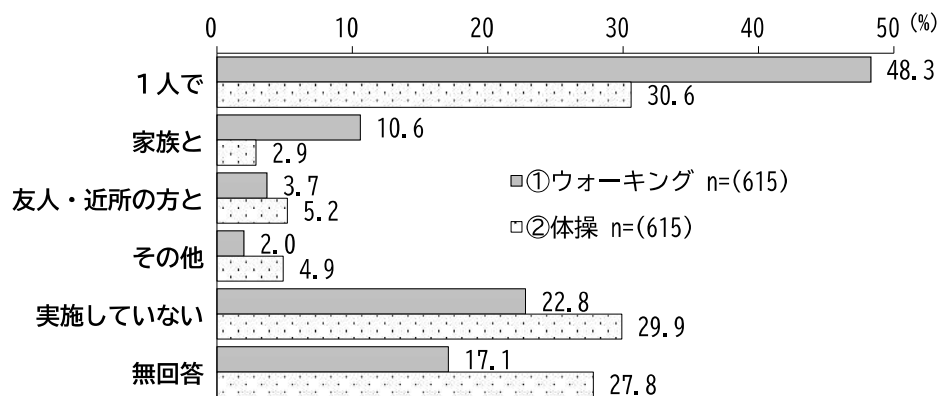
問61 あなたは最近どのような運動をしていますか。また、どなたと実施しましたか。

※①～④の運動それぞれに回答してください。実施している場合は1～4から選択（いくつでも）、実施していない場合は「5」を選択

※①～②以外の運動をしている場合は、③④に「③（ゴルフ）」のように記入してください。

〈ウォーキング〉は「1人で」が48.3%と最も高く、「家族と」が10.6%、「実施していない」は22.8%となっています。

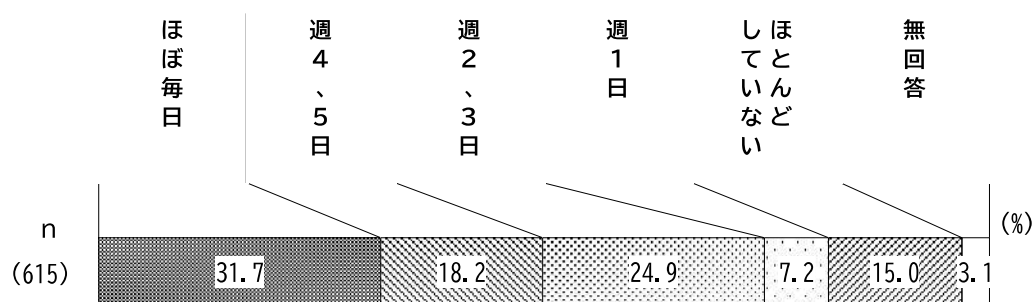
また、〈体操〉は「一人で」が30.6%、「実施していない」が29.9%となっています。



(5) 運動をする頻度

問62 あなたが1週間の中で運動（散歩・体操などを含む）をする頻度はどれくらいですか。
（○はひとつ）

「ほぼ毎日」が31.7%で最も高く、次いで「週2、3日」が24.9%、「週4、5日」が18.2%となっています。



■転倒リスク判定

ア 設問と評価

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を転倒のリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

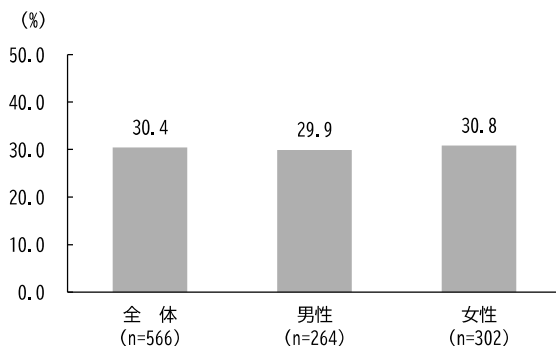
問番号	設問	該当する選択肢
問14	過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある

イ 評価結果

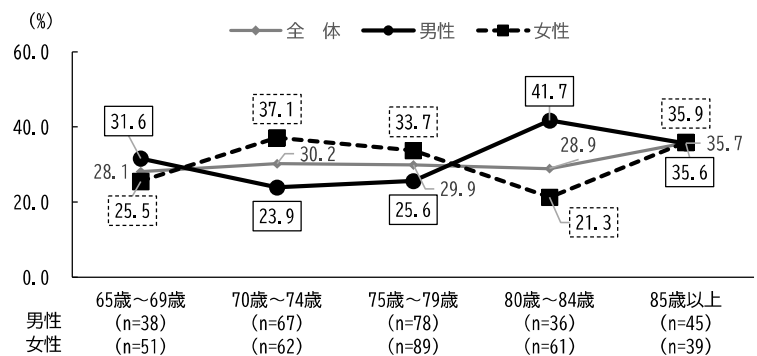
結果をみると、一般高齢者566人のうち、30.4%（男性29.9%、女性30.8%）が該当者となっています。

性別・年齢別にみると、男性の80歳～84歳が41.7%と、75歳～79歳から16.1ポイント上昇し最も高くなっていますが、70歳～79歳では女性の方が高く、全体的には、リスクにほぼ男女差はみられないと言えます。

【該当者割合】



【性別・年齢別】

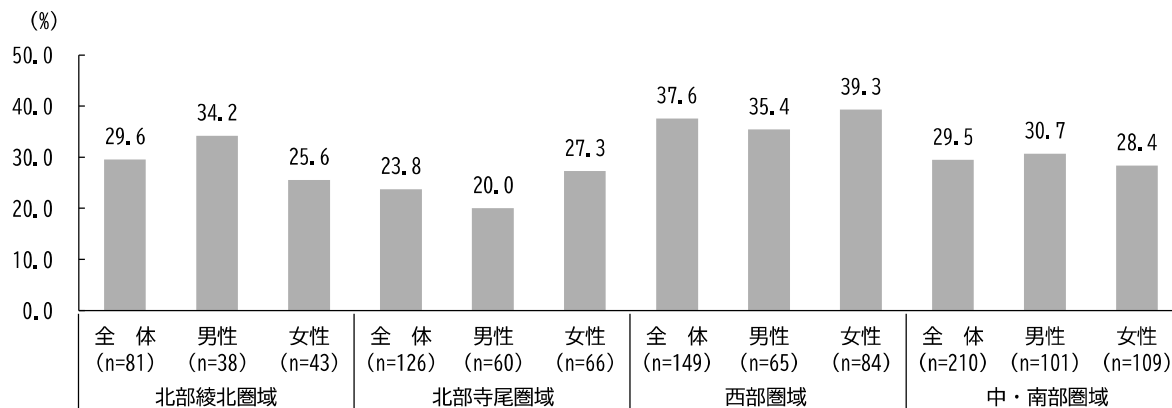


日常生活圏域別にみると、西部圏域が37.6%で最も高くなっています。

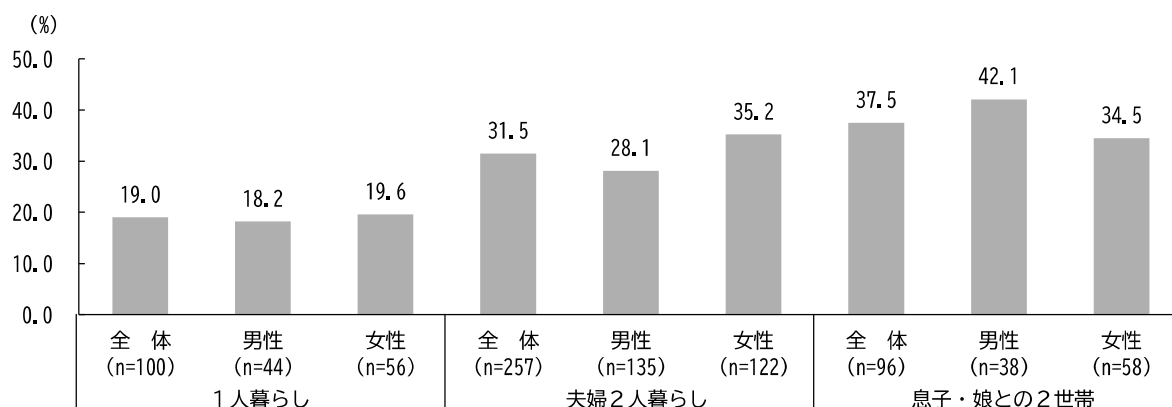
世帯構成別にみると、息子・娘との2世帯が37.5%で最も高くなっています。

認定状況別にみると、一般高齢者が30.4%に対して、要支援者では50.0%となっており、19.6ポイント高くなっています。

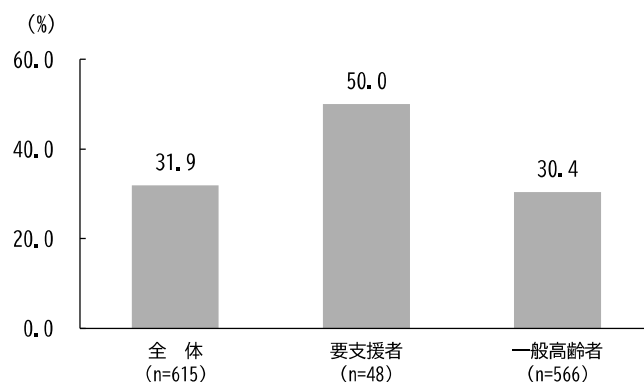
【日常生活圏域別・性別】



【世帯構成別・性別】



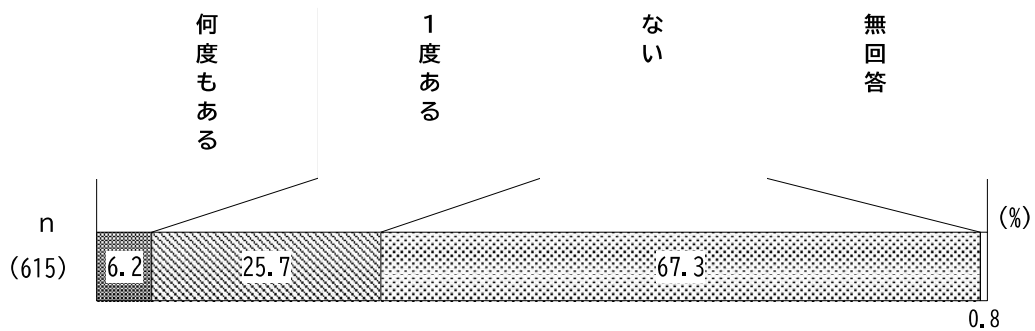
【認定状況別】



(6) 過去1年間の転倒経験

問14 過去1年間に転んだ経験がありますか。(○はひとつ)

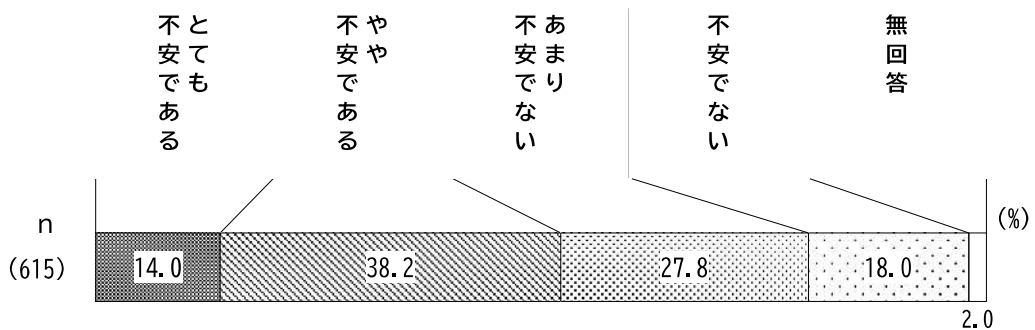
「1度ある」が25.7%となっています。一方「ない」は67.3%となっています。



(7) 転倒に対する不安

問15 転倒に対する不安は大きいですか。(○はひとつ)

「やや不安である」が38.2%で最も高く、次いで「あまり不安でない」が27.8%、「不安でない」が18.0%となっています。



■閉じこもり傾向リスク判定

ア 設問と評価

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を閉じこもりのリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

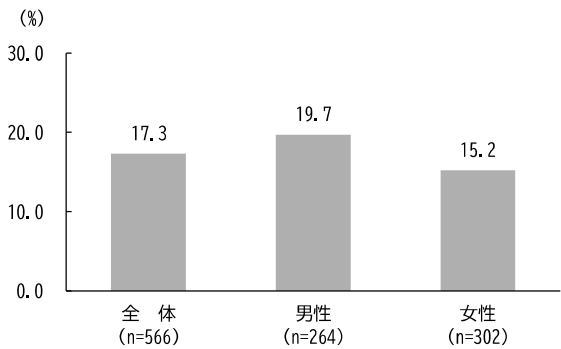
問番号	設問	該当する選択肢
問16	週に1回以上は外出していますか。	1. ほとんど外出しない 2. 週1回

イ 評価結果

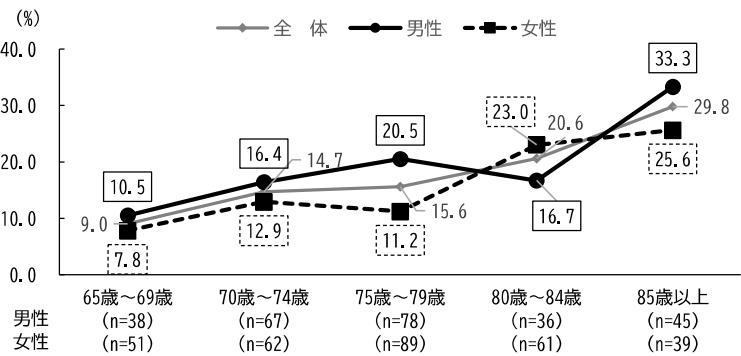
結果をみると、一般高齢者566人のうち、17.3%（男性19.7%、女性15.2%）が該当者となっており、男性の方が高くなっています。

性別・年齢別にみると、男性では、85歳以上で33.3%と、80歳～84歳に比べ16.6ポイント上昇しています。また、80歳～84歳を除き、女性に比べ男性で割合が高く、75歳～79歳で9.3ポイント、85歳以上で7.7ポイントの差となっています。女性では、80歳～84歳、85歳以上で2割台と高くなっています。

【該当者割合】



【性別・年齢別】

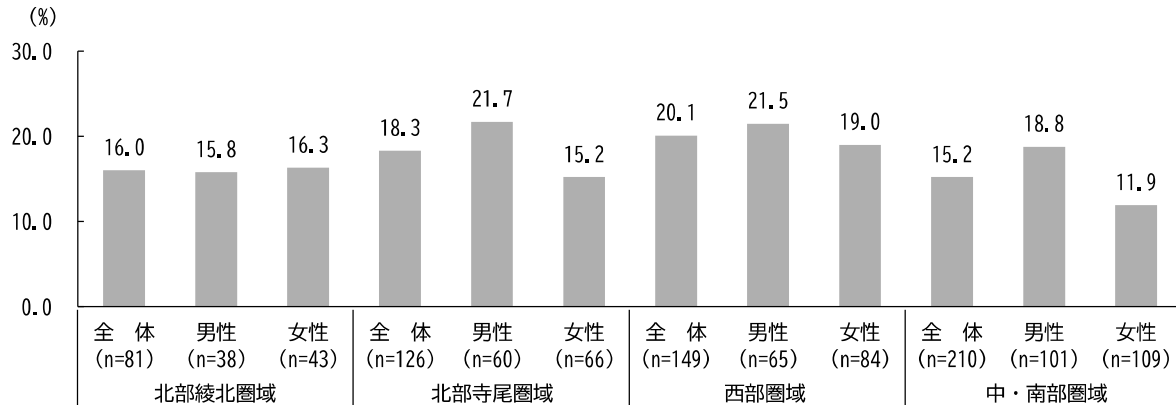


日常生活圏域別にみると、西部圏域が20.1%で最も高くなっています。

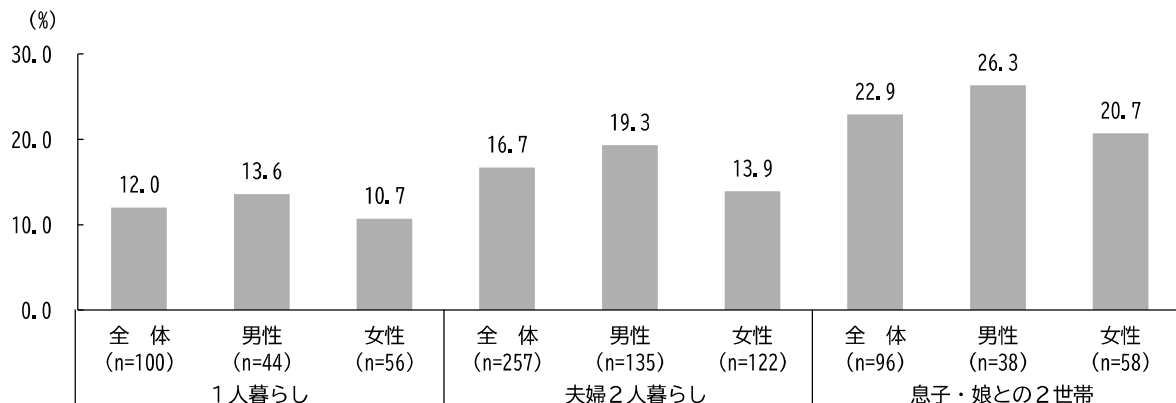
世帯構成別にみると、息子・娘との2世帯が22.9%で最も高くなっています。

認定状況にみると、一般高齢者が17.3%に対して、要支援者では41.7%となっており、24.4ポイント高くなっています。

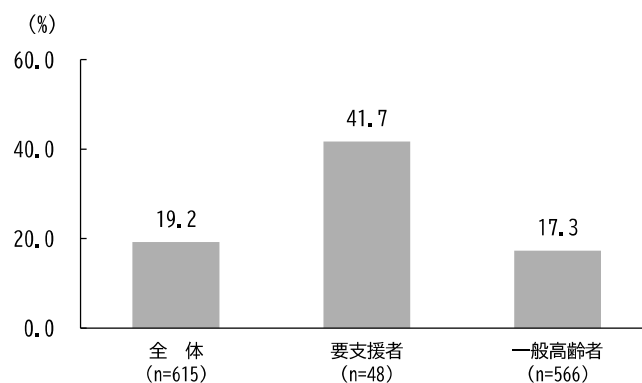
【日常生活圏域別・性別】



【世帯構成別・性別】



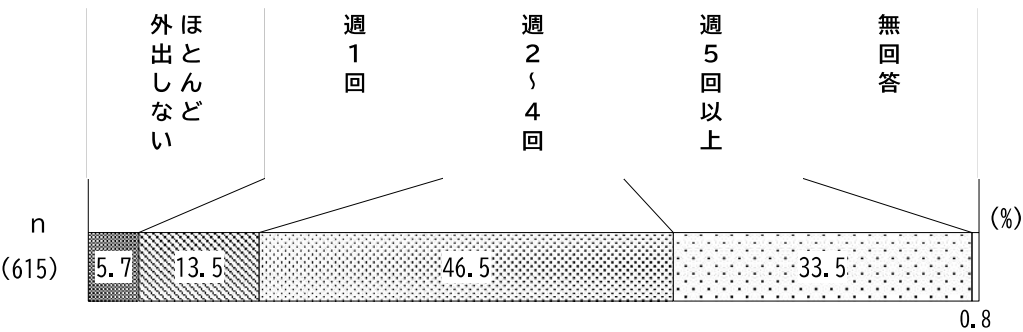
【認定状況別】



(8) 外出頻度

問16 週に1回以上は外出していますか。(○はひとつ)

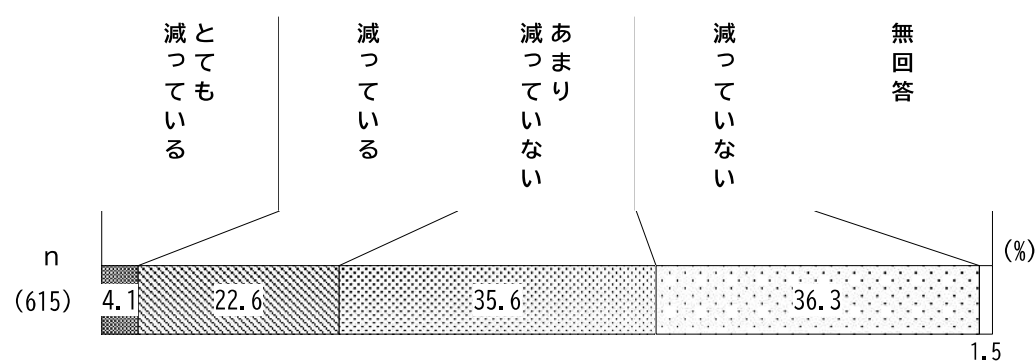
「週2～4回」が46.5%で最も高く、次いで「週5回以上」が33.5%、「週1回」が13.5%となっています。



(9) 外出回数の減少

問17 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(○はひとつ)

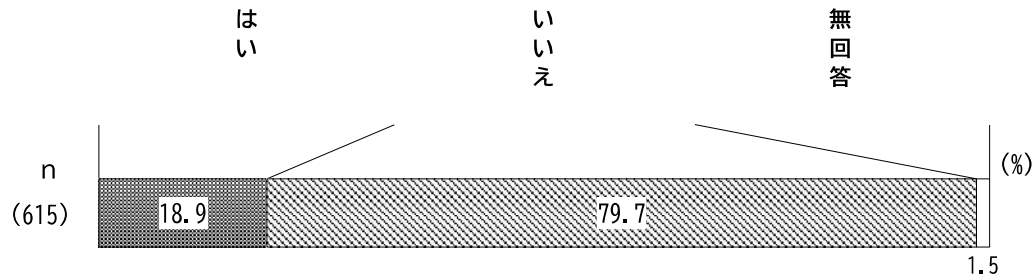
「減っていない」が36.3%で最も高く、次いで「あまり減っていない」が35.6%、「減っている」が22.6%となっています。



(10) 外出控え

問18 外出を控えていますか。(○はひとつ)

「はい」が18.9%、「いいえ」が79.7%となっています。

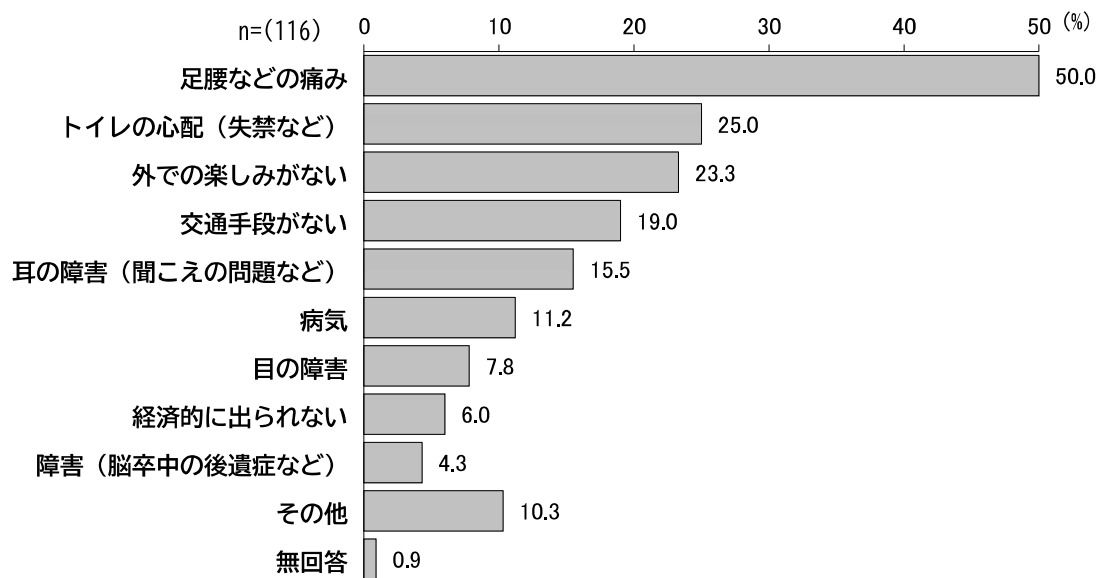


(11) 外出控えの理由

問18で「はい」(外出を控えている)とお答えの方におたずねします

問18-1 外出を控えている理由は、次のどれですか。(いくつでも)

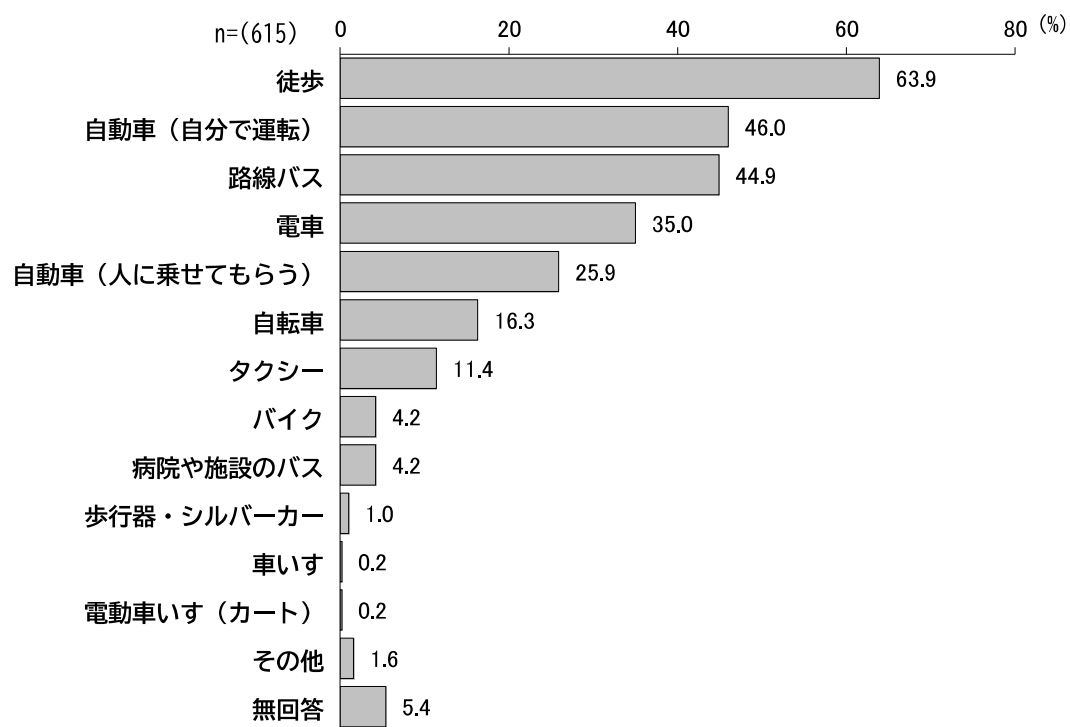
「足腰などの痛み」が50.0%で最も高く、次いで「トイレの心配(失禁など)」が25.0%、「外での楽しみがない」が23.3%、「交通手段がない」が19.0%となっています。



(12) 外出する際の移動手段

問19 外出する際の移動手段は何ですか。(いくつでも)

「徒歩」が63.9%で最も高く、次いで「自動車（自分で運転）」が46.0%、「路線バス」が44.9%、「電車」が35.0%、「自動車（人に乗せてもらう）」が25.9%となっています。



4. 食べること

■低栄養傾向リスク判定

ア 設問と評価

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、2項目のすべてに該当する人を栄養のリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

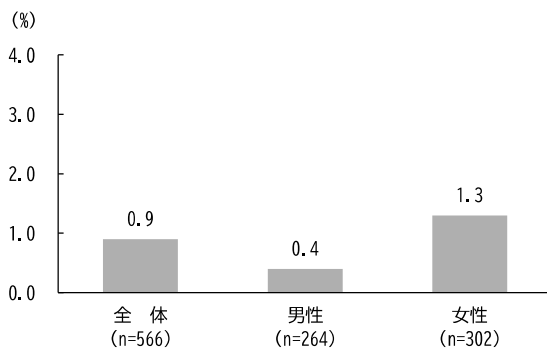
問番号	設問	該当する選択肢
問20	身長・体重をご記入ください。	BMI 18.5未満
問27	6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。	1. はい

イ 評価結果

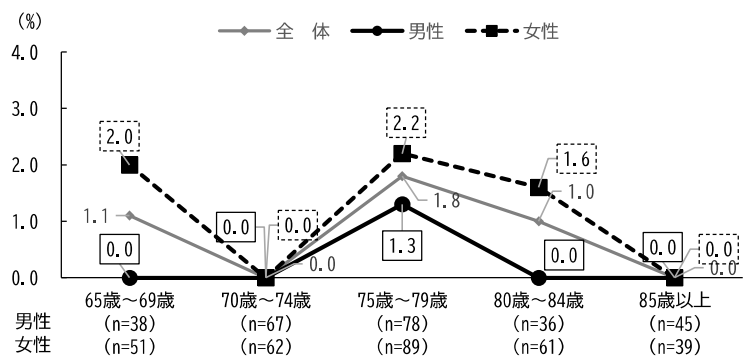
結果をみると、一般高齢者566人のうち、0.9%（男性0.4%、女性1.3%）が該当者となっています。

該当者数が少ないため、傾向把握までは難しいものの参考として掲載します。

【該当者割合】

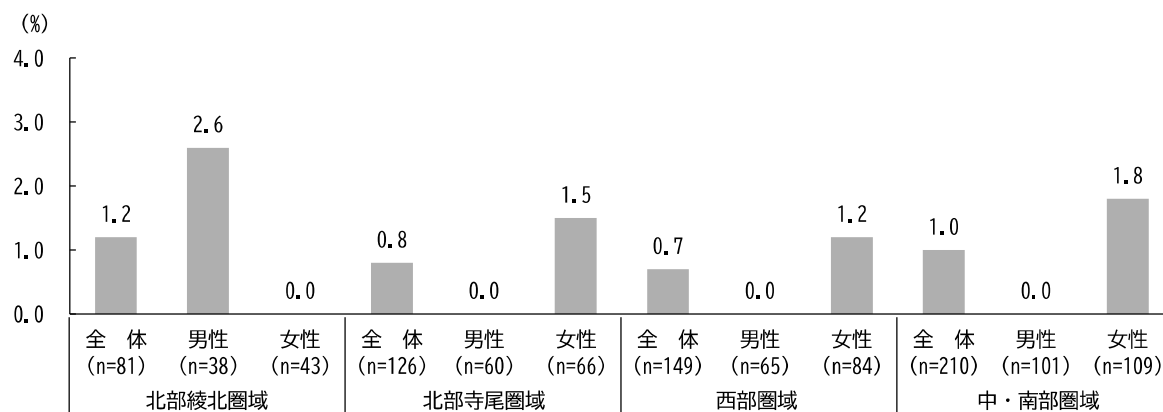


【性別・年齢別】

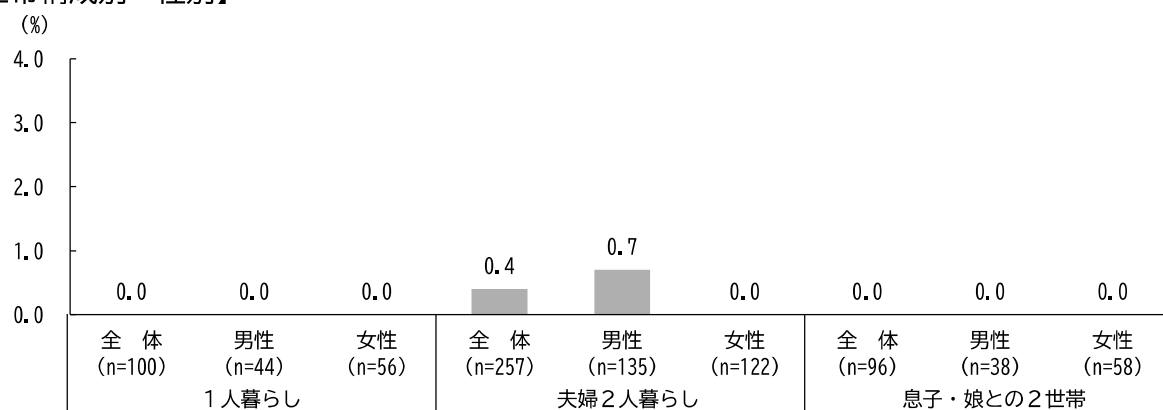


第3章 調査結果の詳細／ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

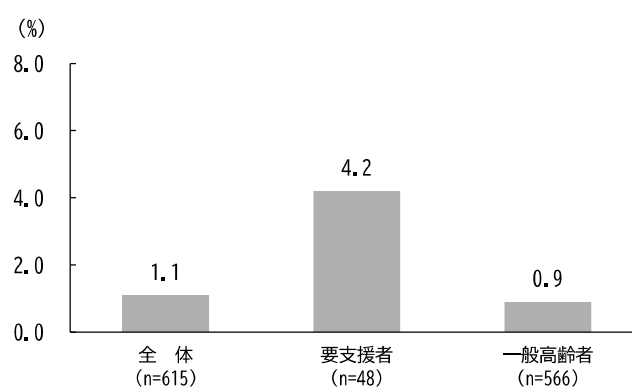
【日常生活圏域別・性別】



【世帯構成別・性別】



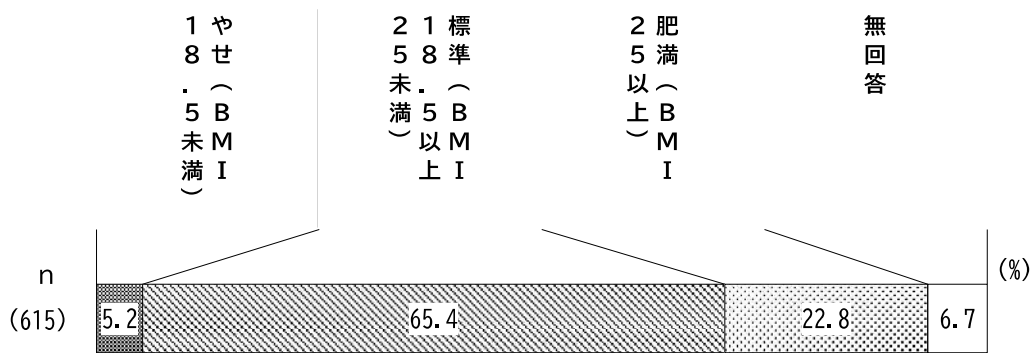
【認定状況別】



(1) BMI

問20 身長・体重

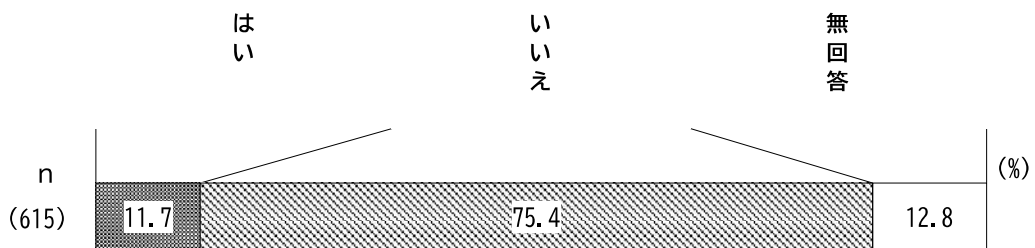
「標準（BMI 18.5以上25未満）」が65.4%で最も高く、次いで「肥満（BMI 25以上）」が22.8%となっています。



(2) 体重減少の有無

問27 6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。(○はひとつ)

「はい」が11.7%、「いいえ」が75.4%となっています。



■口腔機能リスク判定

ア 設問と評価

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、3項目のうち2項目以上に該当する人を口腔のリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問21	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	1. はい
問22	お茶や汁物等でむせることがありますか。	1. はい
問23	口の渇きが気になりますか。	1. はい

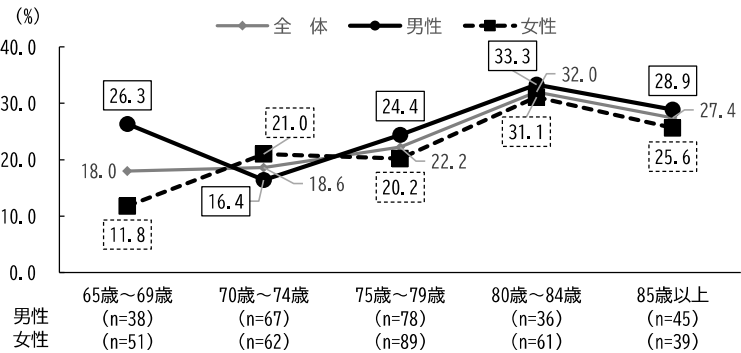
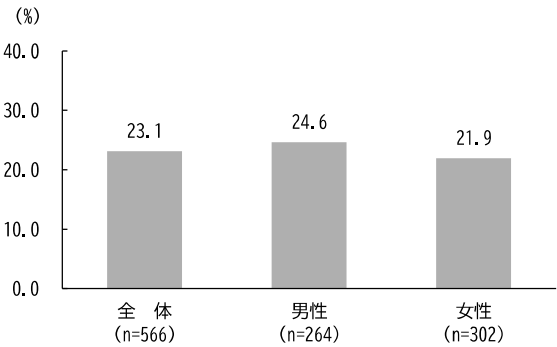
イ 評価結果

結果をみると、一般高齢者566人のうち、23.1%（男性24.6%、女性21.9%）が該当者となっています。

性別・年齢別では、70歳～74歳を除き男性の方が高く、特に65歳～69歳では14.5ポイントの差となっています。

【該当者割合】

【性別・年齢別】

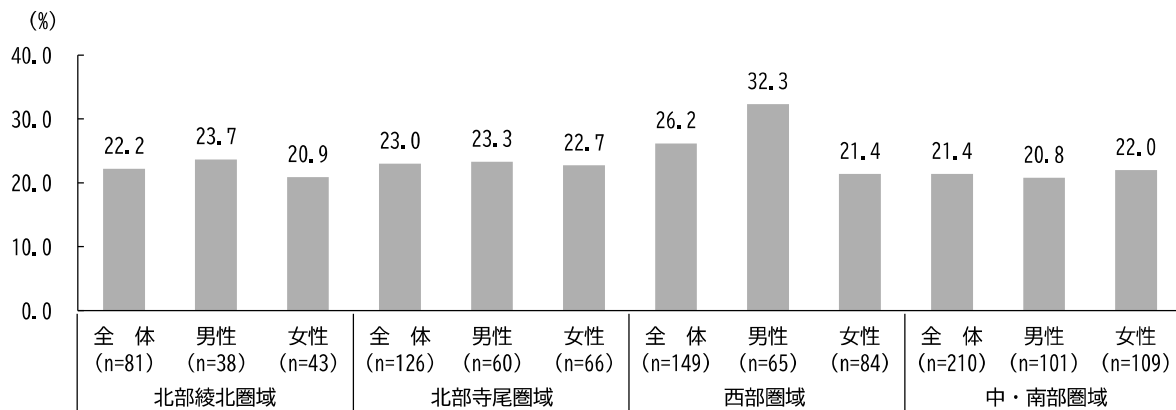


日常生活圏域別にみると、西部圏域が26.2%で最も高くなっています。

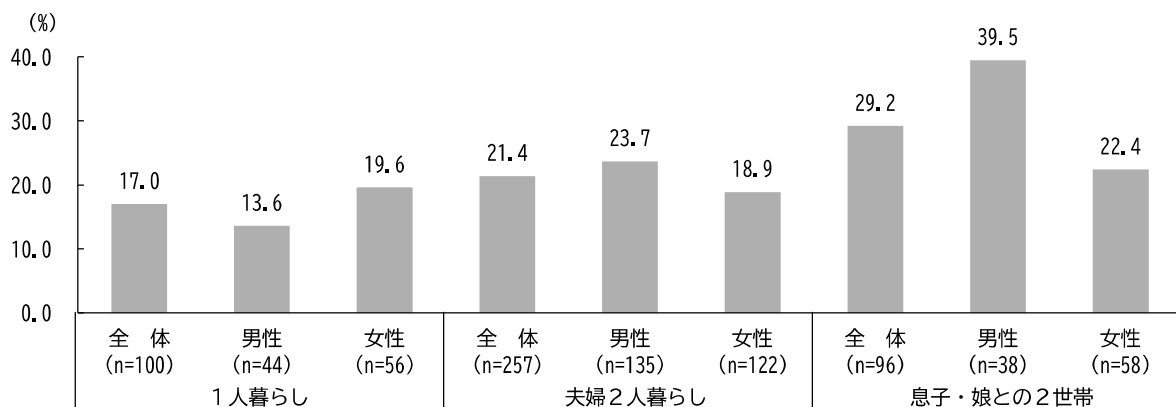
世帯構成別にみると、息子・娘との2世帯が29.2%で最も高くなっています。

認定状況別にみると、一般高齢者が23.1%に対して、要支援者では35.4%となっており、12.3ポイント高くなっています。

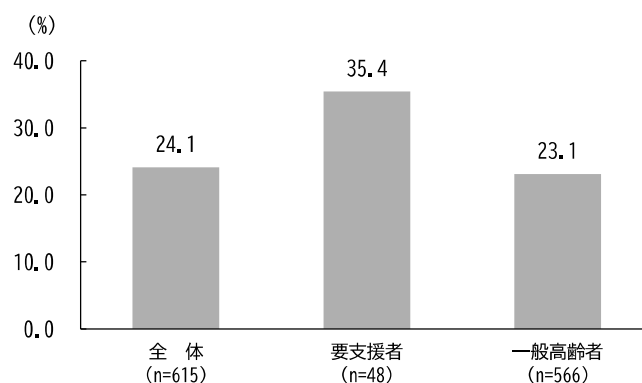
【日常生活圏域別・性別】



【世帯構成別・性別】



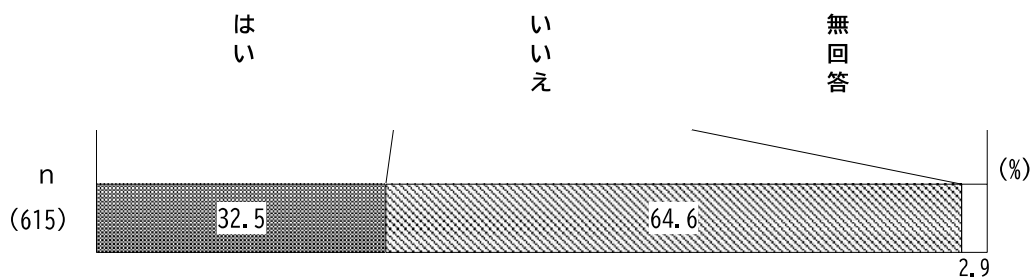
【認定状況別】



(3) 固いものの食べにくさ

問21 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(○はひとつ)

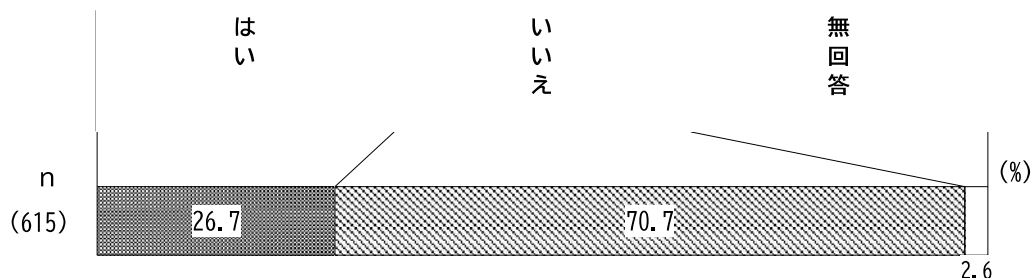
「はい」が32.5%、「いいえ」が64.6%となっています。



(4) むせる経験

問22 お茶や汁物等でむせることがありますか。(○はひとつ)

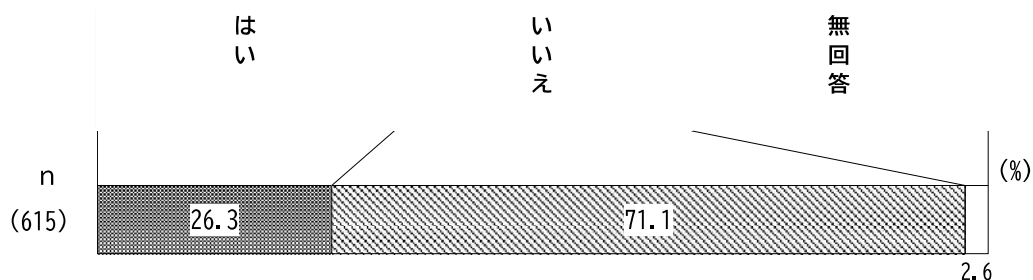
「はい」が26.7%、「いいえ」が70.7%となっています。



(5) 口の渇き

問23 口の渇きが気になりますか。(○はひとつ)

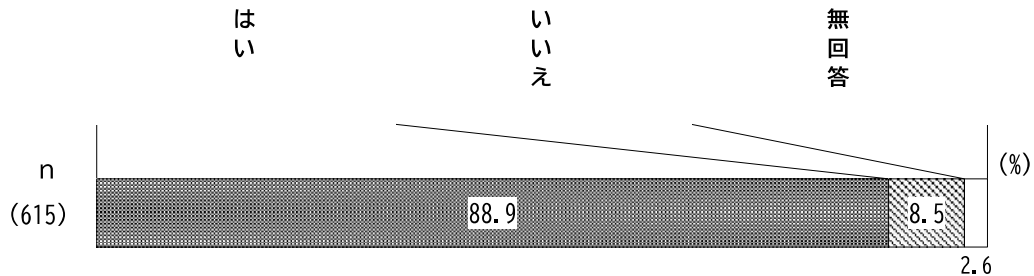
「はい」が26.3%、「いいえ」が71.1%となっています。



(6) 毎日の歯磨き

問24 歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか。（○はひとつ）

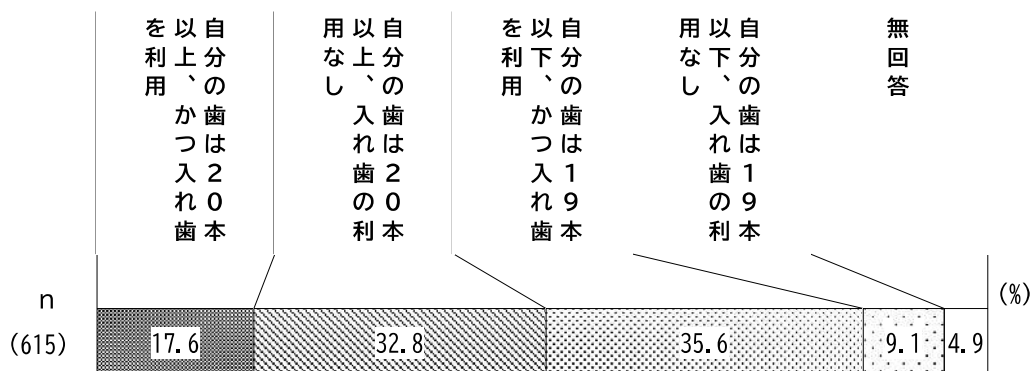
「はい」が88.9%となっています。



(7) 歯の本数・入れ歯の使用状況

問25 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。（成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です）（○はひとつ）

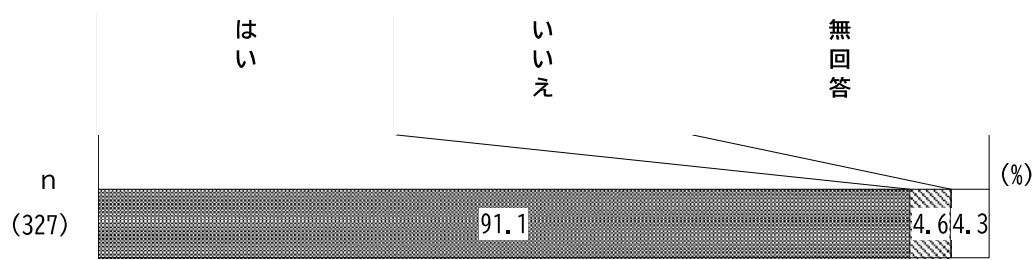
歯の本数・入れ歯の使用状況は、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が35.6%で最も高く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が32.8%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」が17.6%となっています。



(8) 毎日入れ歯の手入れ

問25で「1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」又は「3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」とお答えの方におたずねします
問25-1 毎日入れ歯の手入れをしていますか。(○はひとつ)

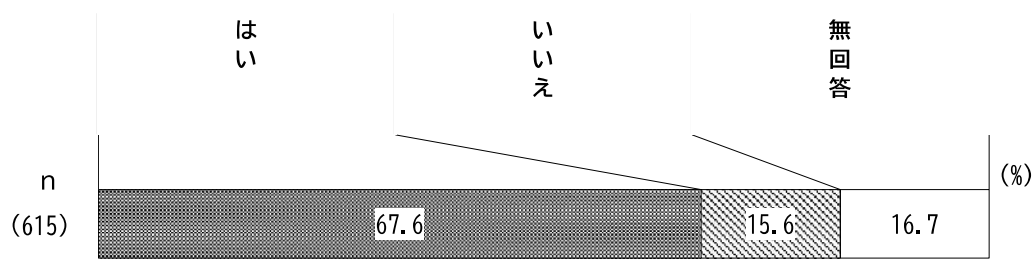
「はい」が91.1%となっています。



(9) 噛み合わせが良い

問26 噛み合わせは良いですか。(○はひとつ)

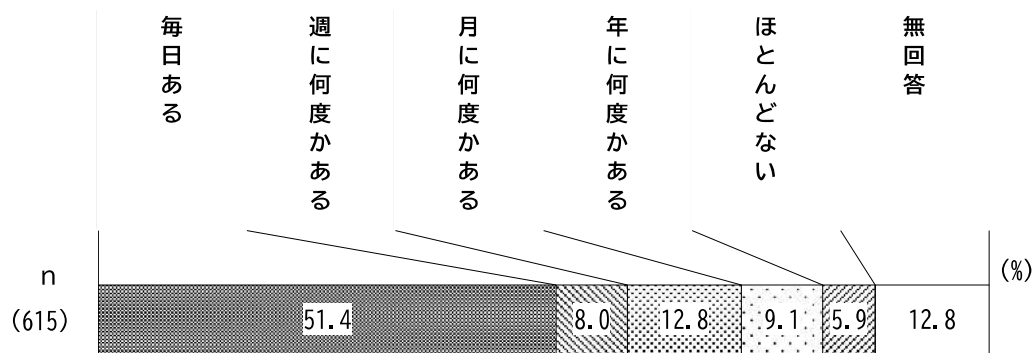
「はい」が67.6%、「いいえ」が15.6%となっています。



(10) 共食の頻度

問28 どなたかと食事をとにもする機会がありますか。(○はひとつ)

「毎日ある」が51.4%で最も高く、次いで「月に何度かある」が12.8%となっています。



5. 毎日の生活

■認知機能低下リスク判定

ア 設問と評価

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を認知機能低下該当者と判定しました。

【判定設問】

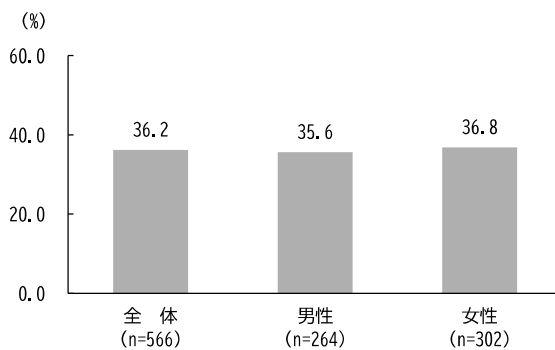
問番号	設問	該当する選択肢
問29	物忘れが多いと感じますか。	1. はい

イ 評価結果

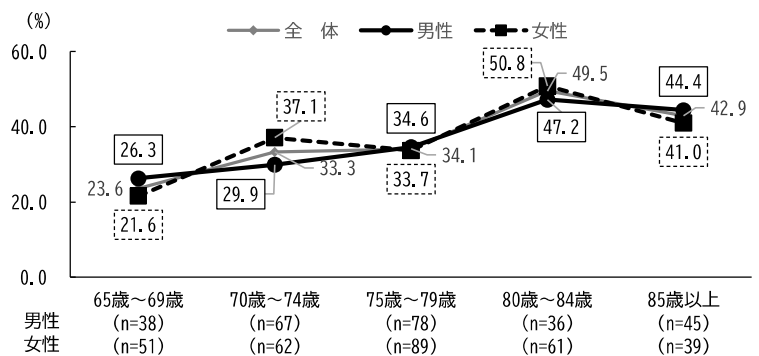
結果をみると、一般高齢者566人のうち、36.2%（男性35.6%、女性36.8%）が該当者となっています。

性別・年齢別にみると、年齢が上がるとともに上昇する傾向にあり、男女ともに80歳～84歳が最も高くなっています。

【該当者割合】



【性別・年齢別】

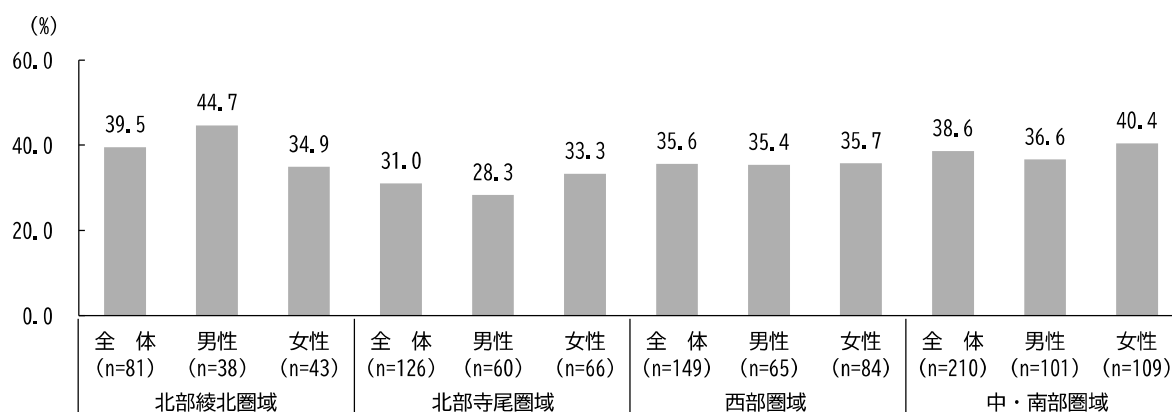


日常生活圏域別にみると、北部綾北圏域が39.5%で最も高くなっています。

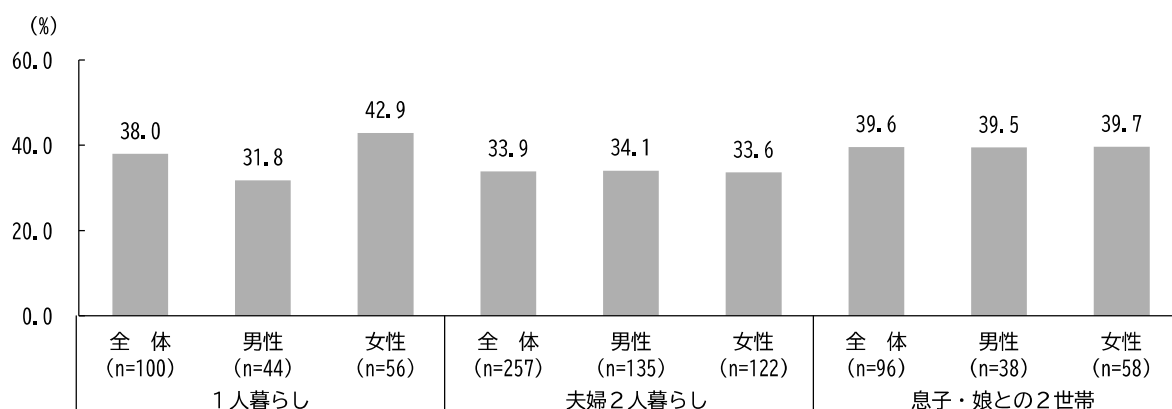
世帯構成別にみると、息子・娘との2世帯が39.6%で最も高くなっています。

認定状況別にみると、一般高齢者が36.2%に対して、要支援者43.8%となっており、7.6ポイント高くなっています。

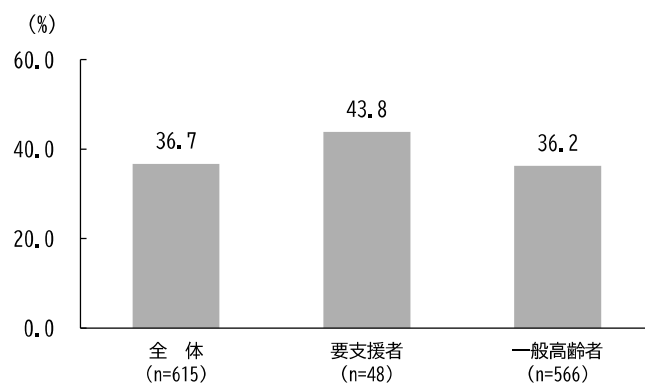
【日常生活圏域別・性別】



【世帯構成別・性別】



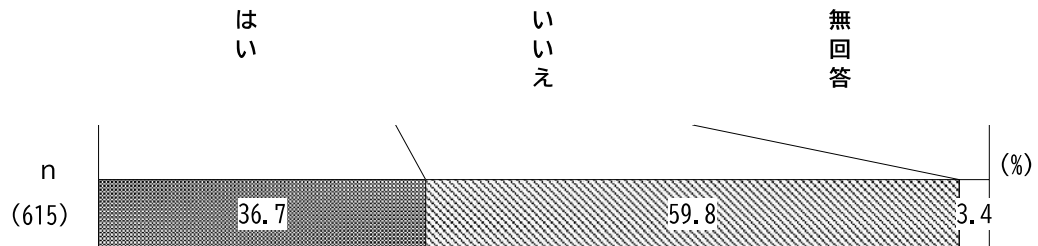
【認定状況】



(1) 物忘れの有無

問29 物忘れが多いと感じますか。(○はひとつ)

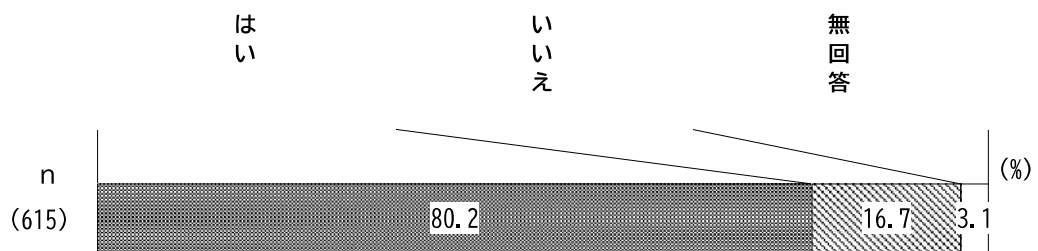
「はい」が36.7%、「いいえ」が59.8%となっています。



(2) 電話使用の有無

問30 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。(○はひとつ)

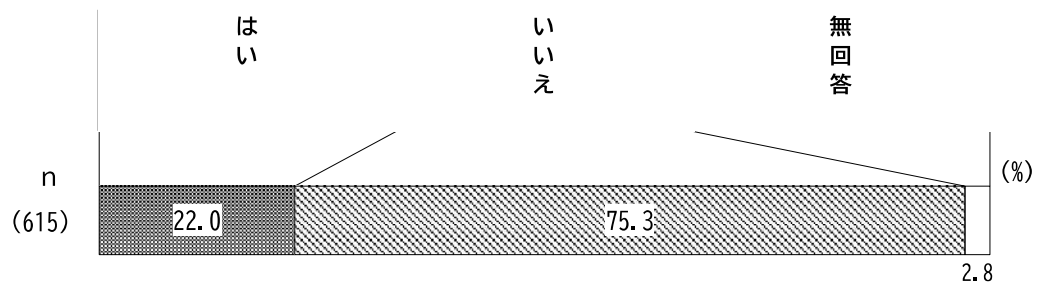
「はい」が80.2%、「いいえ」が16.7%となっています。



(3) 日付がわからない時の有無

問31 今日が何月何日かわからない時がありますか。(○はひとつ)

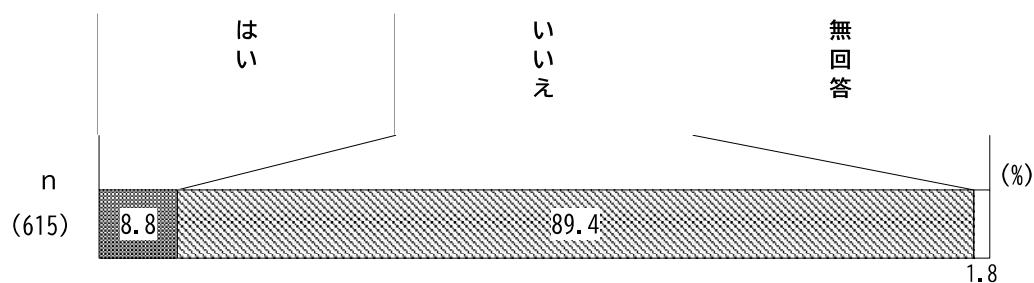
「はい」が22.0%、「いいえ」が75.3%となっています。



(4) 本人または家族に認知症の症状がある

問68 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか。(○はひとつ)

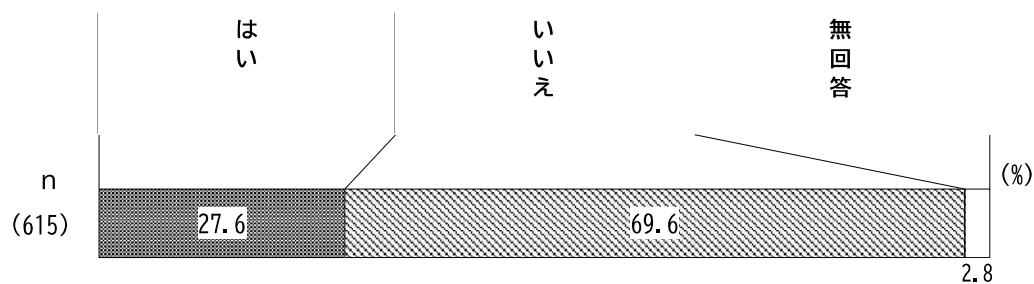
「はい」が8.8%、「いいえ」が89.4%となっています。



(5) 認知症に関する相談窓口の認知度

問69 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(○はひとつ)

「はい」が27.6%、「いいえ」が69.6%となっています。



（６）認知症の人に対する印象

問70 あなたは認知症の人に対して、どのような印象を持っていますか。(○はいくつでも)

「認知症になっても色々なことができる」が38.4%で最も高く、次いで「手助けしたいと思う」が35.1%、「身近に感じる」が31.4%となっています。

〈年齢別、性・年齢別〉

性・年齢別にみると、女性65歳～69歳、75歳～79歳で「認知症になっても色々なことができる」が50%台と高くなっています。一方で、男性65～69歳では「認知症になっても色々なことができる」は25.6%に留まっており、「認知症になると何もわからなくなる」が35.9%と高くなっています。

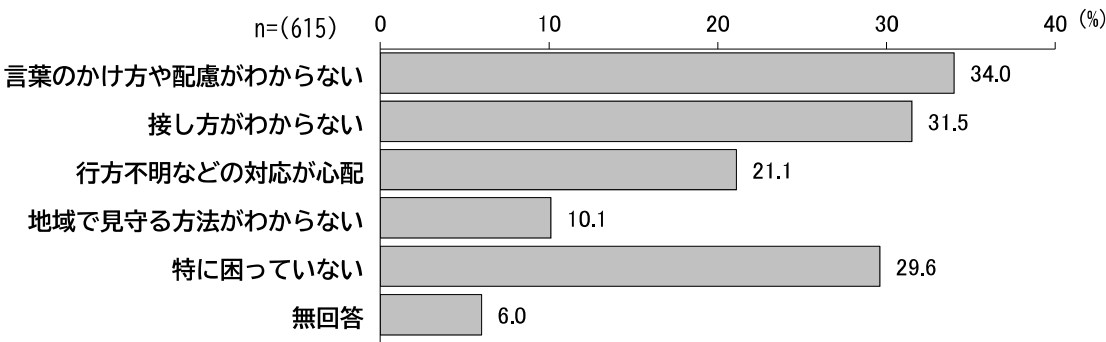
(%)

	n	認知症になっても 色々なことができる	手助けしたいと思う	身近に感じる	理解しにくい	認知症になると何も わからなくなる	距離をとりたい	特に何も感じない	無回答
全 体	615	38.4	35.1	31.4	16.6	15.3	1.8	9.4	5.2
65歳～69歳	91	40.7	33.0	29.7	13.2	24.2	2.2	11.0	-
男性／65歳～69歳	39	25.6	20.5	30.8	20.5	35.9	5.1	10.3	-
女性／65歳～69歳	52	51.9	42.3	28.8	7.7	15.4	-	11.5	-
70歳～74歳	131	39.7	35.9	26.0	16.0	16.8	1.5	8.4	1.5
男性／70歳～74歳	68	36.8	32.4	20.6	22.1	17.6	1.5	8.8	-
女性／70歳～74歳	63	42.9	39.7	31.7	9.5	15.9	1.6	7.9	3.2
75歳～79歳	177	42.4	35.0	36.2	18.1	13.6	1.1	6.8	5.6
男性／75歳～79歳	82	28.0	29.3	34.1	17.1	17.1	2.4	11.0	8.5
女性／75歳～79歳	95	54.7	40.0	37.9	18.9	10.5	-	3.2	3.2
80歳～84歳	109	38.5	41.3	27.5	20.2	11.0	1.8	6.4	5.5
男性／80歳～84歳	40	40.0	45.0	22.5	25.0	12.5	2.5	5.0	2.5
女性／80歳～84歳	69	37.7	39.1	30.4	17.4	10.1	1.4	7.2	7.2
85歳以上	106	27.4	30.2	34.9	14.2	13.2	2.8	17.0	13.2
男性／85歳以上	52	25.0	23.1	32.7	13.5	15.4	1.9	21.2	17.3
女性／85歳以上	54	29.6	37.0	37.0	14.8	11.1	3.7	13.0	9.3

(7) 認知症の人と接する際に困ったこと・心配なこと

問71 認知症の人と接する際に、困ったこと・心配なことはありますか。(〇はいくつでも)

「言葉のかけ方や配慮がわからない」が34.0%で最も高く、次いで「接し方がわからない」が31.5%、「特に困っていない」が29.6%となっています。



(8) 認知症や認知症予防で受けたい支援や取り組み

問72 あなたや家族が「認知症」になった場合や認知症予防に取り組みたいと思った場合に、受けたい支援や取り組みはありますか。(あてはまるものいくつかを〇)

「認知症について相談できる窓口」が56.6%で最も高く、次いで「認知症の方が利用できる介護サービス（入所・通所など）の充実」が54.1%、「認知症の方が受診・入院できる医療機関に関する情報提供」が49.1%、「認知症の正しい知識や介護方法などの情報提供・講座」が42.4%となっています。

〈認知症の症状がある別〉

認知症の症状がある別にみると、「認知症により行方不明となる心配がある場合の早期発見に結びつくサービス」が7.3ポイント、「認知症を理解してくれる人や見守ってくれる地域づくり」が5.6ポイント『はい』で高くなっています。一方「認知症の方が受診・入院できる医療機関に関する情報提供」が13.9ポイント、「認知症について相談できる窓口」が12.2ポイント、「認知症の方が利用できる介護サービス（入所・通所など）の充実」が7.2ポイント『いいえ』で高くなっています。

		(%)										
	n	認知症について相談できる窓口	認知症の介護サービス（入所・通所など）の充実	認知症の方が受診・入院できる医療機関に関する情報提供	認知症の正しい知識や介護方法などの情報提供・講座	認知症の早期発見に結びつくサービス	認知症を理解してくれる人や見守ってくれる地域づくり	認知症の方が利用できる介護サービス（入所・通所など）の充実	当事者（本人や家族）への相談	その他	特にない	無回答
全体	615	56.6	54.1	49.1	42.4	30.9	26.3	22.4	13.8	2.6	10.1	3.4
はい	54	46.3	48.1	37.0	42.6	27.8	33.3	27.8	9.3	9.3	11.1	3.7
いいえ	550	58.5	55.3	50.9	43.3	31.8	26.0	22.2	14.5	2.0	10.2	2.0

■ I A D L 機能判定

ア 設問と評価

高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標には、高齢者の手段的自立度（I A D L）に関する設問が5問あり、「手段的自立度（I A D L）」として尺度化されています。

評価は、各設問に「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を1点として、5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」と評価しています。

また、4点以下を手段的自立度の低下者とし、低下者の割合を示しています。

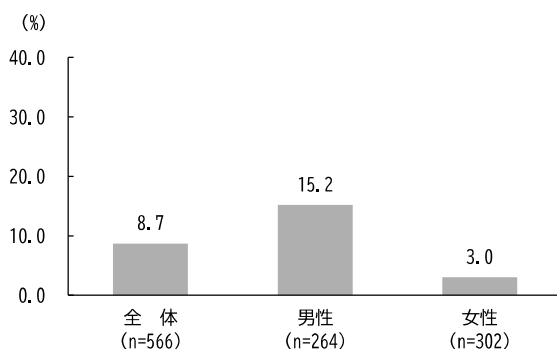
問番号	設問	該当する選択肢
問32	バスや電車を使って1人で外出していますか。	1. できるし、している : 1点 2. できるけどしていない : 1点
問33	自分で食品・日用品の買物をしていますか。	1. できるし、している : 1点 2. できるけどしていない : 1点
問34	自分で食事の用意をしていますか。	1. できるし、している : 1点 2. できるけどしていない : 1点
問35	自分で請求書の支払いをしていますか。	1. できるし、している : 1点 2. できるけどしていない : 1点
問36	自分で預貯金のおし入れをしていますか。	1. できるし、している : 1点 2. できるけどしていない : 1点

イ 評価結果

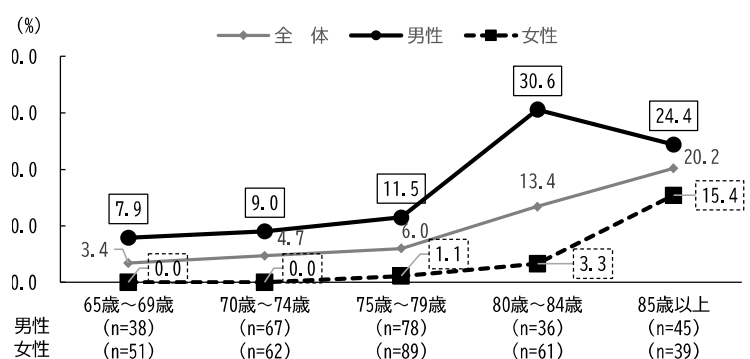
結果をみると、一般高齢者566人のうち、8.7%（男性15.2%、女性3.0%）が該当者となっており、男性の方が高くなっています。

性別・年齢別にみると、男性が女性に比べて全ての年齢で高くなっており、80歳～84歳が30.6%で最も高くなっています。

【該当者割合】



【性別・年齢別】



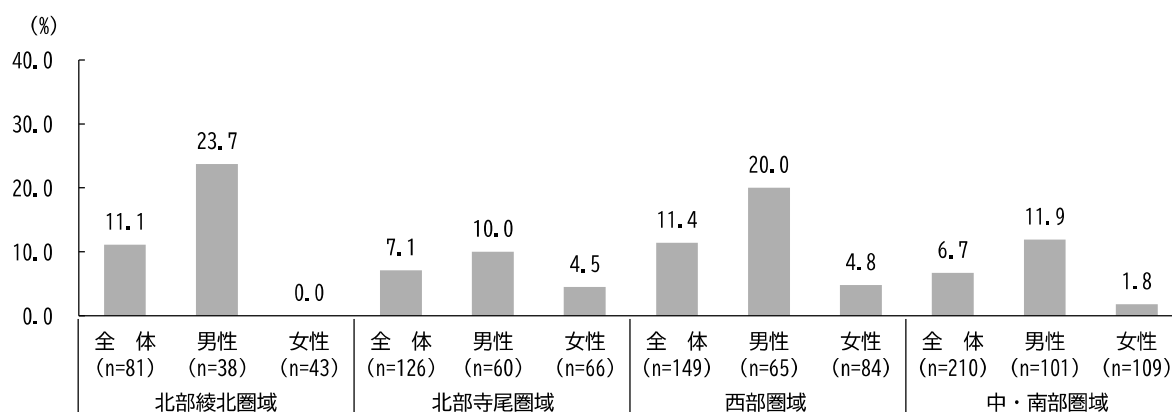
第3章 調査結果の詳細／ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

日常生活圏域別にみると、西部圏域が11.4%で最も高くなっています。

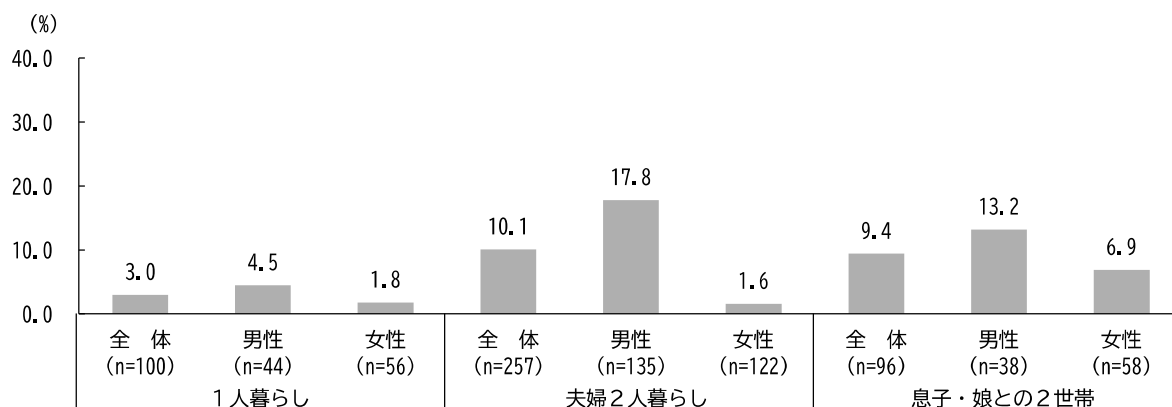
世帯構成別にみると、夫婦2人暮らしが10.1%で最も高くなっています。

認定状況別にみると、一般高齢者が8.7%に対して、要支援者では37.5%となっており、28.8ポイント高くなっています。

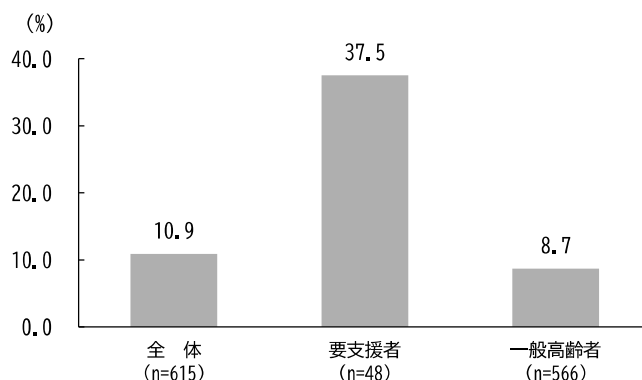
【日常生活圏域別・性別】



【世帯構成別・性別】



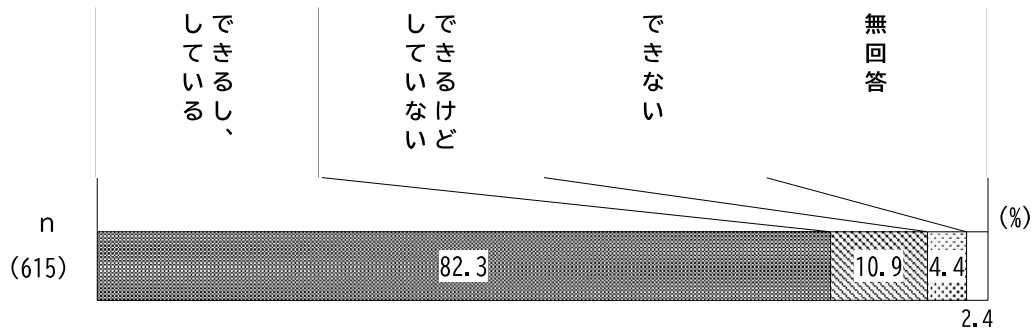
【認定状況別】



(9) 1人で外出

問32 バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）。（○はひとつ）

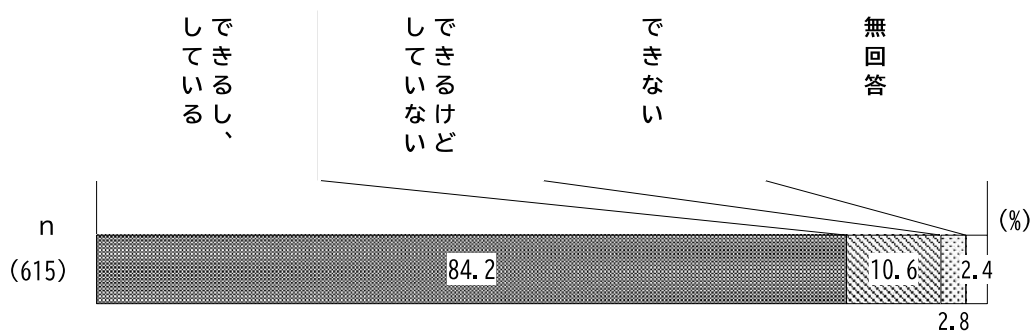
「できるし、している」が82.3%、「できるけどしていない」が10.9%となっています。



(10) 食品・日用品の買物

問33 自分で食品・日用品の買物をしていますか。（○はひとつ）

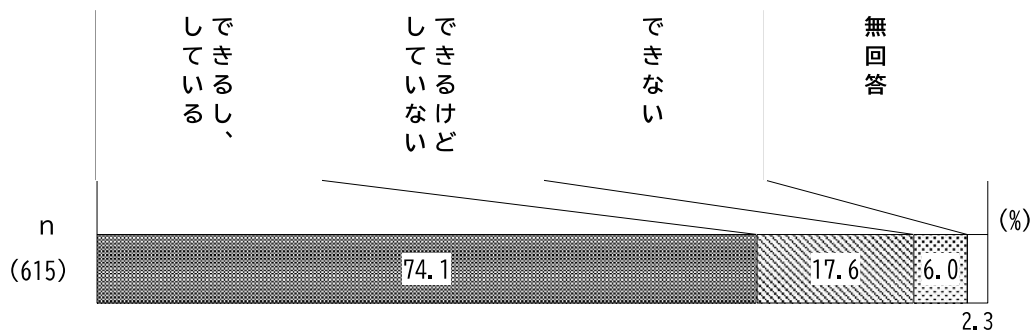
「できるし、している」が84.2%、「できるけどしていない」が10.6%となっています。



(1 1) 食事の用意

問34 自分で食事の用意をしていますか。(○はひとつ)

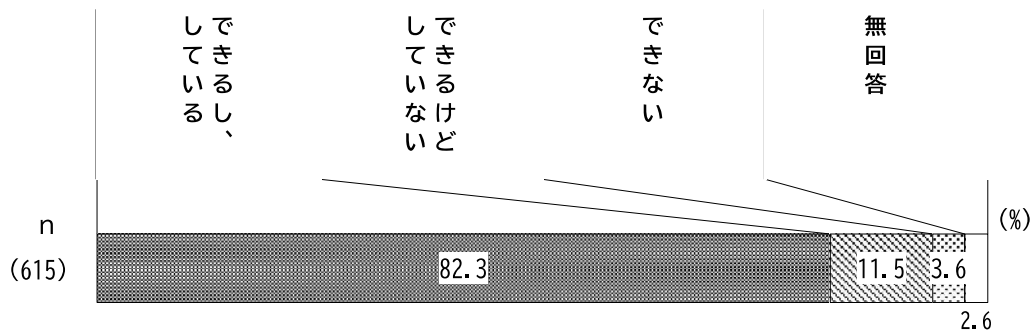
「できるし、している」が74.1%、「できるけどしていない」が17.6%となっています。



(1 2) 請求書の支払い

問35 自分で請求書の支払いをしていますか。(○はひとつ)

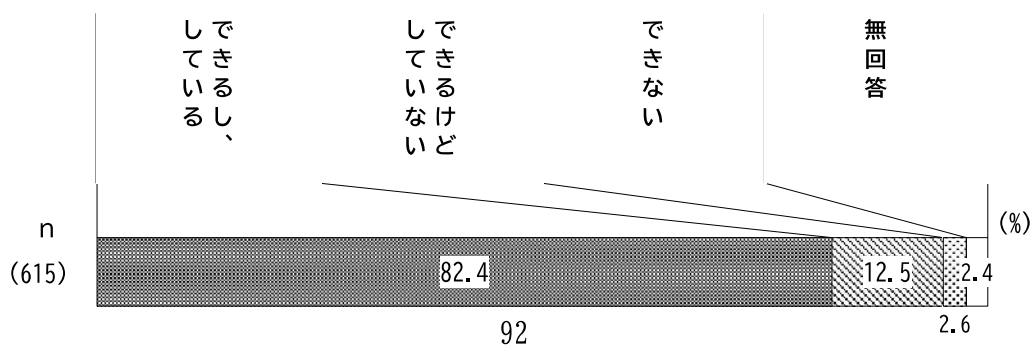
「できるし、している」が82.3%、「できるけどしていない」が11.5%となっています。



(1 3) 預貯金のおし入れ

問36 自分で預貯金のおし入れをしていますか。(○はひとつ)

「できるし、している」が82.4%、「できるけどしていない」が12.5%となっています。



■知的能動性判定

ア 設問と評価

老研式活動能力指標には、高齢者の知的活動に関する設問が4問あり、「知的能動性」として尺度化されています。

評価は、各設問に「はい」と回答した場合を1点として、4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価しています。

また、3点以下を知的能動性の低下者とし、低下者の割合を示しています。

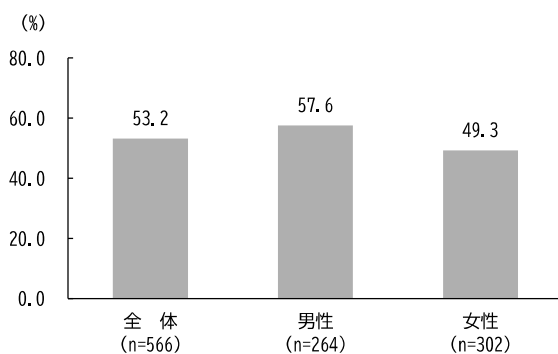
問番号	設問	該当する選択肢
問37	年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか。	1. はい：1点
問38	新聞を読んでいますか。	1. はい：1点
問39	本や雑誌を読んでいますか。	1. はい：1点
問40	健康についての記事や番組に関心がありますか。	1. はい：1点

イ 評価結果

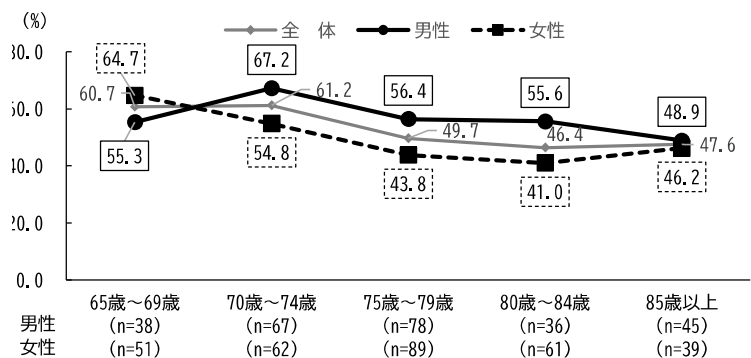
結果をみると、一般高齢者566人のうち、53.2%（男性57.6%、女性49.3%）が該当者となっており、男性の方が高くなっています。

性別・年齢別にみると、男性は70歳～74歳以上の全ての年齢で女性を上回っています。女性では、65歳～69歳で64.7%と最も高くなっています。

【該当者割合】



【性別・年齢別】

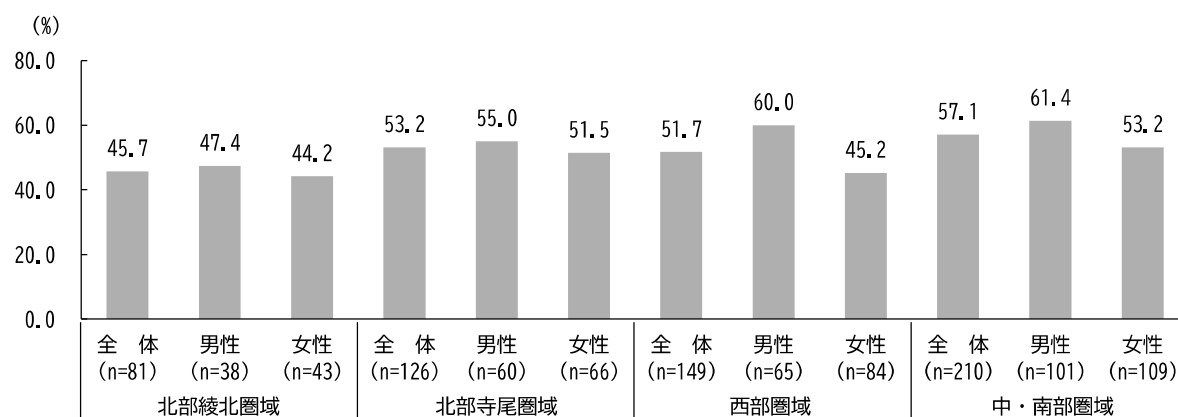


日常生活圏域別にみると、中・南部圏域が57.1%で最も高くなっています。

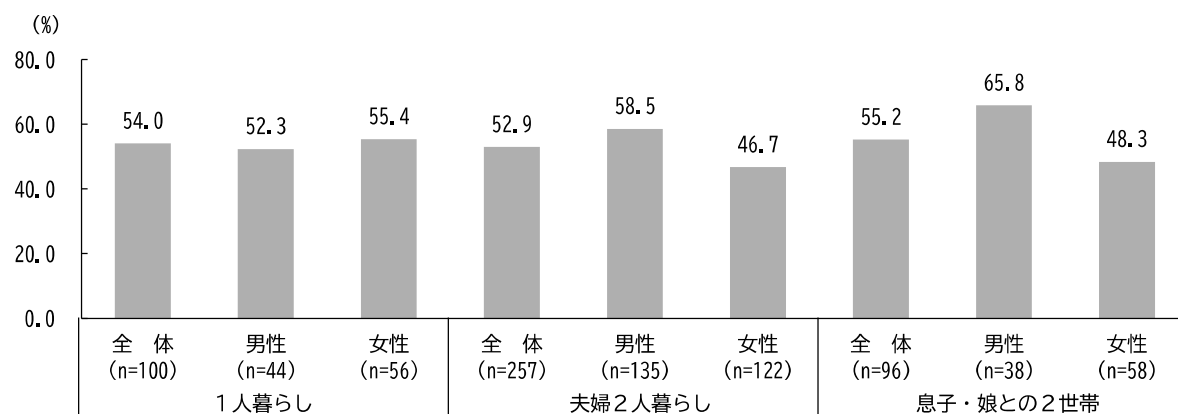
世帯構成別にみると、息子・娘との2世帯が55.2%で最も高くなっています。

認定状況別にみると、一般高齢者が53.2%に対して、要支援者では58.3%となっており、5.1ポイント高くなっています。

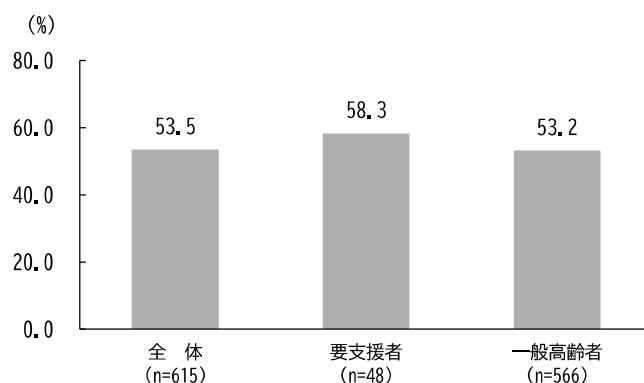
【日常生活圏域別・性別】



【世帯構成別・性別】



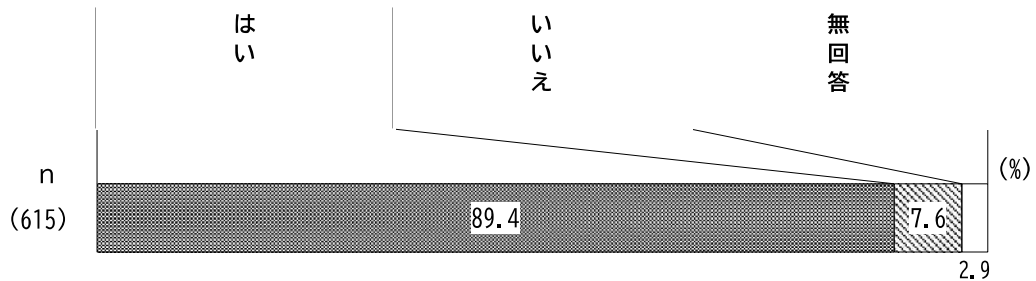
【認定状況別】



(14) 書類の記入

問37 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか。（○はひとつ）

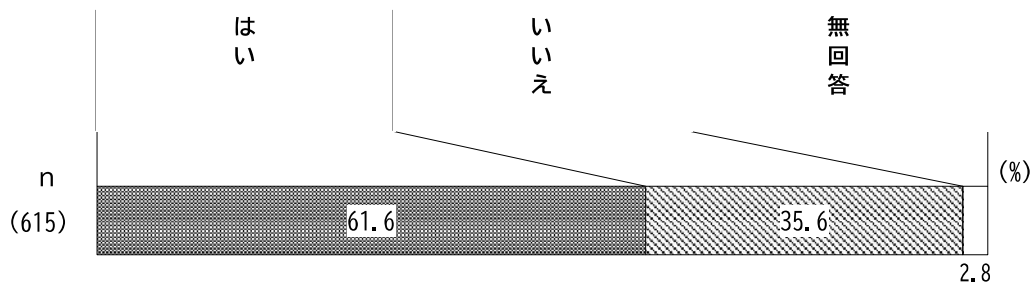
「はい」が89.4%となっています。



(15) 新聞を読む

問38 新聞を読んでいますか。（○はひとつ）

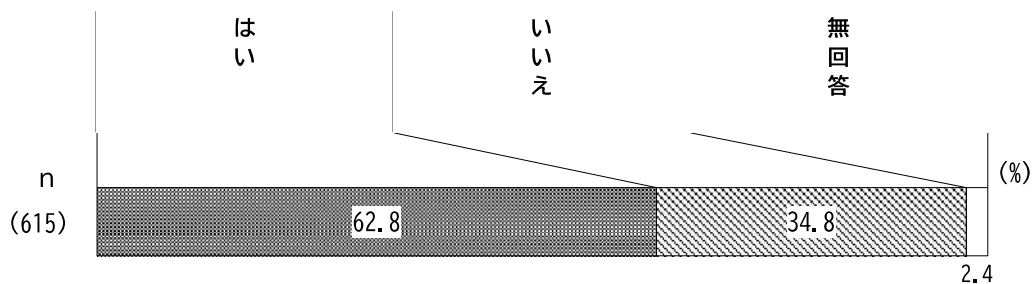
「はい」が61.6%、「いいえ」が35.6%となっています。



(16) 本・雑誌を読む

問39 本や雑誌を読んでいますか。（○はひとつ）

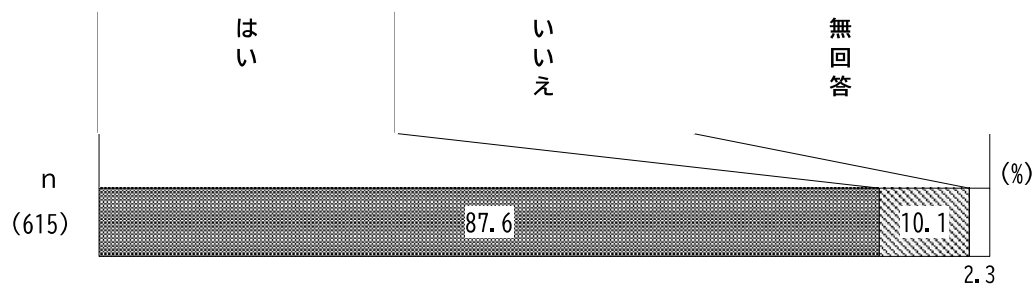
「はい」が62.8%、「いいえ」が34.8%となっています。



(17) 健康記事や番組への関心

問40 健康についての記事や番組に関心がありますか。(○はひとつ)

「はい」が87.6%、「いいえ」が10.1%となっています。



■社会的役割判定

ア 設問と評価

老研式活動能力指標には、高齢者の社会活動に関する設問が4問あり、「社会的役割」として尺度化されています。

評価は、知的能動性と同様に4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価しています。

また、3点以下を社会的役割の低下者とし、低下者の割合を示しています。

【判定設問】

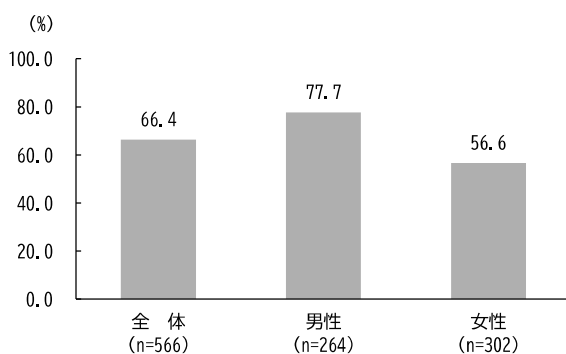
問番号	設問	該当する選択肢
問41	友人の家を訪ねていますか。	1. はい：1点
問42	家族や友人の相談にのっていますか。	1. はい：1点
問43	病人を見舞うことができますか。	1. はい：1点
問44	若い人に自分から話しかけることがありますか。	1. はい：1点

イ 評価結果

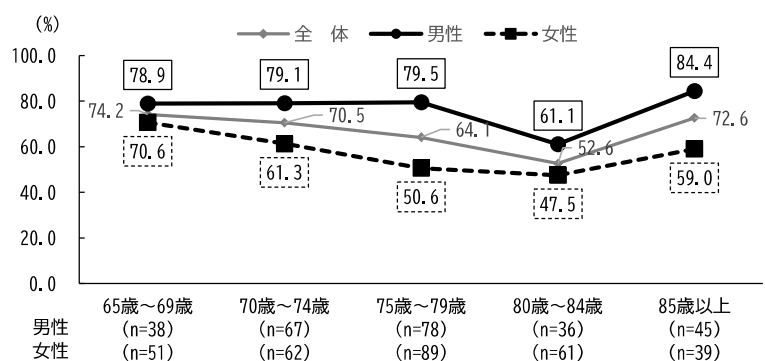
結果をみると、一般高齢者566人のうち、66.4%（男性77.7%、女性56.6%）が該当者となっており、男性の方が高くなっています。

性別・年齢別にみると、男性がすべての年代で全体を上回っており、80歳～84歳で61.1%と一旦低下するものの、85歳以上で84.4%と上昇に転じています。また、女性は80歳～84歳の47.5%まで減少し、男性同様、85歳以上で59.0%と上昇に転じています。

【該当者割合】



【性別・年齢別】

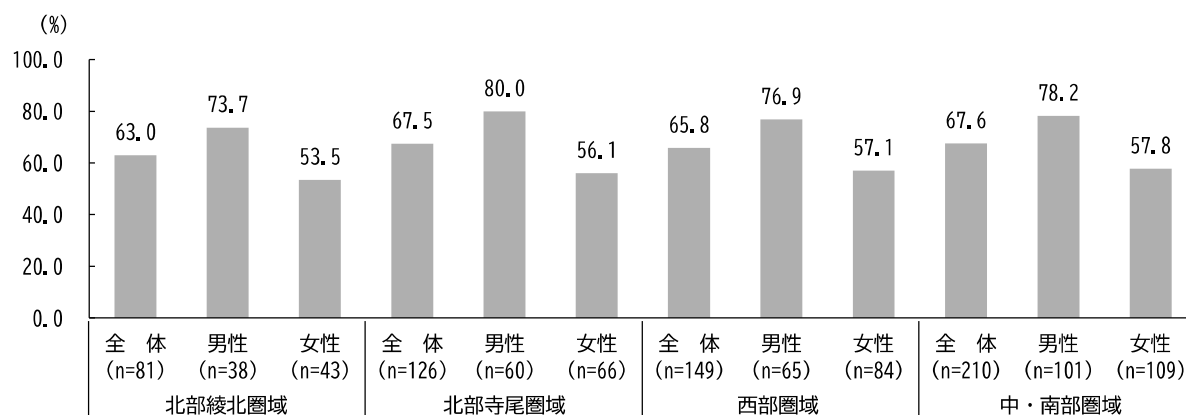


日常生活圏域別にみると、中・南部圏域が67.6%で最も高くなっています。

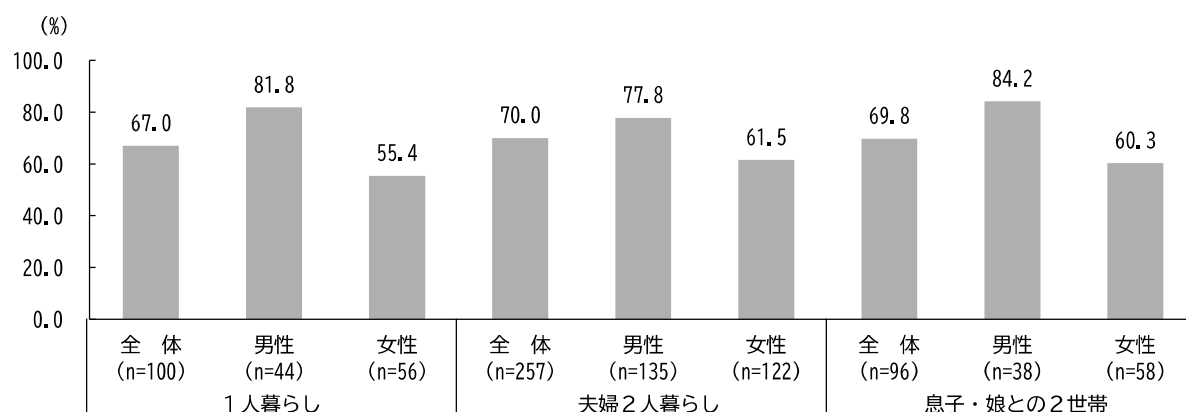
世帯構成別にみると、夫婦2人暮らしが70.0%で最も高くなっています。

認定状況にみると、一般高齢者が66.4%に対して、要支援者では85.4%となっており、19.0ポイント高くなっています。

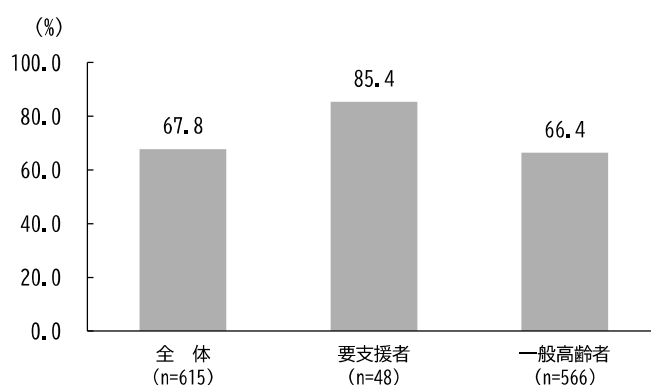
【日常生活圏域別・性別】



【世帯構成別・性別】



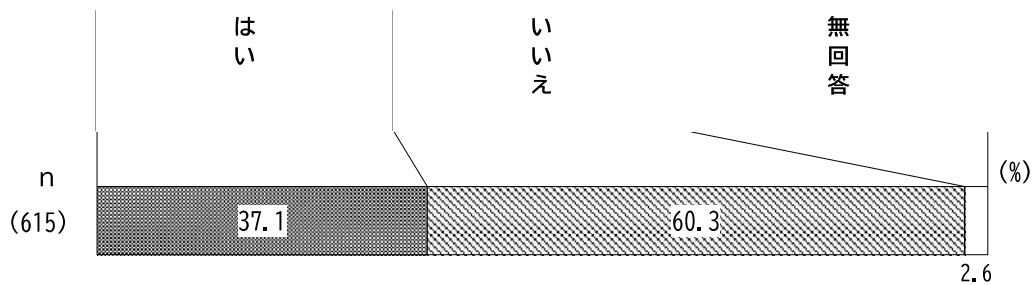
【認定状況別】



(18) 友人宅訪問

問41 友人の家を訪ねていますか。(○はひとつ)

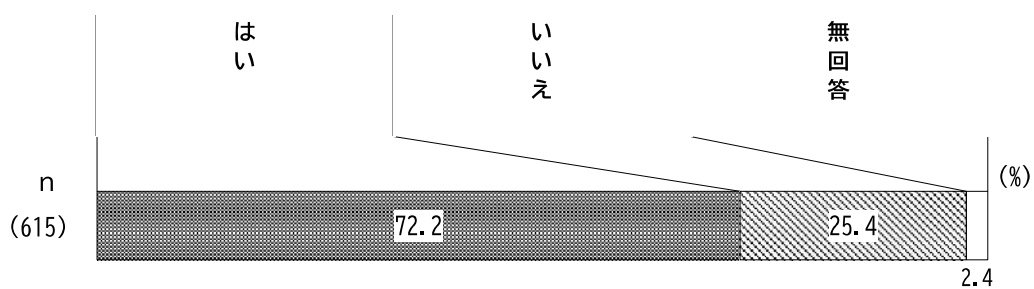
「はい」が37.1%、「いいえ」が60.3%となっています。



(19) 家族や友人からの相談受け

問42 家族や友人の相談にのっていますか。(○はひとつ)

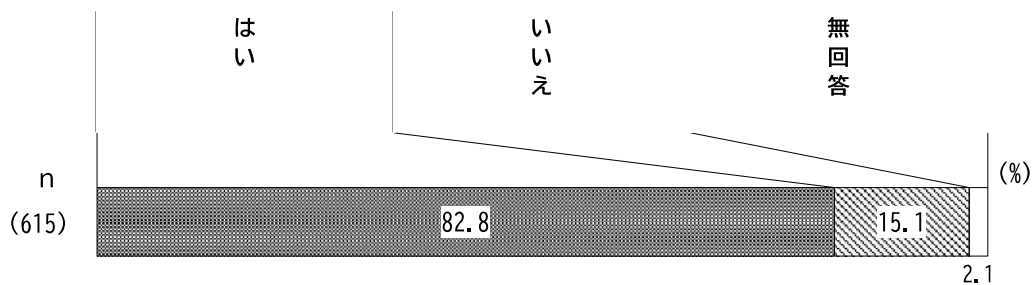
「はい」が72.2%、「いいえ」が25.4%となっています。



(20) 病人への見舞い

問43 病人を見舞うことができますか。(○はひとつ)

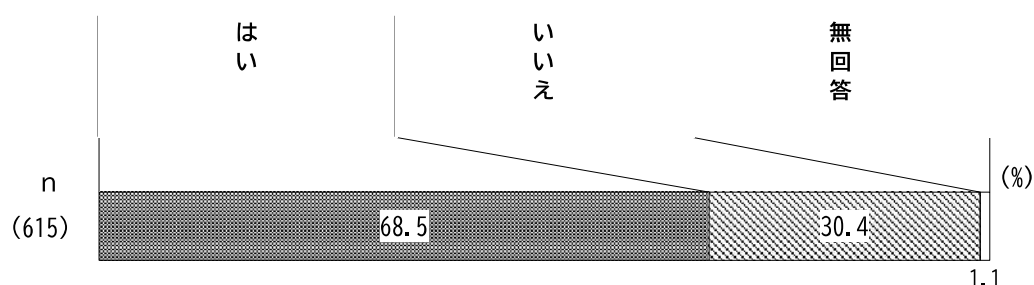
「はい」が82.8%、「いいえ」が15.1%となっています。



(21) 若い人への話しかけ

問44 若い人に自分から話しかけることがありますか。(○はひとつ)

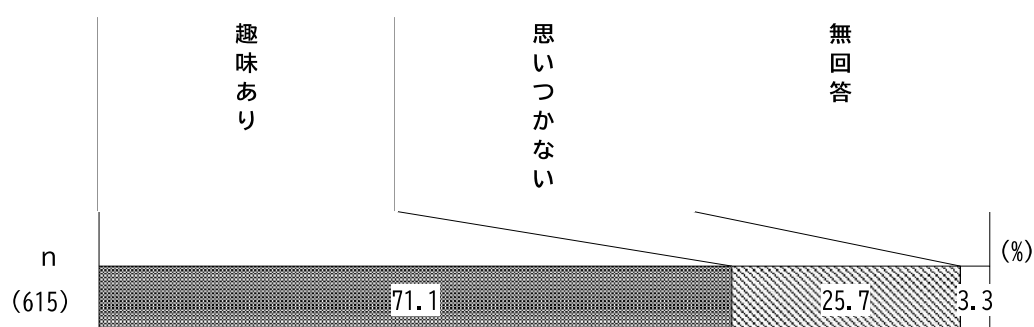
「はい」が68.5%、「いいえ」が30.4%となっています。



(22) 趣味の有無

問45 趣味はありますか。(○はひとつ)

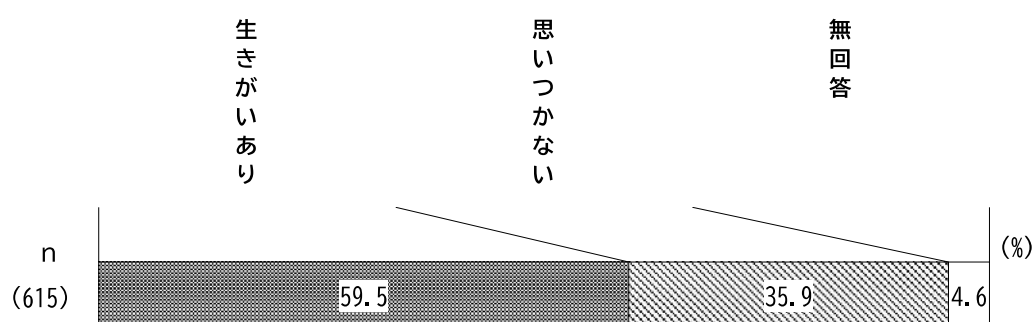
「趣味あり」が71.1%、「思いつかない」が25.7%となっています。



(23) 生きがいの有無

問46 生きがいはありますか。(○はひとつ)

「生きがいあり」が59.5%、「思いつかない」が35.9%となっています。



(24) 終末期および死後の手続き等で不安なこと

問67 終末期および死後の手続き等で不安なことはありますか。(〇はいくつでも)

「遺品整理」が24.2%で最も高く、次いで「銀行口座等の解約」が20.0%、「相続に関すること」が18.5%、「お墓に関すること」が17.6%となっています。

〈年齢別、性・年齢別〉

性・年齢別にみると、男性の65歳～79歳、女性の65歳～74歳で「遺品整理」が3割前後、男性の75歳～84歳、女性の65歳～69歳で「相続に関すること」が2割台半ばと高くなっています。また、男性の70歳～74歳は「葬儀に関すること」、80歳～84歳は「死後の役所への届け出」「葬儀に関すること」が、それぞれ2割台半ばと高くなっています。

一方、「特にない」は女性75歳～79歳、85歳以上で5割を超えています。

(%)

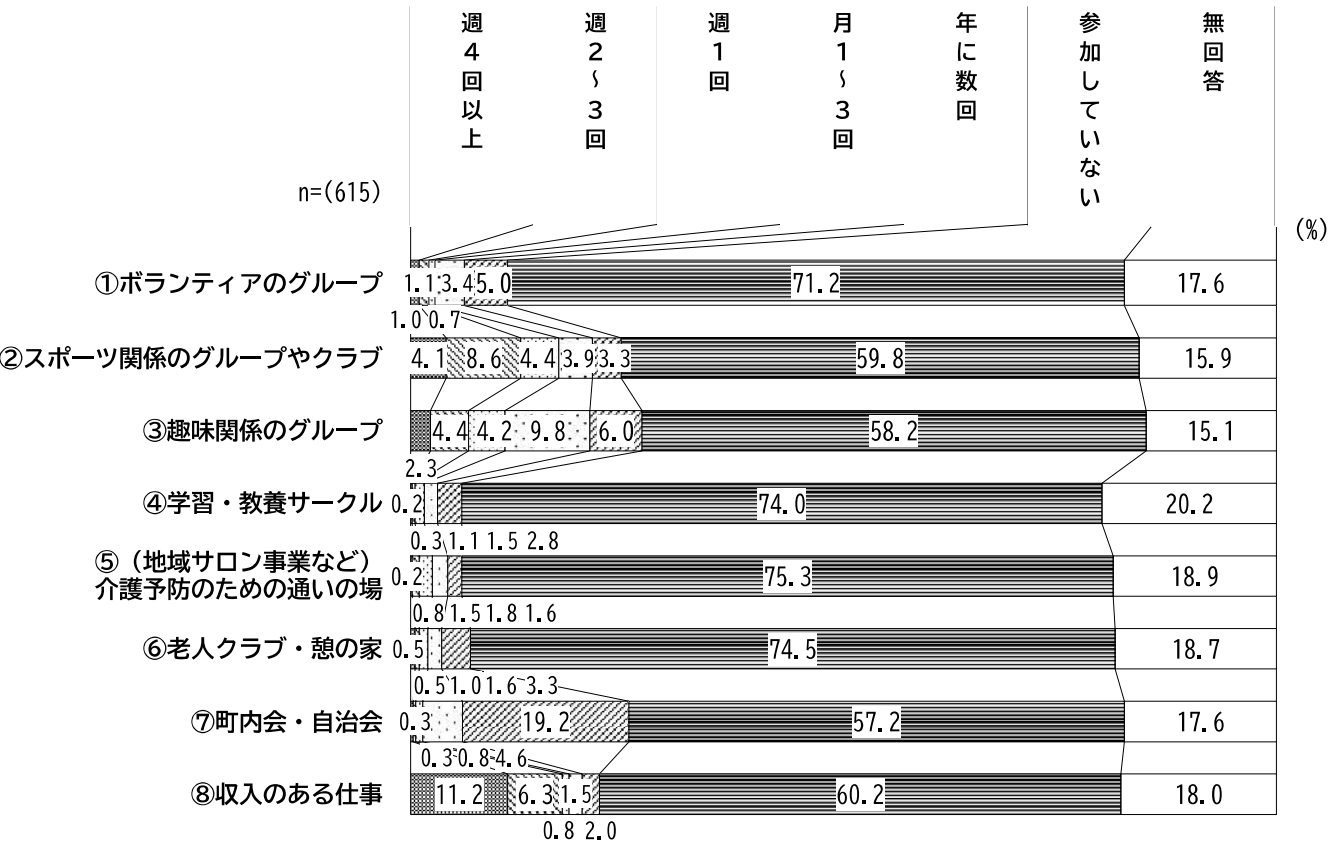
	n	遺品整理	銀行口座等の解約	相続に関すること	お墓に関すること	所有する不動産に関すること	死後の役所への届け出	葬儀に関すること	その他	特にない	無回答
全 体	615	24.2	20.0	18.5	17.6	16.4	16.4	16.3	2.4	42.0	5.5
65歳～69歳	91	29.7	22.0	23.1	20.9	17.6	13.2	13.2	1.1	37.4	1.1
男性／65歳～69歳	39	30.8	25.6	17.9	17.9	15.4	15.4	17.9	-	41.0	2.6
女性／65歳～69歳	52	28.8	19.2	26.9	23.1	19.2	11.5	9.6	1.9	34.6	-
70歳～74歳	131	29.8	22.1	16.8	22.9	16.8	20.6	22.9	2.3	39.7	2.3
男性／70歳～74歳	68	27.9	23.5	17.6	23.5	19.1	20.6	25.0	4.4	38.2	1.5
女性／70歳～74歳	63	31.7	20.6	15.9	22.2	14.3	20.6	20.6	-	41.3	3.2
75歳～79歳	177	23.7	22.6	19.8	18.6	19.2	15.8	16.9	1.1	43.5	5.6
男性／75歳～79歳	82	28.0	22.0	26.8	20.7	20.7	18.3	20.7	-	35.4	4.9
女性／75歳～79歳	95	20.0	23.2	13.7	16.8	17.9	13.7	13.7	2.1	50.5	6.3
80歳～84歳	109	21.1	15.6	19.3	15.6	15.6	20.2	18.3	3.7	43.1	6.4
男性／80歳～84歳	40	20.0	17.5	25.0	12.5	15.0	25.0	25.0	-	47.5	2.5
女性／80歳～84歳	69	21.7	14.5	15.9	17.4	15.9	17.4	14.5	5.8	40.6	8.7
85歳以上	106	17.0	16.0	14.2	8.5	11.3	11.3	7.5	4.7	44.3	12.3
男性／85歳以上	52	21.2	13.5	13.5	9.6	15.4	15.4	9.6	7.7	36.5	13.5
女性／85歳以上	54	13.0	18.5	14.8	7.4	7.4	7.4	5.6	1.9	51.9	11.1

6. 地域での活動

(1) 会・グループ等の参加頻度

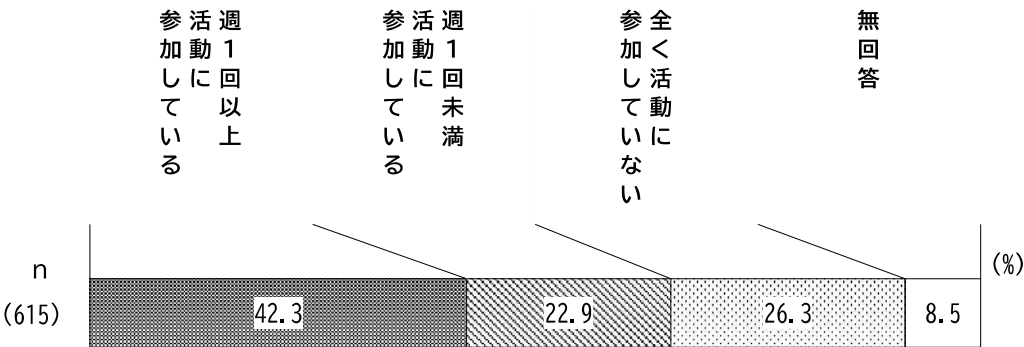
問47 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。※①ー⑧それぞれに回答してください。(〇はひとつ)

③趣味関係のグループ、⑦町内会・自治会、②スポーツ関係のグループやクラブ、⑧収入のある仕事に「年に数回」以上参加がそれぞれ2割台となっています。



〈活動の参加頻度〉

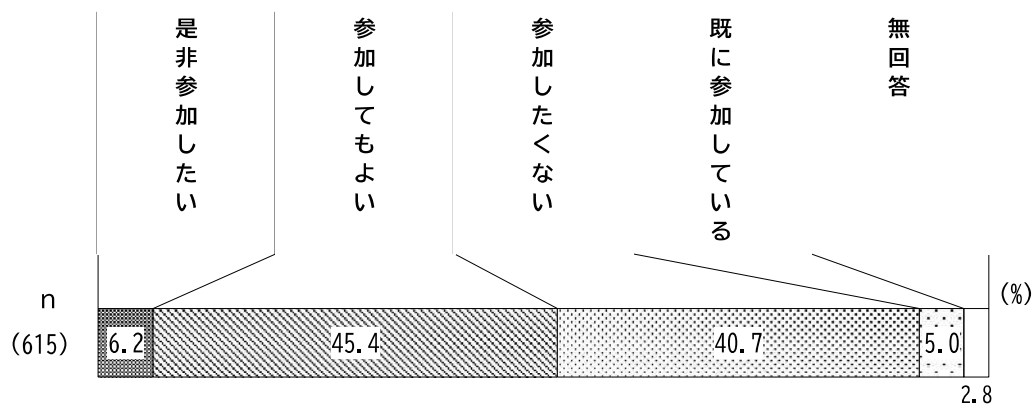
上記8項目の中で、何らかの活動に参加、かつその頻度を集計したところ、「週1回以上活動に参加している」が42.3%で最も高く、次いで「全く活動に参加していない」が26.3%、「週1回未満活動に参加している」が22.9%となっています。



(2) 地域での健康づくり活動や趣味等のグループ活動・参加者としての参加意向

問48 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(○はひとつ)

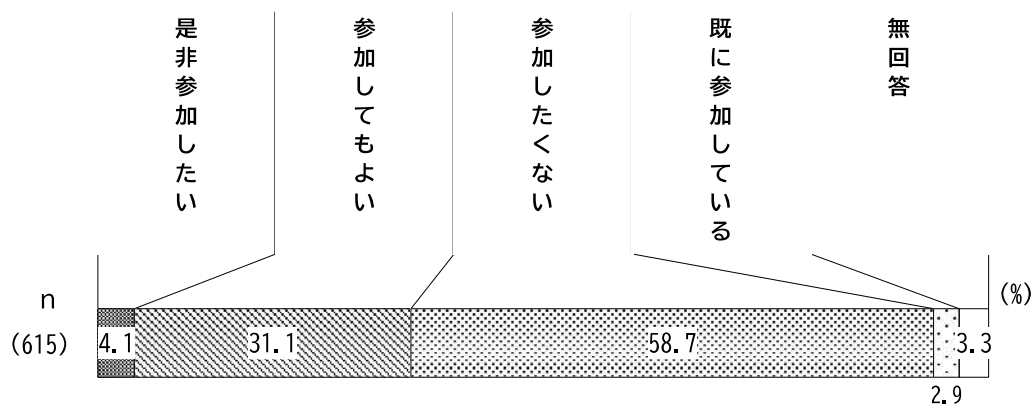
「是非参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」を合わせて56.6%で、参加者としての参加には、過半数が参加に前向きな回答となっています。



(3) 地域での健康づくり活動や趣味等のグループ活動・企画・運営としての参加意向

問49 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。(○はひとつ)

「参加したくない」が58.7%で最も高く、企画・運営としての参加には過半数が参加に消極的な回答となっています。

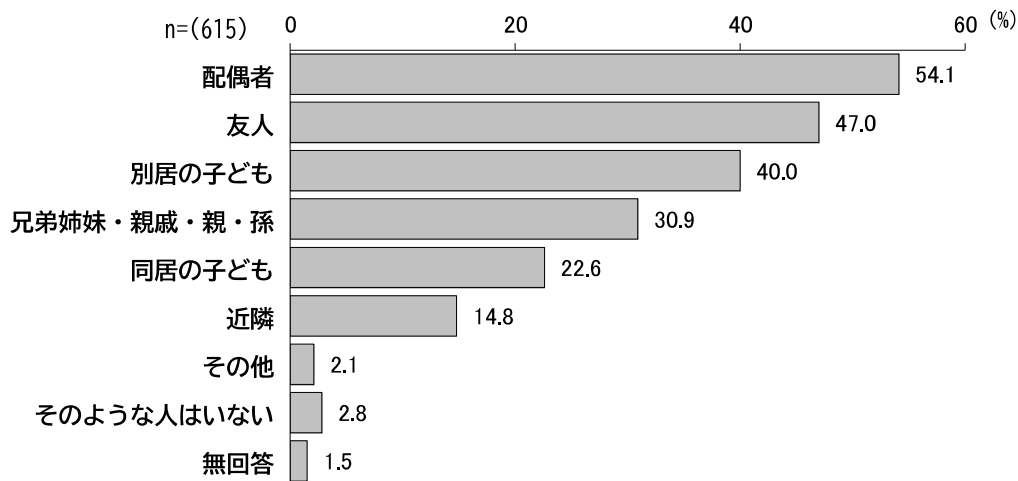


7. たすけあい

(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人

問50 あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（いくつでも）

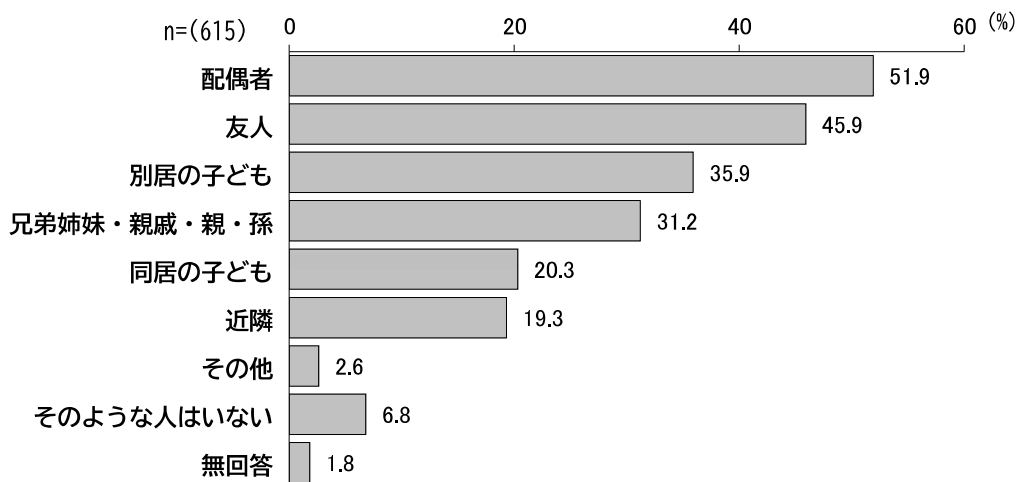
「配偶者」が54.1%で最も高く、次いで「友人」が47.0%、「別居の子ども」が40.0%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が30.9%となっています。



(2) 心配事や愚痴を聞いてあげる人

問51 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（いくつでも）

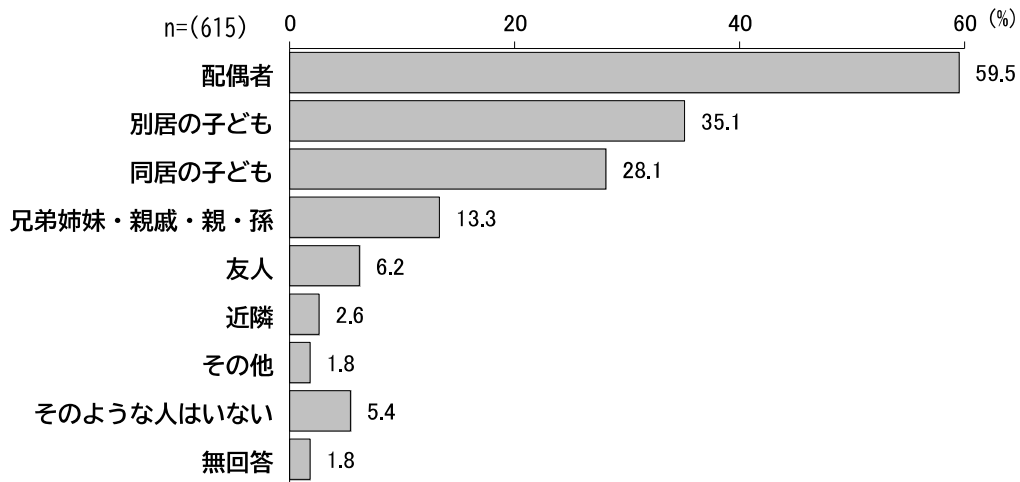
「配偶者」が51.9%で最も高く、次いで「友人」が45.9%、「別居の子ども」が35.9%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が31.2%となっています。



(3) 看病や世話をしてくれる人

問52 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（いくつでも）

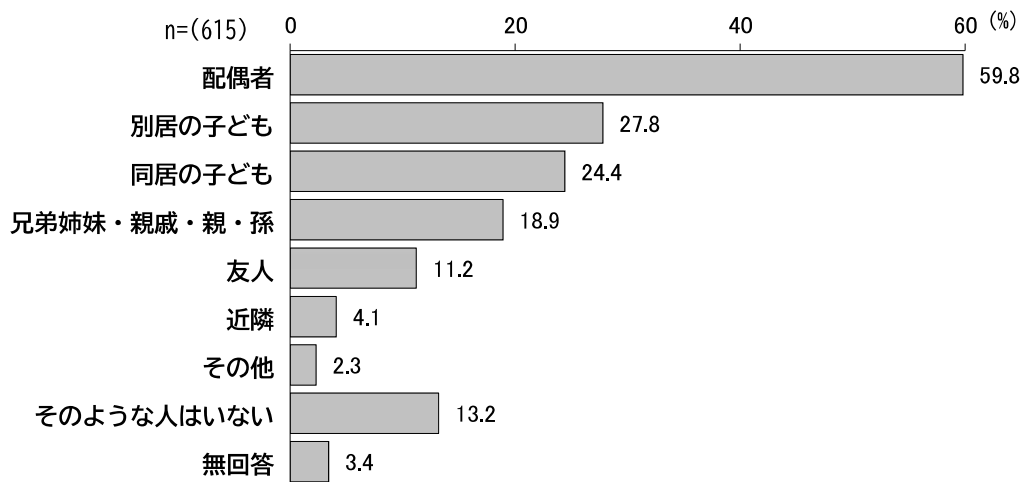
「配偶者」が59.5%で最も高く、次いで「別居の子ども」が35.1%、「同居の子ども」が28.1%となっています。



(4) 看病や世話をしてあげる人

問53 反対に、看病や世話をしてあげる人（いくつでも）

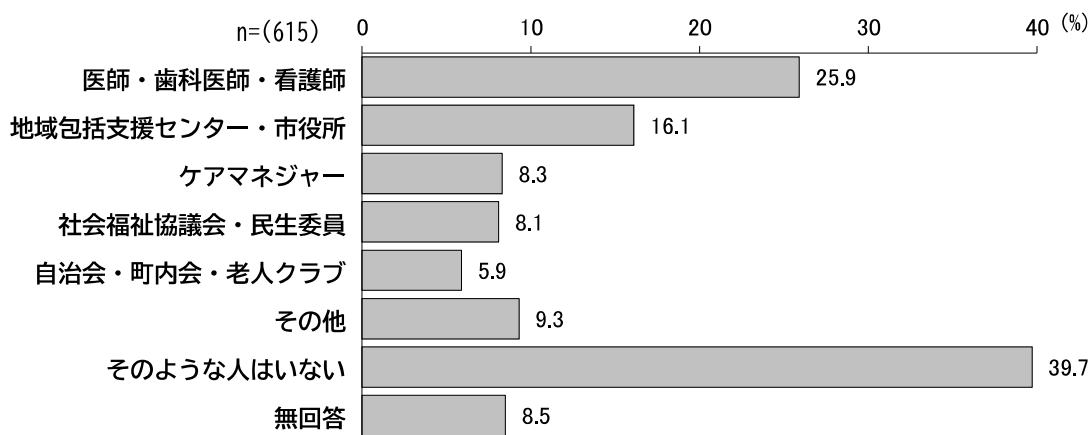
「配偶者」が59.8%で最も高く、次いで「別居の子ども」が27.8%、「同居の子ども」が24.4%となっています。



(5) 家族や友人・知人以外で相談する相手

問54 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。
(いくつでも)

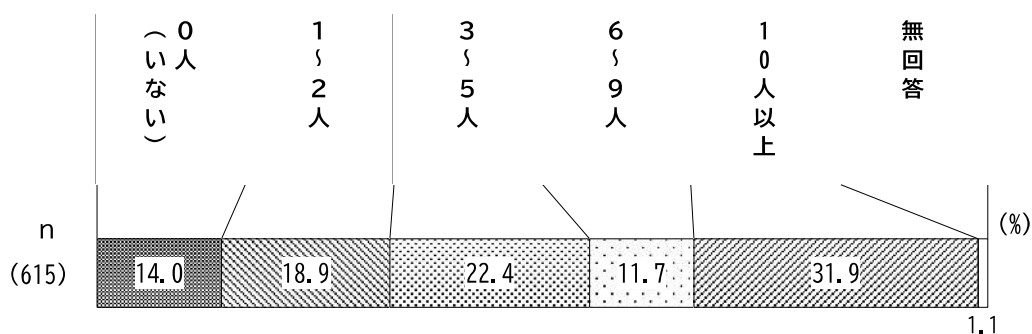
「医師・歯科医師・看護師」が25.9%で最も高く、次いで「地域包括支援センター・市役所」が16.1%となっています。一方「そのような人はいない」が39.7%となっています。



(6) 1か月間で会った友人・知人の数

問55 この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。同じ人には何度会っても1人と数えることとします。(〇はひとつ)

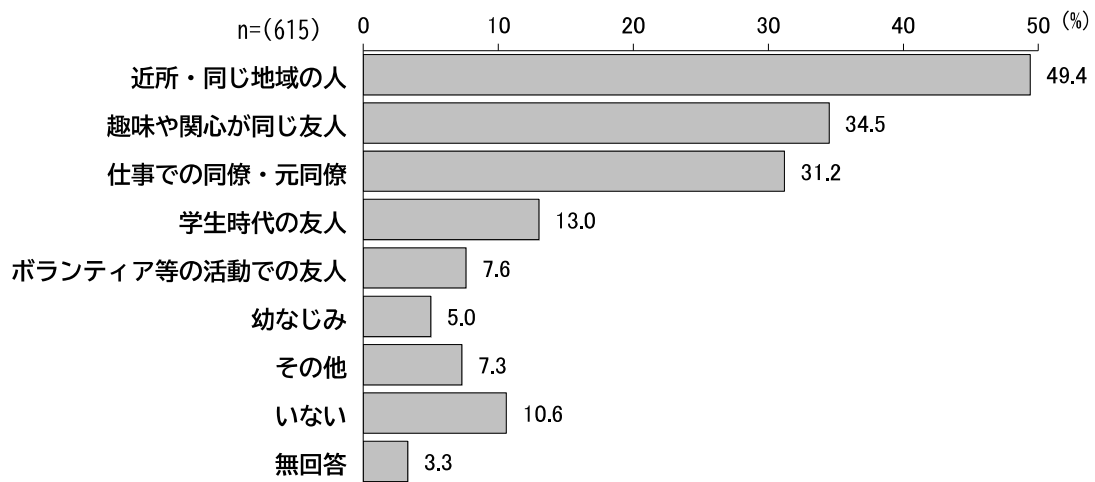
「10人以上」が31.9%で最も高く、次いで「3～5人」が22.4%、「1～2人」が18.9%となっています。



(7) よく会う友人・知人との関係

問56 よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。(いくつでも)

「近所・同じ地域の人」が49.4%で最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」が34.5%、「仕事での同僚・元同僚」が31.2%となっています。



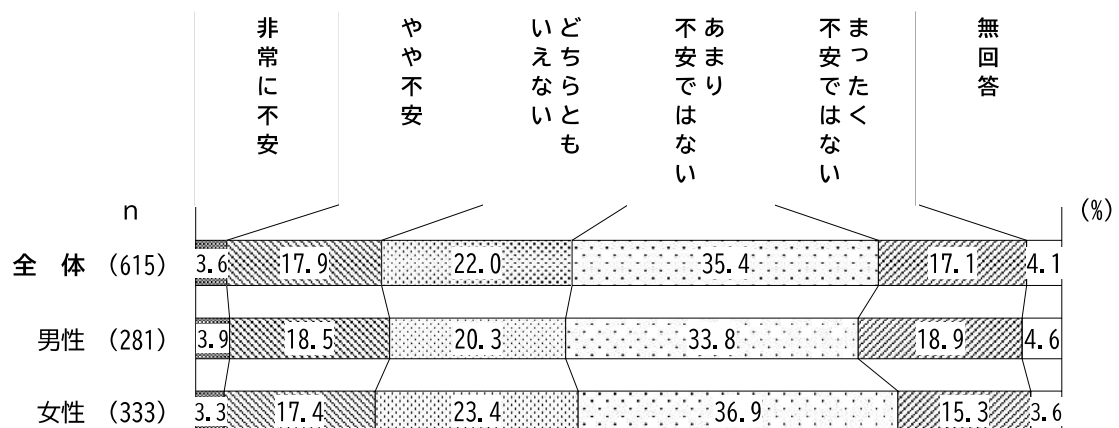
(8) 孤独や孤立への不安

問66 孤独や孤立への不安を感じていますか。(○はひとつ)

「あまり不安ではない」が35.4%で最も高く、次いで「どちらともいえない」が22.0%、「やや不安」が17.9%、「まったく不安ではない」が17.1%となっています。

〈性別〉

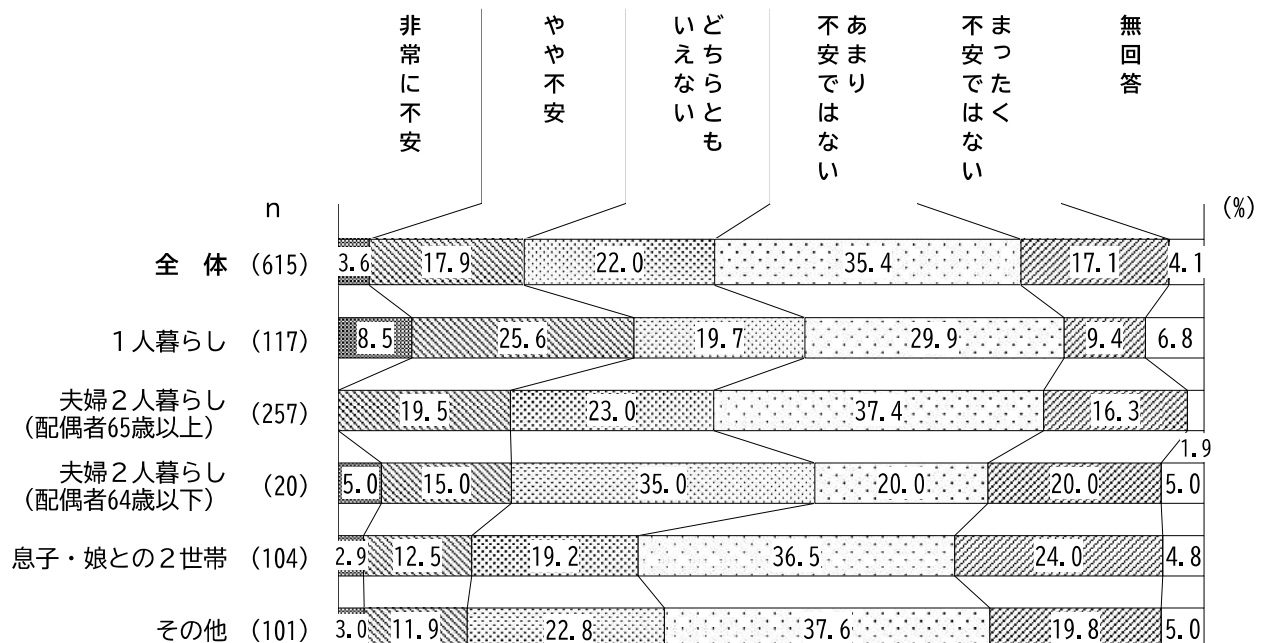
性別にみると、大きな差はみられません。



〈世帯構成別〉

世帯構成別にみると、1人暮らしは「非常に不安」「やや不安」を合わせた『不安』が34.1%と他の世帯構成より高くなっています。

一方、息子・娘との2世帯は「あまり不安でない」「まったく不安ではない」を合わせた『不安ではない』が60.5%と他の世帯構成より高くなっています。

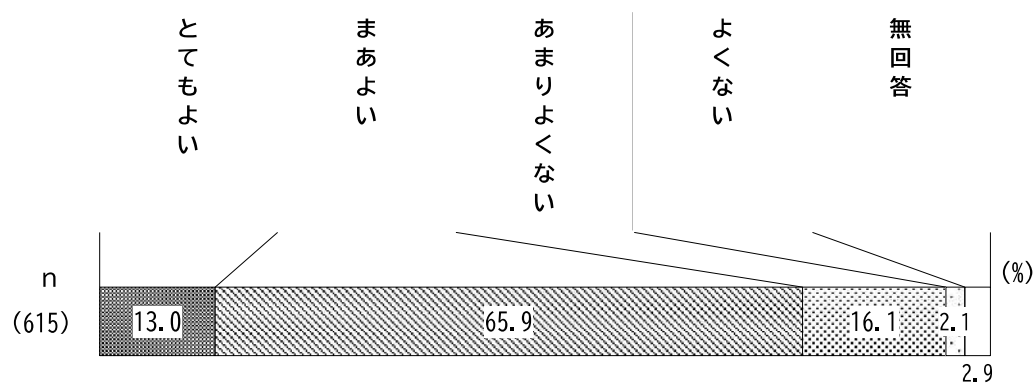


8. 健康

(1) 健康状態

問57 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(○はひとつ)

「まあよい」が65.9%で最も高く、次いで「あまりよくない」が16.1%、「とてもよい」が13.0%となっています。



(2) 幸福度

問58 あなたは、現在どの程度幸せですか。（「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、点を○で囲んでください）

「8点」が22.6%で最も高く、次いで「5点」が16.9%、「10点」が16.1%となっています。

〈年齢別、性・年齢別〉

性・年齢別に平均点をみると、男性はすべての年代で女性より低く、なかでも85歳以上が6.92点、70歳～74歳が7.02点と低く、女性がそれぞれ7.60点、7.65点と高くなっているのとは対照的になっています。

	n	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	(%) 無回答	(点) 平均
全 体	615	0.2	-	0.3	2.3	2.1	16.9	8.5	15.9	22.6	10.2	16.1	4.9	7.32
65歳～69歳	91	-	-	-	3.3	2.2	9.9	13.2	19.8	31.9	9.9	8.8	1.1	7.26
男性／65歳～69歳	39	-	-	-	7.7	2.6	12.8	5.1	20.5	30.8	12.8	7.7	-	7.10
女性／65歳～69歳	52	-	-	-	-	1.9	7.7	19.2	19.2	32.7	7.7	9.6	1.9	7.37
70歳～74歳	131	-	-	1.5	3.1	-	18.3	3.8	22.1	24.4	7.6	17.6	1.5	7.33
男性／70歳～74歳	68	-	-	1.5	5.9	-	20.6	5.9	17.6	25.0	7.4	13.2	2.9	7.02
女性／70歳～74歳	63	-	-	1.6	-	-	15.9	1.6	27.0	23.8	7.9	22.2	-	7.65
75歳～79歳	177	-	-	-	2.3	2.3	16.4	7.9	11.9	20.9	12.4	18.6	7.3	7.49
男性／75歳～79歳	82	-	-	-	2.4	-	18.3	4.9	13.4	22.0	13.4	13.4	12.2	7.43
女性／75歳～79歳	95	-	-	-	2.1	4.2	14.7	10.5	10.5	20.0	11.6	23.2	3.2	7.53
80歳～84歳	109	0.9	-	-	0.9	2.8	18.3	11.0	17.4	18.3	9.2	15.6	5.5	7.18
男性／80歳～84歳	40	2.5	-	-	2.5	-	15.0	12.5	20.0	22.5	5.0	15.0	5.0	7.08
女性／80歳～84歳	69	-	-	-	-	4.3	20.3	10.1	15.9	15.9	11.6	15.9	5.8	7.25
85歳以上	106	-	-	-	1.9	3.8	20.8	8.5	9.4	19.8	11.3	17.0	7.5	7.27
男性／85歳以上	52	-	-	-	3.8	5.8	25.0	9.6	5.8	17.3	7.7	17.3	7.7	6.92
女性／85歳以上	54	-	-	-	-	1.9	16.7	7.4	13.0	22.2	14.8	16.7	7.4	7.60

〈生きがいの有無別〉

生きがいの有無別に平均点をみると、生きがいありは7.88点で、思いつかないの6.36点より高くなっています。

	n	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	(%) 無回答	(点) 平均
全 体	615	0.2	-	0.3	2.3	2.1	16.9	8.5	15.9	22.6	10.2	16.1	4.9	7.32
生きがいあり	366	0.3	-	-	0.8	1.1	9.3	6.6	16.7	26.0	13.9	21.3	4.1	7.88
思いつかない	221	-	-	0.5	5.0	4.1	30.3	11.8	14.5	17.2	3.6	7.2	5.9	6.36

〈活動の参加頻度別〉

活動の参加頻度別に平均点をみると、週1回以上活動に参加しているは7.49点、週1回未満活動に参加しているは7.57点と、全く活動に参加していないの7.00点より高くなっています。

		(%)												(点)
	n	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答	平均
全 体	615	0.2	-	0.3	2.3	2.1	16.9	8.5	15.9	22.6	10.2	16.1	4.9	7.32
週1回以上活動に参加している	260	-	-	-	2.3	1.2	13.8	10.8	15.4	25.0	8.8	18.5	4.2	7.49
週1回未満活動に参加している	141	-	-	0.7	0.7	2.8	14.9	5.0	17.0	22.0	14.2	17.7	5.0	7.57
全く活動に参加していない	162	0.6	-	-	4.3	2.5	19.8	8.6	16.0	22.8	8.6	12.3	4.3	7.00

■うつ傾向リスク判定

ア 設問と評価

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、2項目のうち1項目以上に該当する人をうつのリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

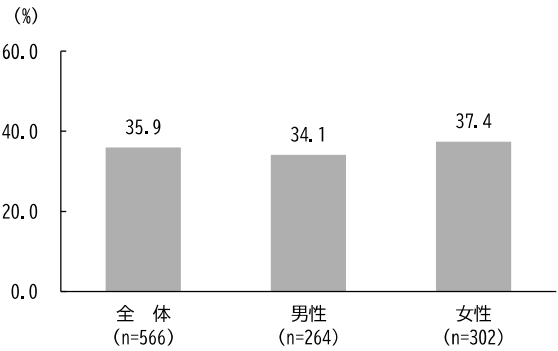
問番号	設問	該当する選択肢
問59	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	1. はい
問60	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	1. はい

イ 評価結果

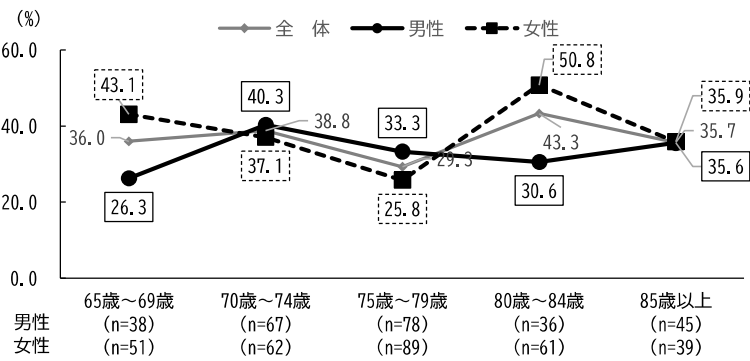
結果をみると、一般高齢者566人のうち、35.9%（男性34.1%、女性37.4%）が該当者となっており、女性の方が高くなっています。

性別・年齢別にみると、男性70歳～74歳、75歳～79歳で女性よりも高くなっています。また、女性では80歳～84歳が50.8%で最も高くなっています。

【該当者割合】



【性別・年齢別】

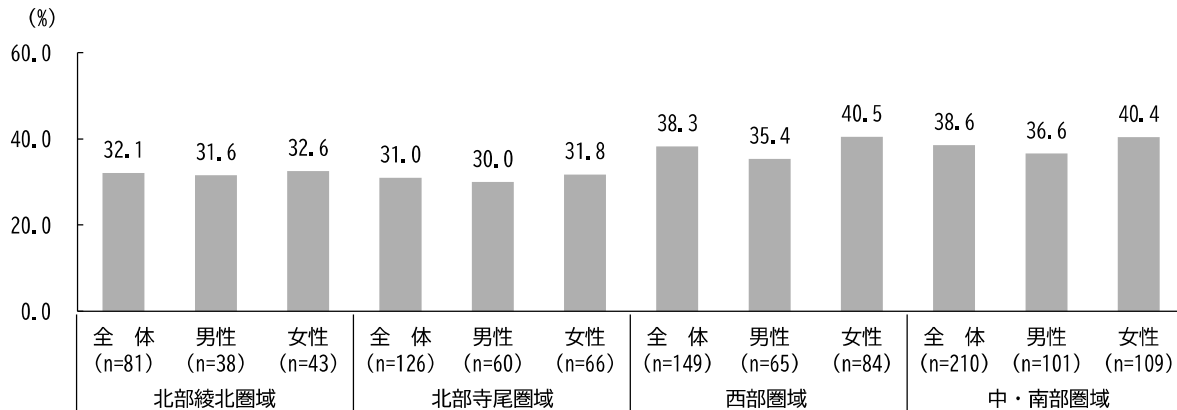


日常生活圏域別にみると、中・南部圏域が38.6%で最も高くなっています。

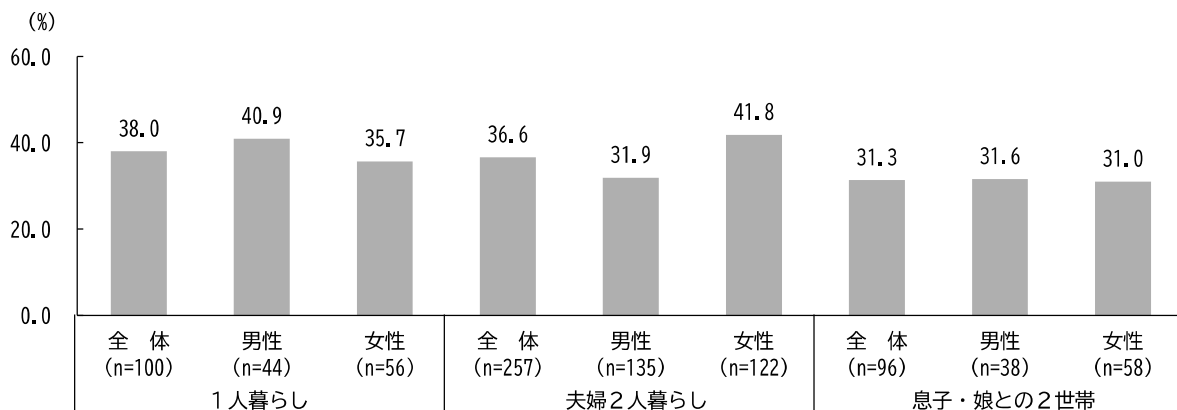
世帯構成別にみると、1人暮らしが38.0%で最も高くなっています。

認定状況別にみると、一般高齢者が35.9%に対して、要支援者では50.0%となっており、14.1ポイント高くなっています。

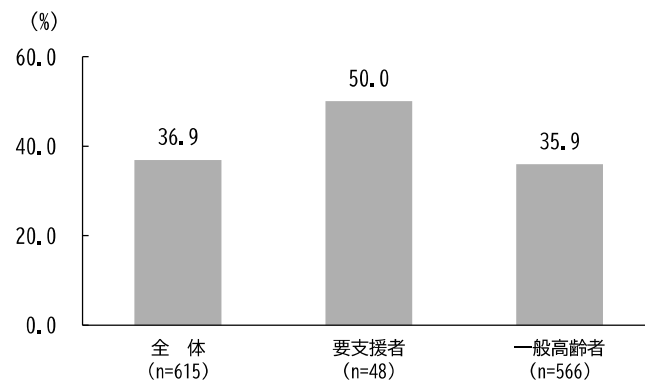
【日常生活圏域別・性別】



【世帯構成別・性別】



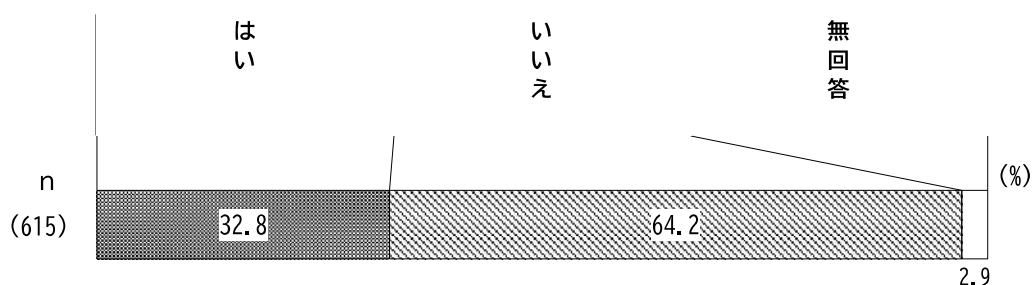
【認定状況別】



(3) 気分の落ち込み

問59 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。(○はひとつ)

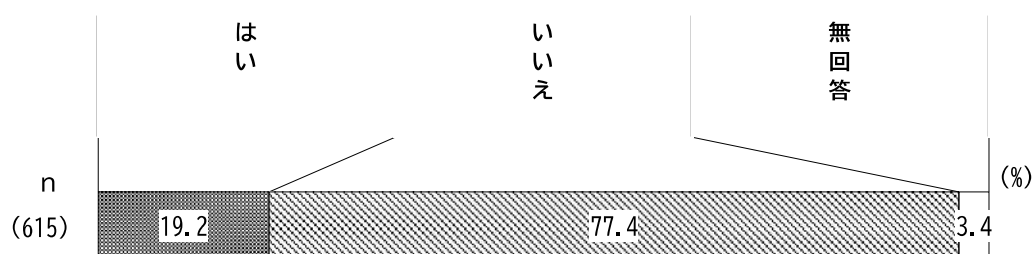
「はい」が32.8%、「いいえ」が64.2%となっています。



(4) 物事への興味

問60 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。(○はひとつ)

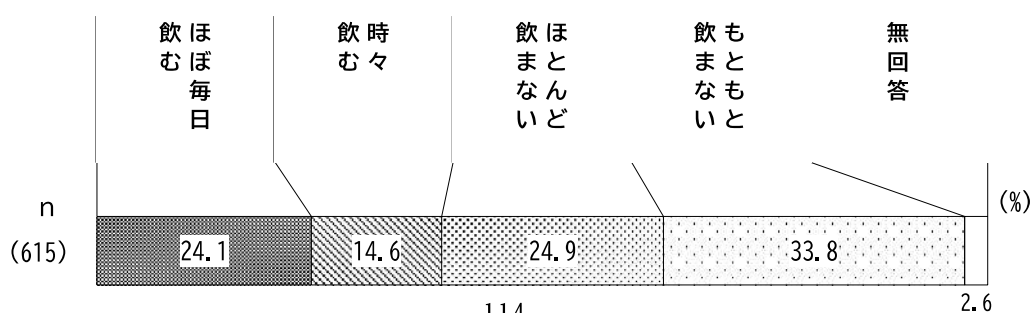
「はい」が19.2%、「いいえ」が77.4%となっています。



(5) 飲酒頻度

問63 お酒は飲みますか。(○はひとつ)

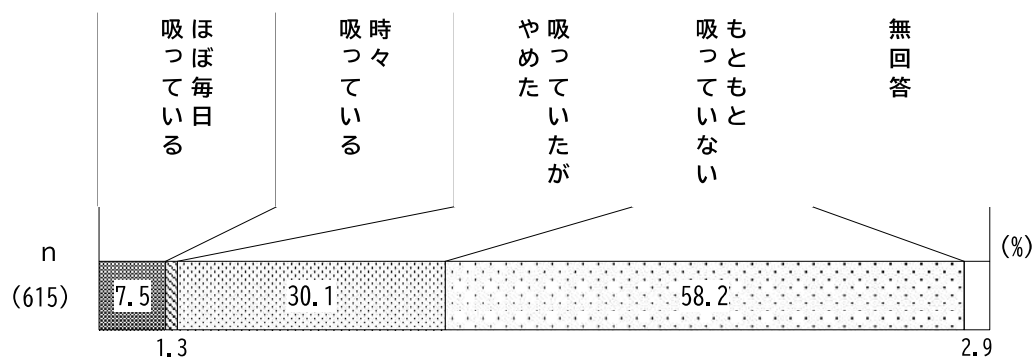
「もともと飲まない」が33.8%で最も高く、次いで「ほとんど飲まない」が24.9%、「ほぼ毎日飲む」が24.1%となっています。



(6) 喫煙頻度

問64 タバコは吸っていますか。(○はひとつ)

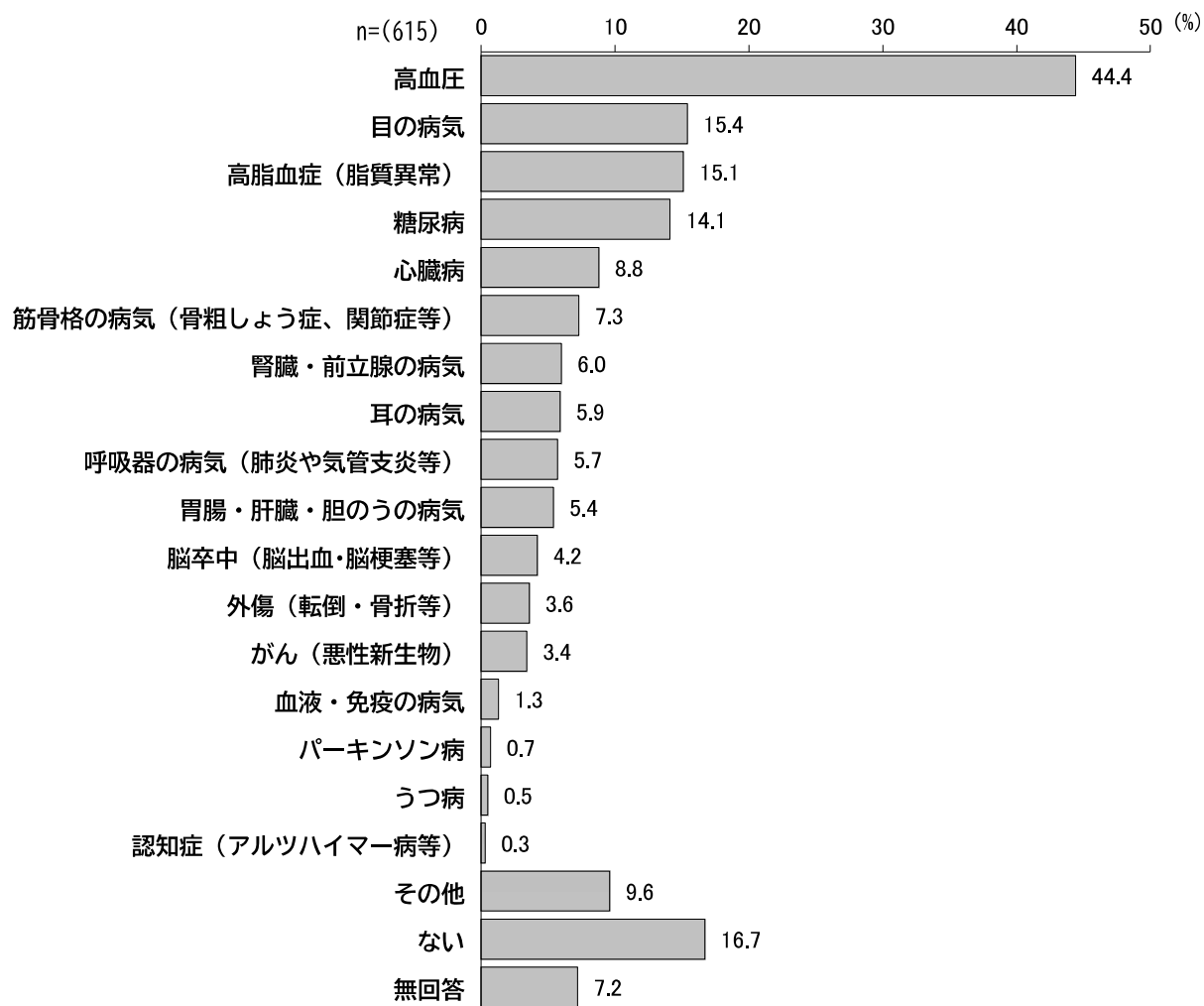
「もともと吸っていない」が58.2%で最も高く、次いで「吸っていたがやめた」が30.1%となっています。



(7) 病気の有無

問65 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(いくつでも)

「高血圧」が44.4%で最も高く、次いで「目の病気」が15.4%、「高脂血症（脂質異常）」が15.1%となっています。

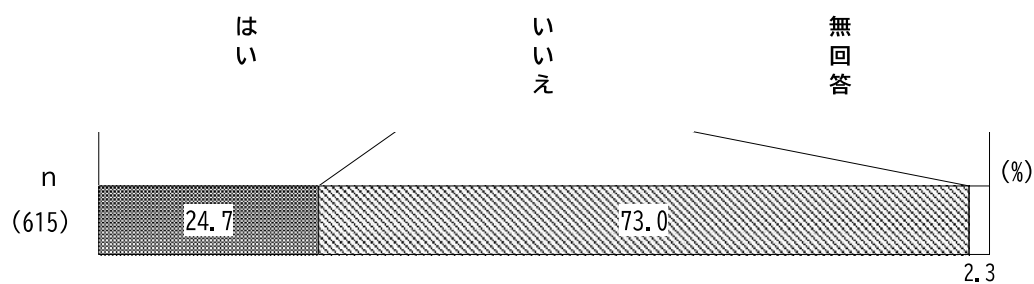


9. 仕事

(1) 就労状況

問8 現在収入のある仕事をされていますか。(○はひとつ)

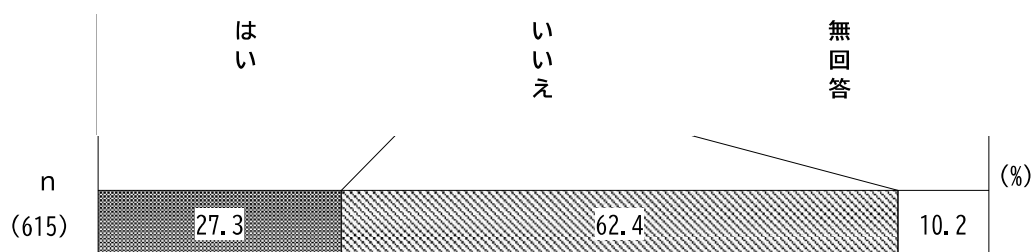
「はい」が24.7%、「いいえ」が73.0%となっています。



(2) 今後の就労意向

問9 この仕事を継続して続けたい、または、新たにお仕事を始めたいと思いますか。
(○はひとつ)

「はい」が27.3%、「いいえ」が62.4%となっています。

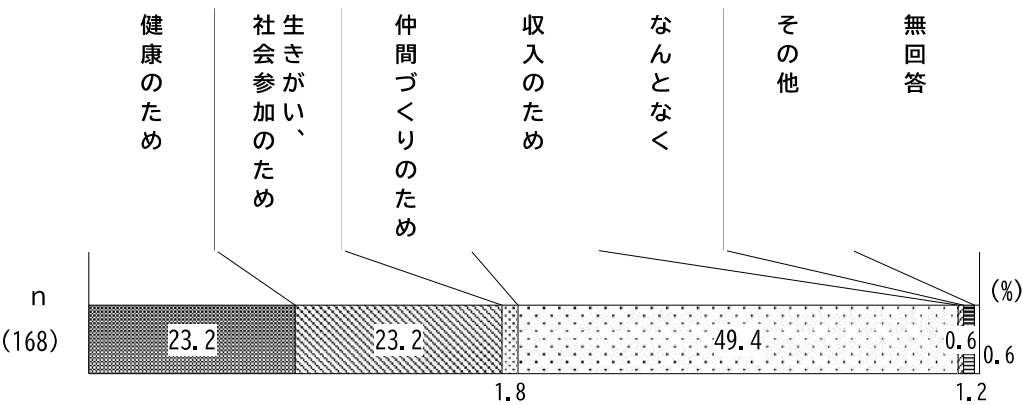


(3) 今後就労意向ありの理由

問9で「はい」とお答えの方におたずねします

問9－1 仕事をしたい、新たに仕事を始めたいと思われる理由は何ですか。(○はひとつ)

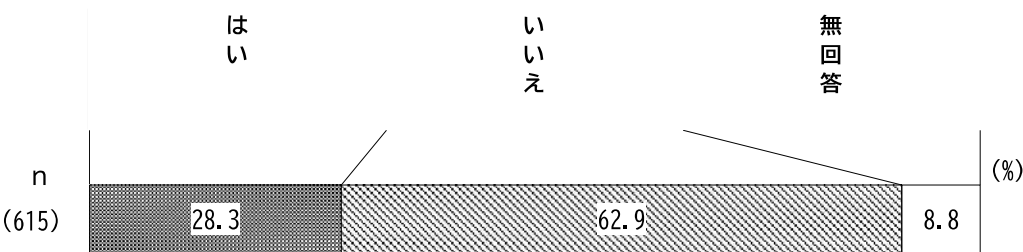
「収入のため」が49.4%で最も高く、次いで「健康のため」「生きがい、社会参加のため」がともに23.2%となっています。



(4) アクティブ・シニア応援窓口の認知度

問10 仕事やボランティア、地域活動、サークルなど活動・交流の場を紹介している「アクティブ・シニア応援窓口」を知っていますか。(○はひとつ)

「はい」が28.3%、「いいえ」が62.9%となっています。

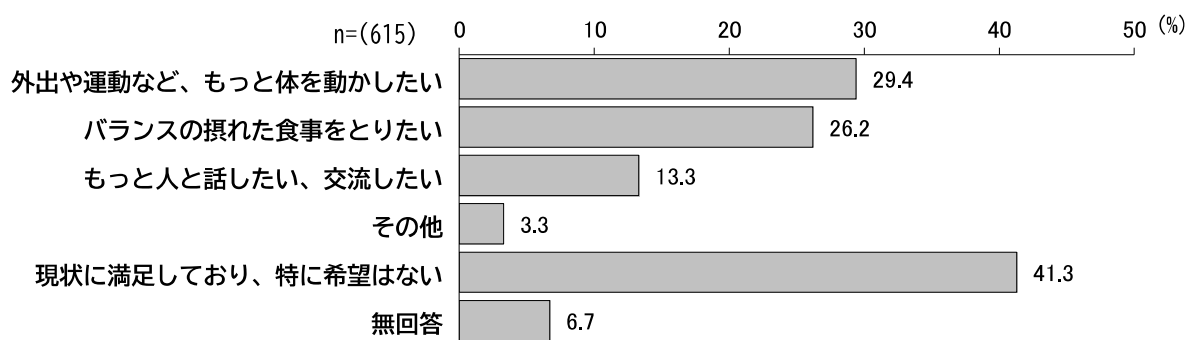


10. 今後希望する暮らし

(1) 心身の健康に関して希望すること

問73 これからの生活において、心身の健康に関してどのような希望がありますか。
(いくつでも)

「外出や運動など、もっと体を動かしたい」が29.4%で最も高く、次いで「バランスの摂れた食事をとりたい」が26.2%となっています。一方「現状に満足しており、特に希望はない」が41.3%となっています。



11. 自由記述

問74 市の高齢者福祉事業等へのご意見やご要望がございましたら、なんでも結構ですので、ご自由にご記入ください。

市の高齢者福祉事業等に対して、計136件のご意見・ご要望がありました。内訳としては、「制度・行政」49件、「情報入手・提供」14件、「将来への不安」8件などとなっています。なお、分類が重複するご意見は、「その他」に集約して掲載しています。

〈内訳〉

	分類	件数
1	制度・行政	49
2	情報入手・提供	14
3	将来への不安	8
4	経済的支援・負担	5
5	アンケート調査	2
6	その他	58
	合計	136

1 制度・行政

- ・市内の道路の補装、古い歩道の歩きにくさ、でこぼこが多い（部分修理でしょうか）。
- ・82才と高齢になり、体力や気力の減退を感じるようになりました。老人会の市老連の活動も、市の都合で大幅に縮小されてきました、残念です。免許返納や活動の足がないこと、役員の成り手がない事…未来がありません！！市内のコミュニティー交通網の整備を充実してほしく願っています。いつまでも元気と活力が増進できる街づくりを！！
- ・コロナで中止されたままになっている高齢者福祉会館内のお風呂を開いてほしい。
- ・1人暮らしで低収入の70歳以上から希望した人を1ヶ所に集めて暮らしていける様に切に願います。それをする事によって老後の心配や悩み事が少しでも無くなり、良い一生の終わりが過ごせると、いつも思っています。
- ・バス路線が充実していないので、市役所に行くのにバスでは不便である。（上土棚南～市役所）代替の交通手段を望む。
- ・コミュニティバスが家の方に来ないので利用出来ません。路線を広げるようお願いします。
- ・現在、自治会の本部役員を担当しているが、年々後継者の担い手が不足し、辞めることができずに困っている。自治会自体の存在意義も薄くなり、脱退者が急増していて高齢者のみならず、今後の地域活動の有り方の方向性が求められていると感じている！

- ・綾西在住、海老名駅までのバス運賃が高いため外出できない。もっとコミュニティバスを活用したいが本数がない。運転免許証を返納したいがつい自家用車を使ってしまう。今は夫も高齢で運転しているが事故の不安は拭えない。市の中心部に商業施設がほしい。タウンヒルズのようなものはもう望めないのか！！
- ・財産管理、一人になった時の相談窓口、家財・家電などの処分について。
- ・充実した一日を過ごす事がケガや認知症を遠ざけてくれる様な気持ちになります。個人差、男女差があって難しいでしょうが近くの公園の居心地が良いと嬉しい。
- ・綾西地区では買物が出来ない。スーパーがほしい。
- ・これから多くなると思いますので、相談事を聞いて頂いて前に進めていけたら助かります。
- ・地域包括支援センターに月一回お世話になっております。とても楽しみに出かけております。月二回ぐらいを希望します。
- ・現在は特にありません。しかし身近な問題であるとは常々感じっております。往復、4時間の通勤が痛勤になって来ました。市内に身近な鉄道駅がほしい。
- ・健康長寿を促進事業の推進（医療費の削減を目指す。）
- ・今は自分で車を運転して買い物に行けるが、運転ができなくなった時、大きな買い物重いものを買う時、どうしたら良いか心配。銀行にも行けなくなったら、誰を信じて頼めるのかも心配。
- ・外出時の移動手段をもっときめ細かく配慮していただきたい。
- ・上土棚北地区には自治会館があるだけで病院もスーパーもないのでとても不便です。特に耳鼻科と皮膚科を誘致してほしいです。
- ・妻が認知症で介護度2ですが特別養護老人ホームへの入居申込を将来したいのですが綾瀬市は特養の施設が少ないので施設を増設していただきたい。
- ・綾瀬は高齢者が住むには不便だと思う。今は運転できるが特に最近タウンヒルズがなくなりそれを感じました。中央に何にもない感じです。複合施設があれば子供～中高生、大人、年寄とで福祉事業ではありませんか？
- ・介護を受けるのに1ヶ月以上認可が下りないのは厳しい。
- ・全体的に高齢者にやさしい社会となってほしい。
- ・デジタル社会も良いけれども、携帯電話やライン等、簡単に操作が出来る器具があれば貸与してほしい。
- ・散歩やウォーキングの環境の充実、例えば長峰の森に散策路をつくるなど。
- ・健康であるうちに、介護に関する知識・支援制度等の情報を得たい。TV・新聞等で将来の介護について人手不足による課題が報じられています。市でしっかり取り組んでほしい。
- ・福祉の充実。
- ・福祉は通り一遍。市の福祉課へ相談に行っても通り一遍。何の役にも立たない。とことん相談を受けてくれることはない。全く市行政については信用していない。
- ・デジタル化が進んで、全体的に感じるのですが特に窓口で1人で行くことに不安を感じてしまうことがある。
- ・現在外出の手段が徒歩又はバス等ですが、徒歩がきつくなって来てバス等の便も悪いので外出が減ってきた感がある。

- ・老人の集まれる場所がほしいですね。皆さんが楽しく話したり歌ったり手助け出来る所。綾瀬に電車が入ってほしいです。
- ・綾瀬タウンヒルズが解体されたので、買物や休憩などに良く利用していたが現在そのような場所が近くにないため、バスを（路線）利用して、海老名駅周辺まで、出掛けなくてはならず、とても不便に思います。近くに気楽に出掛けて、楽しめる、複合施設を是非作っていただきたいと熱望します。
- ・タウンヒルズがなくなり、気軽に集える場所がなくなってしまった。元気な年寄りでも通えるもっと充実した老人福祉センターを作してほしい。
- ・困ったことがあったら、相談したいです。お願いします。
- ・一人暮らしの方に、緊急時用の電話を設置してほしいです（自宅に）。他の市では設置済のところがあります。
- ・高齢者の活動できる場所（自宅に近いコミセン等）。とにかく交流の場所を増やしてほしい。
- ・元同僚と月1度食事をして、タウンヒルズでお茶を買い、ゆっくり何時間でも話をしていましたが、今その場所がない。お店は必要でないのが出店し、タウンヒルズのいろいろな店が入店してないので楽しみが無くなりました。福祉事業に直接関係がない…と思いましたが交通の不便な綾瀬です。宜しくお願いします。
- ・今は車の運転が出来るので不自由はありませんが免許を返納した場合一番困るのは足の問題。市役所までは相鉄バスがありますがその他の施設、例えばプラザは徒歩ではいけません。コミバスは一部の地域しか運行していなくて不公平さを感じます。コミバスの市内循環線の運行があると便利になると思いますが。
- ・今は健康体のため、車の運転や徒歩が思いのままできるが、体が不自由になった時、通院や、買物などの移動手段が困難になる→福祉車両などの充実→民間との連携。周囲の人に迷惑をかけないという強い意識と、健康管理を常に心掛ける事。意識改革が必要→この様な啓蒙活動講座の開設。
- ・プライバシー配慮の時代で、昔のような近所付き合いや近所に生活商店がなく、高齢者や独居者の生活が難しい。日本の良かった文化を呼び戻すようにしないと若者偏重の世の中になってしまう。
- ・近くの公園等の遊具に筋力の低下をふせぐための遊具等の設置があると助かるのですが。雨や強い風などの時の過ごせる場が新しくできると楽しみが増える、外出する喜びが味わえるのです。何か施設でも。簡単なウォーキングができるような場所が増えていったら。市内は駅が無いので、バスや何かで外出することの負担が軽減できる方法があったら良いですね。
- ・コミュニティバスの増便。買物難民対策のため。
- ・元気な高齢者の活用をもっと積極的に考えたら如何でしょうか。例えば学校を接点とした若者との交流。自治会の活性化等々。
- ・綾瀬市は交通が不便なので沢山の交通機関がほしい。
- ・エレベーターのない中高層集合住宅に住んでいます。住宅のバリアフリー化に市は補助金を出しているようですが、最近、人が乗って階段を上下できる電動車両が開発され販売されているようです。そういうものに対して補助金を付与するように検討していただきたい。

- ・デイサービスを利用したい、いずれ老人ホームへ入居したく、相談できる場所を行きたい。
- ・運転免許を返納した者として、市長に聴いていただきたい！！路線バスの利用に頼るしかない者にとって路線バスは行動する源です。運転手さん不足は分かりますが「市内全域」特に「市役所」行バスの運行を現在より出来る限り多く願います。
- ・足、腰が弱くなり、催し物等を見に行きたいと思うのですが、交通の便が悪く諦めることがしばしば。皆さんはどうされているのでしょうか？
- ・現在、動けますが、運転（車）が出来ないので、主人が返納すると色々と不便です。乗り合いタクシー（お買い物タクシー）を利用させて頂く事が多く起らない様に、日々、歩きで、足腰強化に努力しています。年寄りが気楽に立ち寄ってお茶、話の出来る場所を城山周辺に、あると嬉しいです。（毎日立ち寄れる所）年寄りの病院通院乗り物が有ると（年齢が進むと）城山にもほしいですね。

2 情報入手・提供

- ・夫が認知症になり夜の排便で私が眠れなくなり私は薬で寝ていますが夜中の1時、2時とかに起こされ、洗濯することが多くなり不安ばかりです。もし経験者からお話が聞けたらと思います。
- ・脊柱管狭窄症にならないように、又なった人への体質直し等の取り組みにも情報提供がほしい。
- ・パーキンソン病に関する支援があれば知りたい。
- ・広報に認知症の予防法や食生活のあり方等を理解しやすい内容で知らせてほしい。（漢字は大きくして提示してほしいです。）
- ・健康状態によっては、入所する、施設等に付いて、相談する所が知りたい。老人ホーム等。
- ・高齢者福祉事業は、そもそもどのような事をしているのかもよく知らない市民がほとんどではないでしょうか？今後を見守っています。
- ・老人会に入会したいのですがどのようにすればいいのかわからない。
- ・あまり良く知らない。
- ・地区センターや福祉会館等で行き易い場所で、簡単な手先のこと、運動など教えて頂ける機会があると良いと思う。有料でも。
- ・インターネット以外での情報を分かりやすくして頂ければ、助かります。中々、携帯電話を使いこなせないのです。
- ・認知症等はその状況にならないと、わからないので医療機関、介護サービスの情報提供を充実して頂きたい。
- ・先日、インフルにかかり、発症しなかった主人が世話してくれましたが、1人だったらどうなっていたかと不安が募りました。別居の子供達は多忙だし、近隣に世話になるほど付き合いがない。（若い世帯が多い地域で）70代の夫婦は、健康に気をつけ、困った時の対策を再確認する必要を感じました。地域包括支援センター、社会福祉協議会、民生委員等の「お知らせ」（勉強）など、よく見るようにしたいです。
- ・介護に対しての情報を、もっと発信してほしいです。
- ・身内の病気等で急に相談にのって頂ける機関などが簡単にわかる方法が知れると助かるかも、24時間体制で今は必要がなくても、急に必要となるのが少し不安です。

3 将来への不安

- ・団塊の世代が、高齢期を迎える時代、介護保険、介護福祉等、どのように、対応が変化していくのか、気掛かりです。
- ・将来一人になった時、施設に入りたいと思っていますが、その時入れる所があるかどうか心配です。
- ・私は86歳だし、娘は62才なのでこの先どうなるか心配です。(障がい者です)
- ・いくつまで今の生活を維持して行けるか、不安になることもあります考え過ぎないようにしています！
- ・これからは、高齢者が増えてくると思いますので、よろしくお願い致します。
- ・高齢化社会の進む中、N E Tやプリペイド支払等が進み、理解や対処が出来なくて生活しづらい。
- ・今は大丈夫ですが、10年先には不安があります。
- ・今は体も特に悪いところもなく、福祉事業への知識もあまりありません。今後体力がおとろえる時の事を考えると、すこし勉強しておかなければと思っています。

4 経済的支援・負担

- ・年金収入だけの生活は、大変であり、働いたら介護保険国民健康保険、住民税と税金の割り合が多い為になんとかしてほしいと思います。年寄りの僅かな収入から取らないで下さい。
- ・子供支援ばかりでは無く、もっと低所得者世帯にも優しい補助をして貰いたいです。
- ・外に出たいが一步出ると何でもお金が掛かる事が憂鬱となり美術館等出掛ける事が少なくなった。もっとお金も掛からずに楽しめる催物があれば目が見えるうちに何度でも出掛けたい。
- ・75歳になった途端、勤務継続中にも関わらず会社健保から後期高齢者医療保険に切り替えさせられた。その結果、保険料は初年度では40%以上、今年度に至っては70%以上も増えている。さらに、給与所得の関係で厚生年金の大部分が支給停止とされているためか、年金からの天引きがされず毎月支払いに行かねばならない手間まで増えている。働く後期高齢者に対する仕打ちの酷さを感じている。もう少し優しい社会になって欲しい！！
- ・介護保険、医療保険等物価高で高すぎるのではないのでしょうか？生活が苦しいです。

5 アンケート調査

- ・回答票は、無記名の方がよい。
- ・お答えを書くのが大変でした。

6 その他

- ・ヘルプマークの様なペンダントがあったら声かけ、見守りしてあげたい。
- ・妻が認知症で、有料介護施設に入居中です。早くに特養に入りたいです（申込中）。私は、「認知症介助士」（民間）を取得しています。
- ・今丁度80歳、毎日運転していますので買物も趣味もアクティブに出来ますが、これで免許がなくなったら地獄です。歩けるのは20分まで、歌も卓球も買物にも行けません。食料調達だけでも大変な事です。90歳位までは運転しなきゃと思っています。
- ・実姉の事でいろいろとお話を聞いて下さり、相談にものって下さいました。残念ながら姉は、亡くなってしまいましたが、残された者の気持ちにまで寄り添って下さり、大変嬉しかったですし、感謝しております。ありがとうございました。
- ・おつかれ様です。今後とも高齢者に対するご支援をよろしくお願い致します。
- ・足腰が弱り、一番大変なのが交通で車がないので思うようにいかない。高齢になると性格や考えが変わらないので40代～60代位の人達のつながりが土台になって支えてほしい。今息子と2人ですが親想いで日々幸せを感じています。
- ・福祉＝生活収入、病気、体調で福祉事業でももっと生活不安にならないよう、福祉でも努力してほしいです。
- ・藤沢、大和等市外への通院するため交通費が大変です（年金生活のため）。朝夕の交通渋滞（スマートインターのため？）住宅街の狭い道が抜け道の様です。
- ・ご苦労様です。大変なお仕事だと思います。自分でなるべくします。ありがとうございました。
- ・長い間スポーツクラブ等のグループに入りにくい（入って行けない雰囲気がある）。
- ・同居の妻が認知症で、退職して5年間、食事、他、介護をしている。要介護1で、近隣の居宅介護支援事業所に相談に行ったら、ケアマネ他受け入れができないとの事で、別の事業所を紹介された。妻は、デイサービスを嫌い、利用できていない。
- ・今後災害等で一時避難所に行く事が出来るか不安である。よって、その他の避難所について（二次等）の知識が必要である（家庭を含めて）。コミバスの利用（活用）。図書館や会館等の利用が必要になって来る？
- ・（耳）補聴器で電話が分からない、知人の声は大丈夫です。ひとり娘が障がい者施設に。
- ・今のところは特にないが、いざ支援が必要になったら市では、どこに相談をするのが一番良いかを知りたいです。
- ・特にありません。このアンケートのとおり、皆さん良く、やられていると思います、感謝！後期高齢者の保険料が高すぎます。年間約60万円。
- ・高齢者向けの料理教室などサークル活動・講座があると参加できればと思っています。
- ・本アンケート調査結果を、どのように市役所高齢政策に活用していくのか、又運営状況などを、定期的に広報等で読めるようにしてもらいたい。
- ・現在の状況で充分です。良く年寄りにかかわっていると思います。
- ・今は考えていません。
- ・老々介護で片方が認知や、車イスになった時の不安やサポート。手続の即時展開と継続。
- ・現在のところは、市の窓口の対応も地域包括支援センターの対応も満足しています。これからも宜しくお願い致します。

- ・週4日アルバイトで忙しい日を送り、土・日は釣り、ドライブ、旅行と有意義に過ごしているので満足しているが、今後、体力がおとろえていくと思うように働く事ができない場合に身体を動かす場所に行き、話し合う仲間を作りたいと思う。
- ・私は綾瀬市に転居して12年程に成ります。以前は**市に3年程とそれ以前は出生地の**市に居住しておりました。**市も綾瀬市も同様の部分アメリカ軍基地での市民に対しての恩恵ですが**市は公共施設の充実、綾瀬市は飛行場の航路下住宅への防音工事等のサービスこれは、防衛庁の予算でしょうが綾瀬に来て本当に良かったと感じております。高齢者福祉事業も同じに感じております。
- ・独り暮らしになった時の不安が大きい。その時の窓口は充実しておいてほしい。
- ・脳梗塞等の同じような病気をした人と交流したいが、あまり会えないのが淋しい。よく散歩に行くが、途中座って休めるような場がない。座って休めるようなイス等が地域に全くないと、いつも不満に思っており、散歩回数が減っている。遠くまで行けなくなった。唯一、散歩に出て休めるのは、少し離れたところにあるパチンコ屋さん、冷房が効いている。トイレが使える。座って休める。飲み物が売っており、水分補給できる。時に人と会話できる。テレビも見られるなど条件がそろっている所なのである。もっと高齢者が気軽に外に出て、世間話できる場が必要だと考えている。場所を予約して使うのではなく、行き当たりばったり出会える場が、あちこちにあるとよいのに。歳をとると家に閉じこもりがち、不健康である。家以外に過ごせる場、茶飲み友達が必要なのだと思う。
- ・今のところ福祉事業等がどんなお仕事をなさっているか分かりませんので、これから勉強して行きます。
- ・現在の所は自立生活を維持出来てはおりますが、いつ何時「明日は我が身」を自覚にて日々小さな努力＝学びを継続、何かの時はお世話になるかも知れません。その節はよろしく。
- ・今現在、警備員として現場へ出たり、資格者であるので教育の立案、部下の指導等仕事のことで忙しく、収入に結びついているので会社に感謝しています。
- ・私は今の所スポーツジムに通うので、出来る事があればお手伝いしても良いと思う。
- ・夜一人でいるとお風呂・家の中で倒れたらどうしようと不安になる。
- ・まだ人の助け無く暮らせているので身近に感じない。
- ・今後は福祉にお世話になるかと思いますので、よろしくお願いします。
- ・年末に向けて自分の会社を解散し、今後収入が無くなり、年金のみの生活となるので、この先は不安を感じる。
- ・高齢者の自覚もあまりないので妻としては、不安です。そのうちお世話になるかもなので、今はよろしくお願いします。
- ・人の幸せはコミュニケーションにあり。
- ・本人の立場になって、丁寧に対応していただけたら、ありがたく思います。
- ・高齢者でも趣味、趣向を身につけている人達が多いと思いますので、簡単で手先を動かして出来る物（編物、手芸、折り紙、等々）を曜日によって教えて頂くようにすると老人の居場所が、自然と出来るようになるのではないかと思います。元気で長生きは良いのですが、子供の所に行ってしまった、施設に行ってしまった、入院した等、元気で残る人が多いようで少ない。

- ・データを集める事も大切ですが生活の中で高齢者が生活するのに役に立つ事が少ないです。市内を走るかわせみは本当に助かりますが、市内の病院等に行く事が多々ありますが、病院の開始時間帯やバス停の無い地域などを調べ、かわせみ取り入れ、運行時間や運行場所があると本当に助かる人、使用する人が増えると思います。(建前でない実行を願います)
- ・現在は80を迎え健康ですが、この先を思うと老人ホームに入れるのか心配。綾瀬の高齢施設の状況はどんな様子なのかパソコン、スマホが出来ないので調べられない。冊子などあるのですか。身体認定？費用等（非課税1人暮らし）、条件は厳しいのかな。緊急身寄り所のような所はあるのでしょうか。
- ・自分のことはなるだけ自分でやることにしている。
- ・70歳過ぎてから仕事が見つかり、今、働いています。働いている方が、毎日楽しいです。
- ・両膝から下がしびれている。足が思うように動かない。
- ・コミバスの本数多くして頂きたい（買物に出かけたいが控えてしまう）。近所でコミバス問題、話題が聞かれます。身寄ナシで不安、どう心構えをしたらよいか、死を考えた時、一層深まります。
- ・いつも色々ありがとうございます。
- ・感謝しております。
- ・1人暮らしが長かったため、注意深く生活をしてきました。82才になり、これから先、介護が必要になった時を思うと施設に入所出来るのか、それには費用はどれ位かかるのか、考えると不安が大きくなる事が度々です。
- ・高齢者福祉事業の内容、どのような事を実施しているか等、一般の人は知らない事が多いため、広報とか冊子でお知らせいただくと参考になると思います。よりよい保健福祉になります事願っております、よろしくお願いいたします。
- ・私の近くにあるスーパーは1km位の場所で、歩くのが大変です。今、夫が別のスーパーへ買物に行っていますが、そこへはバスでもあれば私も行くことが出来ると願っています。
- ・お勤めご苦労様です。皆様のご活躍を期待申し上げます。
- ・年を重ねて家に籠るのは良くない、外に出て話をしたり運動をすることが一番だと思います。
- ・超高齢社会となって市区町村の日常業務も多岐にわたっている今日、多忙となっているのでは？と心配しております。ご苦労さまです、皆様くれぐれもご自愛ください。
- ・一人で元気に暮らせて感謝しています。食事が基本なので朝昼夜きちんと食べるように頑張っています。調査して頂いて有難うございます。
- ・趣味のコーナーがいろいろあったらいいと思う。
- ・現在の人々は、老若いずれも関心が無いに等しい時代になりました。その思いやりの精神が現在の世には大きく欠けてきています。昭和は良かったとよく聞くのは、そう言う人情的な部分が欠けて、全く無くなって来たことだと思います。人と人とのつながりは、実は大切な事だと思っています。例えば、年を取った方が転んでも、助け起こす行動をする若者は全員とは言えません。なかには気付く人もいますが、一握りの人達だと思います。
- ・皆様のサポートのおかげで何とか平穩に過ごさせて頂いております。感謝、感謝の毎日です、ありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします。
- ・いつまで仕事が出来ることが、目下の不安！！ではありますが、元気に明るく仕事がしたいと思っています。高齢者への仕事の場を拡げてほしいです。
- ・1人暮らしの方が皆さん安心して老いていけるように祈っております。

